

柳坂遺跡 I

長野県佐久市布施 柳坂遺跡 I 発掘調査報告書

2020. 3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第272集

柳坂遺跡 I

長野県佐久市布施 柳坂遺跡 I 発掘調査報告書

2020.3

佐久市教育委員会

例　言

- 1 本書は佐久市による道路建設工事に伴う柳坂遺跡 I の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市（道路建設課）
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 柳坂遺跡 I （HYS I）
佐久市布施 3692 外
- 5 調査期間及び面積 期間：平成 30 年 7 月 11 日～平成 30 年 11 月 7 日
面積：730 m²
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。
- 8 本調査において出土した遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
D - 土坑 P - ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 掲載挿図について
 - ・第 1 図は、地理院タイルの色別標高図（海城部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成）及び国土数値情報（行政区域データ）を基に久保が作成した。
 - ・第 2 図及び第 4 図は、国土地理院の基盤地図情報（基本項目データ）と国土数値情報（河川データ）、地理院タイル（陰影起伏図）を基に久保が作成した。
 - ・第 3 図は 5 万分の 1 地質図幅「小諸」（産総研地質調査総合センター）を基に久保が作成した。
- 4 遺構下の斜線は地山、点は掘方を示す。遺構の計測値は上場の計測値である。
- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺 1/4、剥片石器は原寸で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 ピット一覧表及び遺物観察表における（ ）は推定値を、（ ）は残存値を示す。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 調査組織	2
第3節 調査の経過	2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	3
第1節 遺跡周辺の地理的環境	3
第2節 遺跡周辺の歴史的環境	4
第Ⅲ章 調査の概要	6
第1節 発掘調査の方法	6
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物の概要	8
第Ⅳ章 遺構と遺物	11
第1節 遺構	11
第2節 遺物	15
第Ⅴ章 自然科学分析	58
写真図版	
引用参考文献	

挿図目次

第1図 佐久市位置図	1
第2図 柳坂遺跡位置図	1
第3図 柳坂遺跡周辺の地質図	3
第4図 柳坂遺跡周辺の遺跡分布図	5
第5図 柳坂遺跡周辺地形図	6
第6図 グリッド設定図	7
第7図 調査区断面図	9
第8図 調査区全体図	10
第9図 遺構図1	12
第10図 遺構図2	13
第11図 遺構図3	14
第12図 遺物実測図1	16
第13図 遺物実測図2	17
第14図 遺物実測図3	18
第15図 遺物実測図4	19
第16図 遺物実測図5	20
第17図 遺物実測図6	21
第18図 遺物実測図7	22
第19図 遺物実測図8	23
第20図 遺物実測図9	24
第21図 遺物実測図10	25
第22図 遺物実測図11	26
第23図 遺物実測図12	27
第24図 遺物実測図13	28
第25図 遺物実測図14	29
第26図 遺物実測図15	30
第27図 遺物実測図16	31
第28図 遺物実測図17	32
第29図 遺物実測図18	33
第30図 遺物実測図19	34
第31図 遺物実測図20	35
第32図 遺物実測図21	36

第33図 遺物実測図22	37
第34図 遺物実測図23	38
第35図 遺物実測図24	39
第36図 遺物実測図25	40

図版目次

図版1 調査区北側完堀	68
図版2 調査区南側完堀	69
図版3 調査区北側完堀・調査区南側河川跡	70
図版4 遺構1	71
図版5 遺構2	72
図版6 遺構3	73
図版7 遺構出土遺物1	74
図版8 遺構出土遺物2	75
図版9 遺構3・下層出土遺物	76
図版10 上層土器縄文前期・中期後半(1)	77
図版11 上層土器縄文中期後半(2)・後期(1)	78
図版12 上層土器縄文後期(2)	79
図版13 上層土器縄文後期(3)	80
図版14 上層土器縄文後期(4)	81
図版15 上層土器縄文後期(5)	82
図版16 上層土器縄文後期(6)	83
図版17 上層土器縄文後期(7)	84
図版18 上層土器縄文後期(8)	85
図版19 上層土器縄文後期(9)	86
図版20 上層土器縄文後期(10)	87
図版21 下層・上層石器(1)	88
図版22 上層石器(2)	89
図版23 上層石器(3)	90
図版24 上層石器(4)	91
図版25 上層石器(5)	92

表目次

遺物観察表	41
-------	----

第Ⅰ章 発掘調査の経過

第1節 調査にいたる経緯

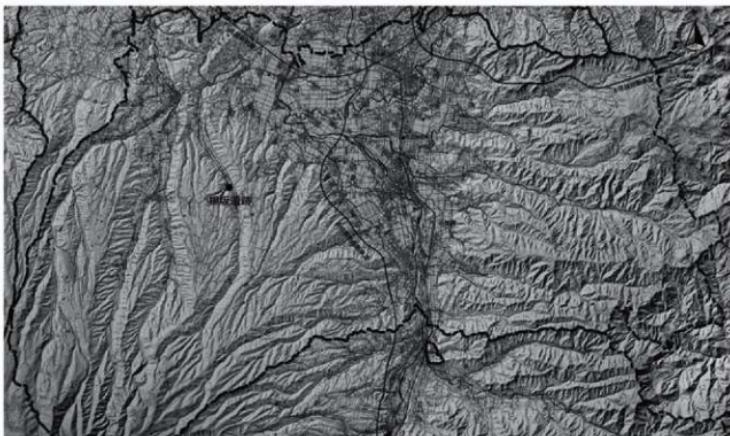
柳坂遺跡は、佐久市西部の布施地籍に所在する縄文時代及び奈良・平安時代の複合遺跡である（第1図）。古くより耕作に伴い縄文土器や石器が多量に出土することで知られ、縄文時代中期後半から後期前半の遺跡として認識されてきた。

今回、遺跡内で佐久市による道路建設工事が計画されたことにより、埋蔵文化財の取り扱いについて、佐久市と佐久市教育委員会との間で協議が行われた。平成30年3月15日、文化財保護法第94条第1項、同第184条第1項及び文化財保護法施行令第5条第1項の規定により、佐久市より「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知」が長野県教育委員会に提出された。通知を受け、佐久市教育委員会では、平成30年4月12日・26日・27日に柳坂遺跡内の道路建設予定範囲において遺構の確認調査を実施した。

その結果、対象地内の南東側は本沢川の氾濫により遺跡が破壊されていることが確認されたが、北西側では縄文時代の遺物包含層が遺存していることが確認された。そのため、遺物包含層が確認された730mについて、記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。



第1図 佐久市位置図



第2図 柳坂遺跡位置図

第2節 調査組織

調査主体者

佐久市教育委員会 教育長 樋澤 晴樹
事務局
社会教育部長 青木 源
文化振興課課長 小林 義夫（平成31年3月）・東城 洋（平成31年4月～）
文化振興課企画幹部 武者 新一（平成31年3月）・吉田 晃（平成31年4月～）
文化財調査係長 塩川 宏幸（平成31年3月）・山本秀典（平成31年4月～）
文化財調査係 小林 真寿 羽毛田 卓也（平成31年4月～） 富沢 一明 上原 学
荻原 義治（平成31年3月） 久保 浩一郎（～令和元年11月）
森泉 かよ子（～平成31年3月）
臨時職員 久保 浩一郎
調査担当者 赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 甘利 隆雄 岩松 茂年 大矢 志暮
調査員 木内 修一 小林 喜久子 小林 節子 小林 敏雄 堺 益子 清水 律子
田中 ひさ子 中澤 登 羽毛田 利明 橋詰 勝子 橋詰 信子 花岡 美津子
比田井 美子 畠籠 滋子 宮川 真紀子 武者 幸彦 柳澤 孝子 柳沢 千賀子
山口 ひとみ 山田 桢正 油井 满芳 横尾 敏雄 依田 好行 渡辺 学
森泉 かよ子（令和元年11月～）

第3節 調査経過

平成29年度

3月 15日 佐久市より文化財保護法第94条第1項に基づく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知。

3月 19日 29佐教文振第1502-2号により長野県教育委員会教育長に副本。

3月 26日 長野県教育委員会教育長より、29文第8-315号による通知。

平成30年度

4月 12日 柳坂遺跡内の道路建設範囲のうち、本沢川右岸部分の約250m²について確認調査を実施する。遺構・遺物なし。

4月 26・27日 柳坂遺跡内の道路建設範囲のうち、本沢川左岸部分の約1,050m²について確認調査を実施する。北西側で遺物包含層確認。

4月 28日～ 保護協議の結果、遺物包含層が確認された730m²について記録保存のための発掘調査を行うこととし、調査の準備を行う。

7月 11・12日 調査区北側の表土を重機により掘削し、調査区内に進入路・駐車場を造成する。現場用仮設事務所・トイレ等搬入。

7月 13日 人力による遺物包含層の掘削を開始する。

7月 19日～ 基準点・水準測量を実施し、調査区内に測量用グリッド杭打設。

7月 23日 遺構及び包含層掘削を終了し、調査区全景写真撮影を行う。

10月 24日 仮設機材を撤去し、現場での作業を終了する。

11月 7日 文化財事務所で遺物整理作業を行う。

11月 8日～

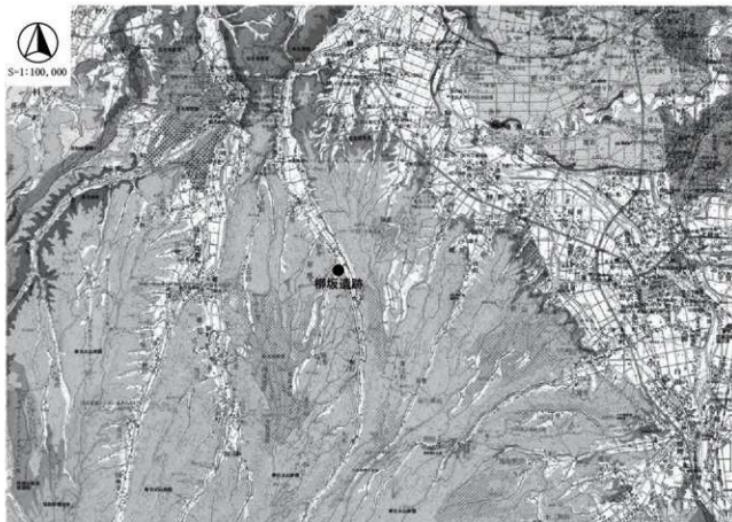
令和2年度 3月 発掘調査報告書刊行。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

佐久市は長野県の中央東端に位置し、中心市街地の標高は700m内外を測る。平成17年度の市町村合併により現在の市域となり、柳坂遺跡が所在する布施地籍は旧望月町域にあたる。市域の地質を概観すると、北陸新幹線佐久平駅などが位置する市北部は、浅間火山岩類を基盤としている。浅間軽石流の台地が河川に侵食されて形成された「田切り」地形が特徴的に発達し、台地上には弥生時代から平安時代を中心とした多数の遺跡が確認されている。佐久山地の丘陵部からなる市東部は、志賀溶結凝灰岩などの鮮新世火山岩類を基盤とし、黒色安山岩を用いた八風山遺跡や、駒込頁岩を用いた天神小根遺跡などの旧石器時代遺跡が確認されている。水田が広がる市中央部は、市内を北流する千曲川により形成された沖積地であり、自然堤防上や微高地上に遺跡が点在する。小諸市・東御市に接する市西北部では、瓜生坂累層・布引累層などの湖沼堆積物等を基盤とする御牧原台地・八重原台地が広がり、古代の牧闘連構や須恵器の窯跡などが確認されている。八ヶ岳連峰の北山麓にあたる市南西部は、春日火山岩類・長者原疊層・畠石溶岩などをはじめとする八ヶ岳火山岩類を基盤とする山地からなり、蓼科山から北流する布施川、細小路川、鹿曲川、八丁地川などの河川沿いに縄文時代をはじめとする各時代の遺跡が多数確認されている。

柳坂遺跡は布施川中流、支流の本沢川との合流部に位置している。今回発掘調査を行ったのは遺跡の西側、本沢川により形成された小扇状地上の東向き緩斜面部分で、標高約760mを測る。本沢川の河川堆積層を基盤層としており、本沢川に近い部分は氾濫により遺跡が消失してしまっている。



第3図 柳坂遺跡周辺の地質図

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺の歴史は古く、旧石器時代まで遡る。立科F遺跡(2)では、発掘調査により黒曜石を主体とする石器群が出土し、31,200±900年前という測定結果が得られている。また、八丁地川上流部の西久保入遺跡(3)では、黒曜石製の尖頭器が採取され、榛名平遺跡(4)でも黒曜石製のナイフ形石器等が出土している。居住の痕跡こそ確認されていないが、旧石器時代から人々の活動の場であったことがわかっている。

縄文時代早期になると、鹿曲川や八丁地川沿いの段丘上などに集落が展開していく。新水遺跡(5)、松原(淨永坊)遺跡(6)、金塚遺跡(7)、岩清水遺跡(8)では早期の住居址等が、竹之城原遺跡(9)・柄久保A遺跡(10)、下吹上遺跡(11)、榛名平遺跡(4)、では前期の住居址等が確認されている。中期になると、集落立地は前期同様だが遺跡数は増加する。竹之城原遺跡(9)・山の神(上吹上)遺跡(12)・後沖遺跡(13)・柄久保A遺跡(10)・平石遺跡(14)、胡桃沢遺跡(15)、榛名平遺跡(4)、中村遺跡(16)、山法師遺跡(17)、筒村遺跡(18)、駒込遺跡(19)、土合遺跡(20)、海戸田A遺跡(21)など、多数の遺跡が確認されており、平石遺跡(14)では中期末に位置づけられる柄鏡形敷石住居等の良好な資料が得られている。本遺跡が形成されるのも中期後半と考えられる。後期は遺跡数が減少するが、平石遺跡(14)、筒村遺跡(18)、海戸田A遺跡(21)などで住居址が確認されており、平石遺跡(14)と海戸田A遺跡(21)では中期に続き柄鏡形敷石住居が確認されている。浦谷B遺跡(22)では、住居址こそ確認されていないが、後期から晩期に位置づけられる多量の土器や石器、土製品が出土している。本遺跡でも出土遺物の主体となるのはこの時期であり、調査区周辺に住居址が存在する可能性は高いと考えられる。晩期では浦谷B遺跡(22)で土器が出土しているに過ぎず、生活の痕跡は希薄である。その原因として、集落立地が沖積地上などに変化したためと考えられる。

弥生時代になっても、中期までの様相は不明瞭である。後期になると、千曲川左岸沖積地の舞台場遺跡(23)、右岸台地上の熊の堂遺跡(24)や原遺跡(25)で集落址が確認されるようになる。集落の立地は生業活動に起因すると考えられるが、山麓部に立地する縄文時代の集落遺跡においても弥生時代後期の遺物が出土していることから、山麓部においても何らかの活動が行われていたと考えられる。

古墳時代では、岩清水遺跡(8)、後沖遺跡(13)、駒込遺跡(19)などで集落が確認されており、後沖遺跡では緑色凝灰岩の剝片等の瓦作り閑連の遺物が出土している。古墳では山麓末端部の尾根上に築かれた瀧の峯1号・2号古墳(26)、兜山1号・2号古墳(27)、内裏塚1号・2号古墳(28)などが、佐久市内では古少な4世紀から5世紀代に位置づけられるものである。後期になると主要河川の段丘上に多数の群集墳が築かれようになる。これらの古墳の副葬品に馬具が多いことから、盛んな馬の生産・飼育が想定され、それらが古代の牧経営の基盤となつたと考えられる。また当該地域内では、瓜生坂祭祀遺跡(29)等の存在から古東山道の存在が指摘されている。

奈良・平安時代には再び遺跡数が増加し、広範囲に集落が展開するようになる。御牧原台地には勅旨牧である望月牧が成立し、信濃最大の牧として律令体制下において重要な役割を果たすことになる。その名残として、現在でも台地上に野馬除跡(30)を見ることができる。また山麓末端部や台地上の緩斜面地では、石附窯跡(31)、権現山窯跡(32)、須釜原窯址群(33)等の須恵器窯址が確認されており、佐久郡において須恵器生産の役割を担う地域でもあった。

中世においては、木曾義仲の軍兵に参加し、鎌倉幕府においても弓馬の練達者として重用された望月氏などの在地の勢力による開発が進められたと考えられる。山麓尾根上に築かれた多くの山城は、当時の不安定な情勢を物語るものである。

近世には中山道が整備され、西から望月宿・八幡宿・塩名田宿が形成され、現在の望月・浅科市街地の基礎となる。



第4図 柳坂遺跡周辺の遺跡分布図

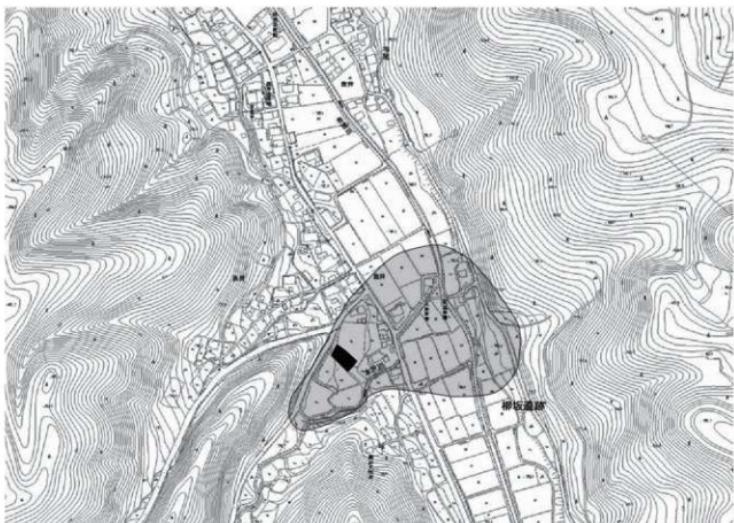
第III章 調査の概要

第1節 発掘調査の方法

柳坂遺跡は、蓼科山麓を北流する布施川と、支流の本沢川との合流地点、標高約750m～760mに位置している（第5図）。今回発掘調査を行ったのは遺跡の西側にあたり、本沢川により形成された小扇状地上の南東向き緩傾斜である。この場所は近年の畑地造成により削平されており、北東側が一段低くなっている。その比高差は1m程度で、下段は遺物包含層が露出し耕作土内に繩文土器片が散乱している状況であった。

道路予定地内の確認調査（第6図）の結果、本沢川に近い部分では河川の氾濫による厚い砂礫堆積が認められ、遺物も出土しないことから、遺跡は消失したと考えられる。一方北西の山側では、腐植土と考えられる黒色土層と、山側からの流入土と考えられる赤色系の粘土層とが互層をなし、黒色土中より多量の繩文土器が出土した。のことから、遺物包含層が確認された730m²について本調査を実施することとなった。

本調査は平成30年7月11日～平成30年11月7日に実施した。調査区内で進入路及び仮設駐車場を確保する必要があったため、現地形の段をもって調査区を二分することとし、北東の下段側から調査を行った。北東側は遺物包含層が露出している状態であったが、遺物を採集しながら耕作土のみ重機により除去し、耕土は南西の上段側へ仮置きした。その後調査区内に、国土地理院の平面直角座標系原点第W系を基点とするグリッドを設定した（第6図）。調査区北東のX=25280、Y=-9920を起点とし、ローマ数字名を付した20m四方の大グリッドと、大グリッド内を北東から南西に向かって算用数字により25分割した4m四方の小グリッドの組み合わせによりグリッド名を付し、グリッド杭を打設した。



第5図 柳坂遺跡周辺地形図

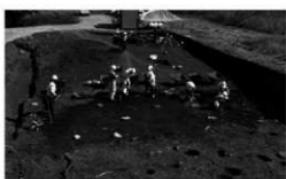


第6図 調査区グリッド設定図

グリッド杭打設後は、人力で遺物包含層を掘下げ、遺構検出を行った。遺構外出土遺物はグリッドごとに取上げた。検出した遺構については、遺構ごとに遺構埋土の土層観察・記録を行いながら掘下げ。完掘後にクリッド杭を用いた簡易造方測量により平面図を作成した。写真はデジタル一眼レフカメラによるRAW及びJPEGデータと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルムにより記録した。

北東側の記録作業終了後は、北東側と南西側を反転させ、調査区内へのグリッド杭打設、遺物包含層掘削及び遺構検出、遺構掘削、遺構図作成及び遺構写真撮影という一連の記録作業を実施した。

現場での本調査終了後は、平成30年11月8日より佐久市教育委員会文化振興課文化財事務所での整理作業を行った。遺物洗浄、注記、接合、復元、実測を行った後、デジタル一眼レフカメラによる遺物写真撮影を行い、本書の作成について、Adobe社のIllustrator、Photoshop、InDesignを用いて編集・執筆を行った。



発掘調査風景

第2節 基本層序

調査区西・南・北壁断面図から、調査区内の土層堆積を22層に分類した。対象地内中央に現代の畑地造成によって形成された段差が存在するため、南北壁で様相が異なる。1・2層は表土、3～20層は遺物包含層、21・22層が地山に大別される。3～20層の遺物包含層については、3～6層が縄文時代後期前半を主体とし、縄文時代前期から奈良・平安時代までの遺物包含層、7層は河川氾濫による疊層で遺物はほとんど出土しない。8～16層は縄文時代後期前半を主体とし、縄文時代前期から後期の遺物包含層。17～20層は縄文時代前期の遺物包含層に分かれる。

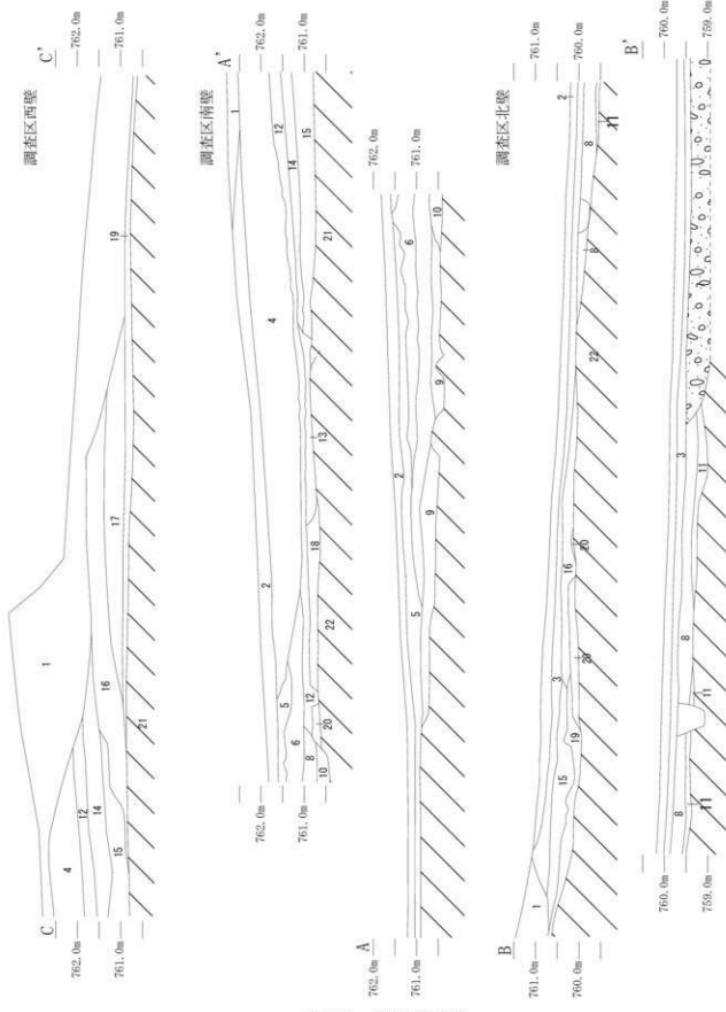
遺構確認面は、調査区南側では12層及び8層上面、北側では16層及び8層上面である。以下に各層の特徴を述べる。

- 1層 盛土 畑地造成に伴う盛土
- 2層 畑耕作土
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3) 耕作等による擾乱を受け、多量の土器片と共にガラス等も含む
- 4層 暗褐色土質 (7.5YR4/3) 金属片・土器片含む
- 5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 10cm以下の円・角礫含む
- 6層 暗褐色土 (10YR3/3) 須恵器等奈良・平安時代の遺物をわずかに含む
- 7層 黄褐色砂礫土 (10YR6/2) 河川氾濫による堆積層
- 8層 黒褐色土 (10YR3/1) ϕ 30cm以下の円・角礫多量含む 遺物多量に含む
- 9層 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) ϕ 30cm以下の円・角礫少量含む 遺物多量に含む
- 10層 灰褐色砂質土 (7.5YR4/2) ϕ 10cm以下の円・角礫含む 遺物含む
- 11層 褐色シルト質土 (10YR4/6) ϕ 10cm以下の円・角礫少量含む
- 12層 黒褐色土 (10YR3/1) ϕ 30cm以下の円・角礫、炭化物含む 遺物含む
- 13層 暗褐色土 (10YR4/1) 10cm以下の粘土ブロック含む 遺物含む
- 14層 橙色粘質土 (7.5YR6/6) ϕ 30cm以下の円・角礫、炭化物含む 遺物含む
- 15層 黑褐色土 (10YR3/1) ϕ 30cm以下の円・角礫、炭化物含む 遺物含む
- 16層 暗褐色粘質土 (7.5YR3/3) 30cm以下の円・角礫多量含む 遺物含む
- 17層 にぶい赤褐色粘質土 (5YR5/4) しまり強い、遺物含む
- 18層 暗褐色土 (10YR4/1) 遺物含む
- 19層 黑褐色土 (10YR3/1) ϕ 10cm以下の円・角礫多量含む
- 20層 明褐色土 (7.5YR5/6) 黑褐色土ブロック含む 遺物含む
- 21層 橙色土 (7.5YR6/6) ϕ 50cm以下の円・角礫、砂含む 地山
- 22層 黑褐色砂質土 (10YR3/1) ϕ 50cm以下の円・角礫多量含む 地山

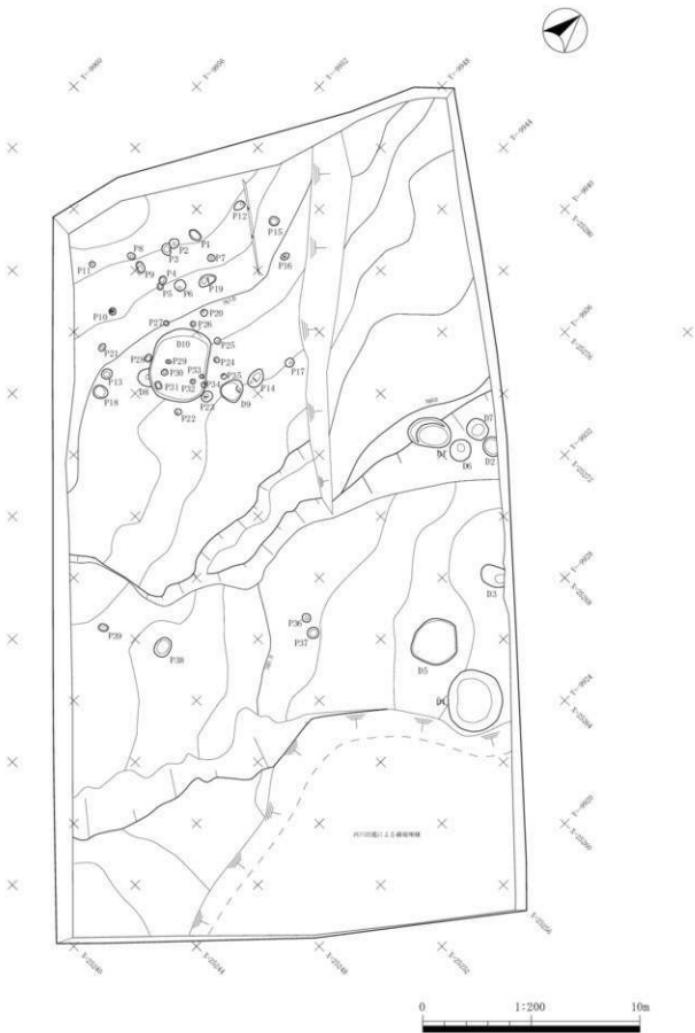
第3節 遺構・遺物の概要

遺構 土坑10基 ピット36基

遺物 縄文土器（深鉢・浅鉢・注口土器）・須恵器
石器（石鏃・石匙・石錐・打製石斧・磨製石斧・削器・刃器・敲石・石皿・石棒）
土製品（土偶・円盤状土製品）



第7図 調査区断面図



第8図 調査区全体図

第IV章 遺構と遺物

第1節 遺構

D1号土坑（第9図）I-15・20グリッドに位置し、長軸1.99m、短軸1.35m、深さ0.42mを測る楕円形の土坑である。16層上面で検出され、検出面から埋土中位まで円・角礫が多量に入るが、無造作に投げ込まれたような状況である。遺物は縄文時代後期前半を主体とする縄文土器と石器が出土した。

埋土の微細物分析を行った結果（第V章）、被熱した骨片や、炭化した種実などが検出されることから、食物残滓を廃棄した場所の可能性が考えられる。

D2号土坑（第9図）I-14グリッドに位置し、東西0.87m、南北0.69m以上、深さ0.25mを測り、北側が調査区外に延びる。8層上面で検出され、埋土に焼土を含む。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

D3号土坑（第9図）I-18グリッドに位置し、長軸1.09m以上、短軸0.92m、深さ0.63mを測り、北側が調査区外に延びる。8層上面で検出された。遺物は縄文時代前期及び後期と考えられる土器が出土している。

D4号土坑（第9図）I-22グリッドに位置し、長軸2.85m、短軸2.50m、深さ0.81mを測る円形の土坑で、8層上面で検出された。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施した結果、現代の所産であることがわかつた（第V章）。

D5号土坑（第9図）I-23グリッドに位置し、長軸2.35m、短軸2.06m、深さ0.13mを測る円形の土坑で、8層上面で検出された。遺物は縄文時代前期及び後期と考えられる土器が出土している。

D6号土坑（第9図）I-14グリッドに位置し、長軸0.98m、短軸0.95m、深さ0.27mを測る円形の土坑で、22層上面で検出された。埋土中に円・角礫を含む。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

D7号土坑（第9図）I-14グリッドに位置し、長軸1.00m、短軸0.98m、深さ0.51mを測る円形の土坑で、22層上面で検出された。埋土中に円・角礫を含む。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

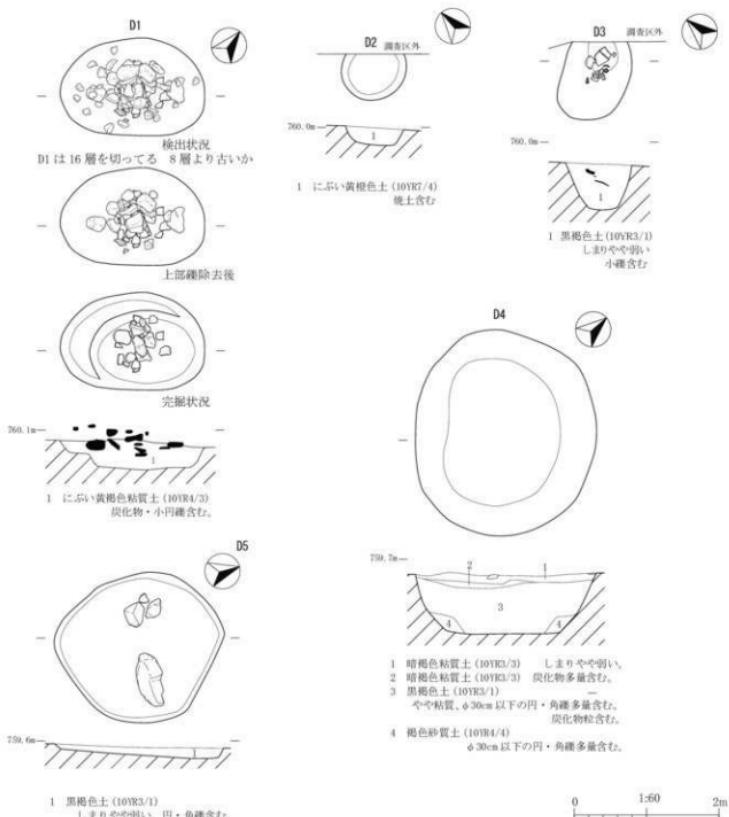
D8号土坑（第9図）II-23グリッドに位置し、長軸1.12m、短軸0.84m、深さ0.21mを測る楕円形の土坑で、D10号土坑より新しい。12層上面で検出され、焼土層が認められる。遺物は出土していないが、奈良・平安時代以降の所産と考えられる。

D9号土坑（第10図）II-22グリッドに位置し、長軸1.05m、短軸0.97m、深さ0.34mを測る楕円形の土坑で、12層上面で検出された。埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施し、calBP3,696～3,586という結果が得られた（第V章）。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

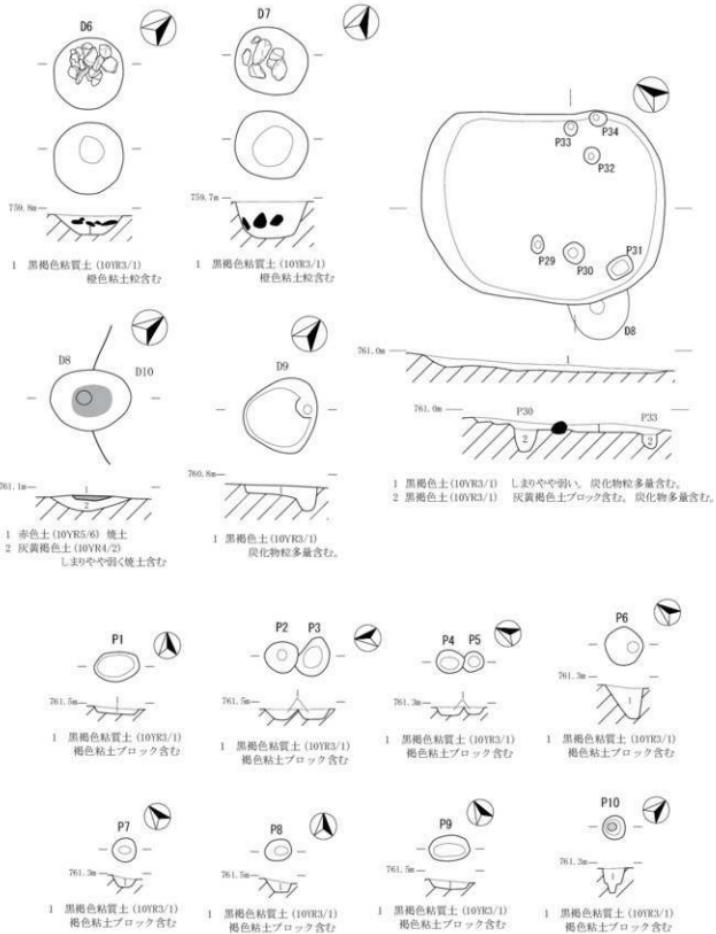
D10号土坑（第10図）II-22グリッドに位置し、長軸3.35m、短軸2.62m、深さ0.14mを測る隅丸方形の土坑で、12層上面で検出された。埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施し、

calBP920～795 という結果が得られた。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

ピット（第10・11図） II-13～IV-3グリッド付近を中心^oに36基検出された。長軸0.3～0.9m、深さ0.1～0.4mを測り、円形ないし楕円形を呈する。概ね12層及び8層上面で検出され、埋土は黒褐色粘質土を基調とする。P37～P39で縄文時代後期と考えられる土器が出土している。



第9図 遺構図1



第10図 遺構図2



第11図 遺構図3

第2節 遺物

遺構及び包含層から多量の縄文土器及び一片の奈良・平安時代の遺物が出土した。大半は遺構外からの出土である。

遺構出土遺物はすべて縄文時代の土器・石器であるが、いずれの遺構においても埋土中の破片資料であることから、遺構に伴うものではないと考えられる。縄文時代後期前半を主体とし、前期のものがわずかに認められる状況は、遺構外出土遺物と同様である。

遺構外では、調査区東端の河川氾濫部を除く全域に遺物包含層が認められ、3層から19層の包含層中より多量の縄文土器・石器と、須恵器・土師器片が数点出土した。特に調査区を南西から北東に延びる谷状の地形に堆積した8層からは、縄文時代後期前半を主体とする前期から後期の多量の土器や、土偶等の土製品、黒曜石の原石などが出土している。また、調査区西側では棕色粘土層と黒色麻食土層の互層が認められ(12層～19層)、19層では前期に位置付けられる土器が出土している。19層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、calBp6, 883～6,738という測定結果が得られた(第V章)。

須恵器・土師器等奈良・平安時代の遺物は、包含層第6層の上位より出土している。

出土遺物の主体となる縄文土器をみると、前期の土器では、第16図5・8は口縁部の隆帶や燃糸文から、前期初頭に位置付けられる塙田式土器と考えられる。第16図9～18は前期前半に位置付けられるものであり、胎土に纖維を含み部に羽状縄文が施される。

54～57は櫛歯状工具による列点刺突文から前期前半の有尾式と考えられる。

第16図1～4・6・7は、半截竹管による沈線や貼文、浮線文などから、前期後半に位置付けられる諸磯式土器と考えられる。

第17図下段の中間に位置付けられる土器はわずかであるが、縱位沈線と矢羽状沈線が施されるものや、隆帶文が施されるもの認められ、いずれも中期後半のものと考えられる。

出土土器の大半を占めるのが後期初頭～中葉に位置付けられる土器である。

第18図～第20図は称名寺式土器、第20～25図は堀之内1・堀之内2式土器、第25図～27図は加曾利B式土器と考えられる。その他少量ではあるが、第27図下段のような三十稻場式土器も確認できる。またこれらの後期初頭から中葉の土器群に伴うと考えられる粗製土器や圧痕帶を持つ土器も一定量認められる。器形をみると、深鉢が主体となるが、器高の低い鉢や、注口が付くものなどもみられる。577(第25図)は包含層第8層より出土した土器であり、堀之内2式土器と考えられる。内面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、calBp4, 144～3,978という結果が得られている。

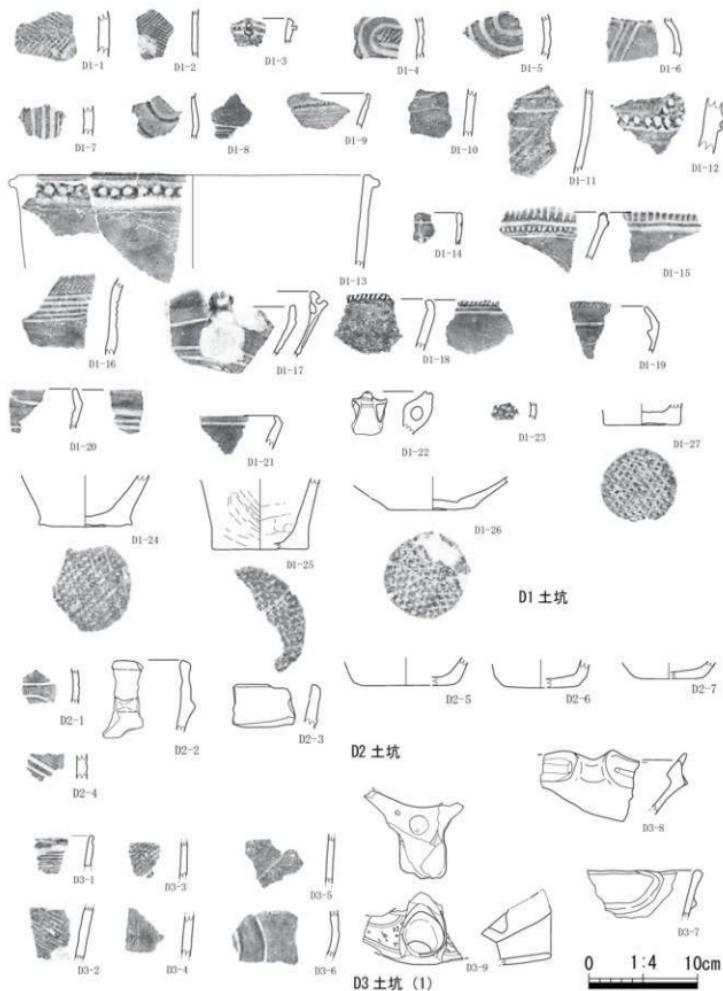
土製品では円盤状土製品と土偶が出土した。土偶(第31図)は496の頬、497～499の足、500の腕、501の胸が出土している。足には唐草状の文様が施されている。

石器は、石鑿、石匙、石錐の小型剥片石器をはじめ、打製石斧・刃器などの打製石器、二次加工を施す剥片、磨製石斧、石皿などが出土している。石鑿等の小型剥片石器については、ほとんどが黒曜石で作られており、石器製作時に生じたと考えられる剥片も多量に出土している。包含層第8層からは、58～63(第33図)のような黒曜石の原石や石核が出土していることから、本調査区周辺で石器製作が行われていたと考えられる。黒曜石以外の石材は、チャートや頁岩が用いられており、黒曜石同様に小型の剥片も出土している。

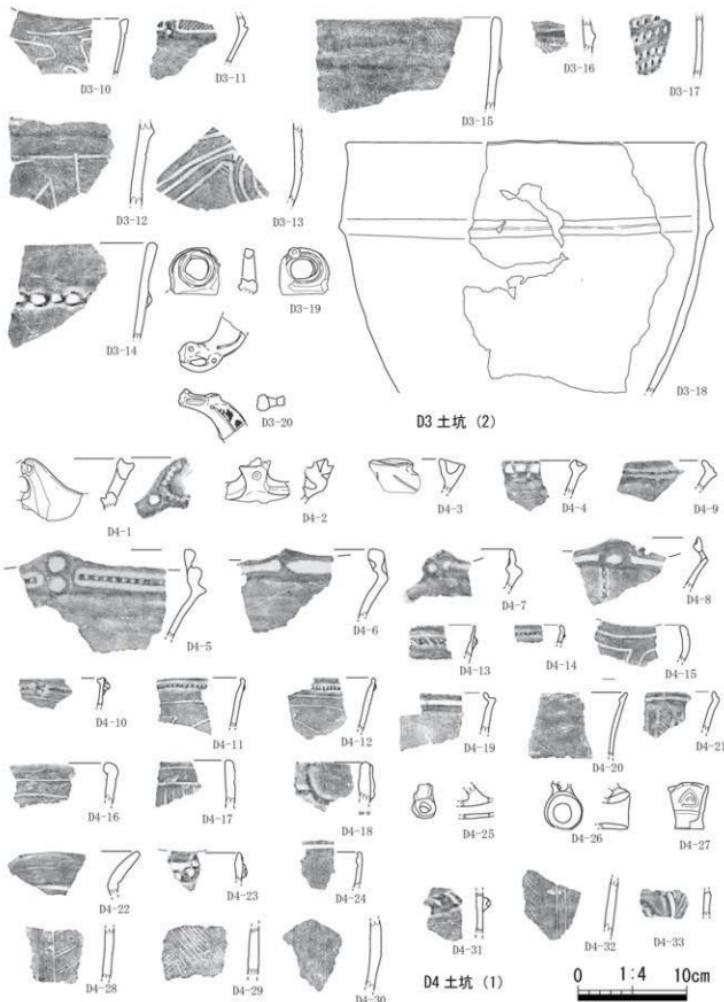
打製石斧は、124～126(第35図)は大型の完形品で、124・125(図版6)は重なった状態で出土している。石材は輝石安山岩・硬質砂岩・溶結凝灰岩等が用いられる。

磨製石斧は完形品はないが、緑色凝灰岩や蛇紋岩製のものが出土した。139(第36図)は石斧の破片と考えられるが、緑色硬質で、光沢の強い石材が用いられている。石製品は142～145(第36図)の石棒が出土した。

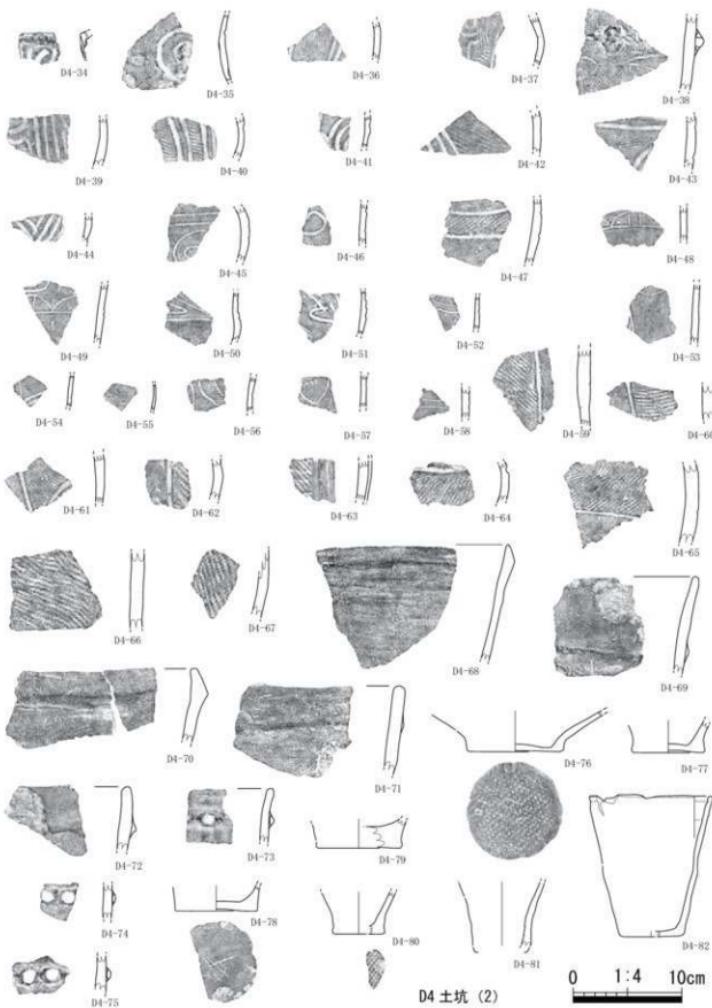
本調査区において、縄文時代の住居址は検出されなかつたが、多量に出土する土器や、土偶・石棒などの遺物から、周辺に集落跡が存在するものと考えられる。



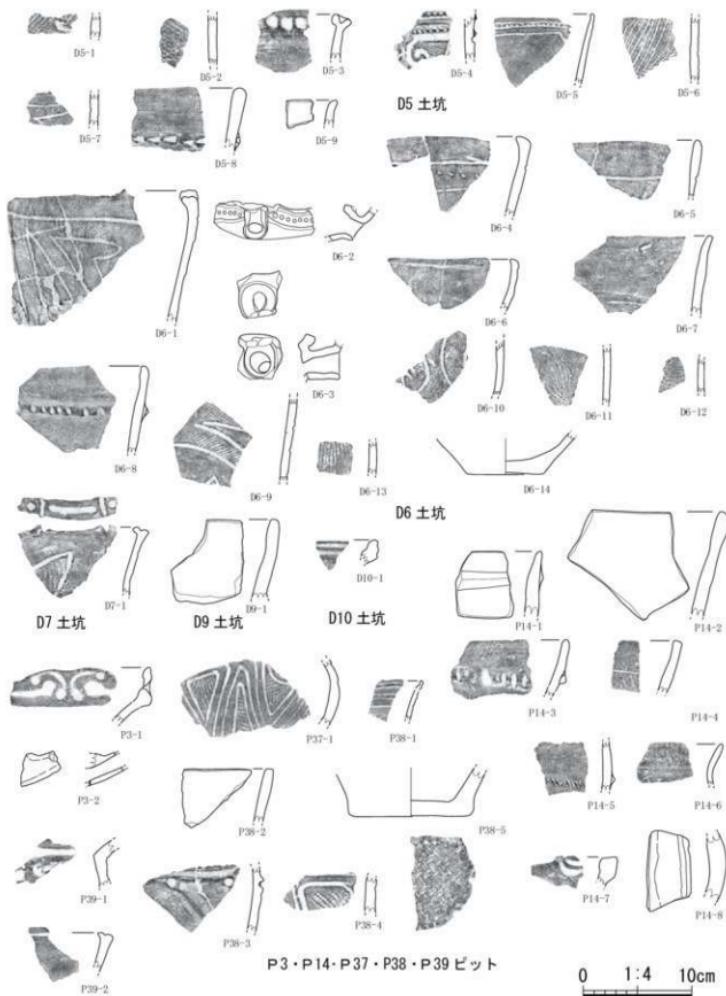
第12図 遺物実測図1 (D1～D3 土坑)



第13図 遺物実測図2 (D3・D4土坑)



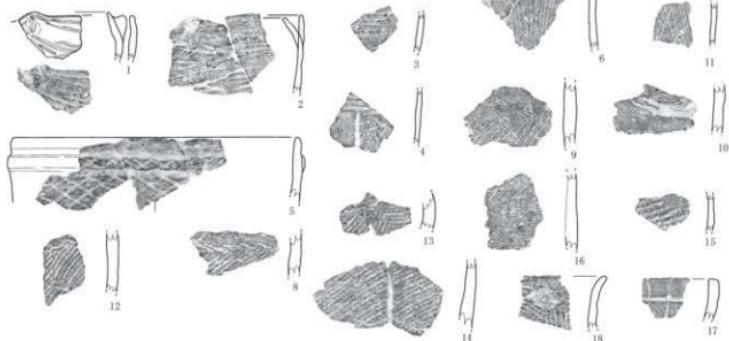
第14図 遺物実測図3 (D4号土坑)



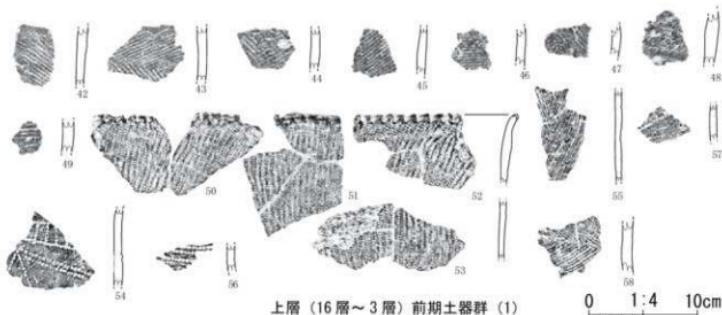
第15図 遺物実測図4 (D 5～D 7・D 9・D 10号土坑・ピット)



D1・D4 土坑、P38 ピット石器



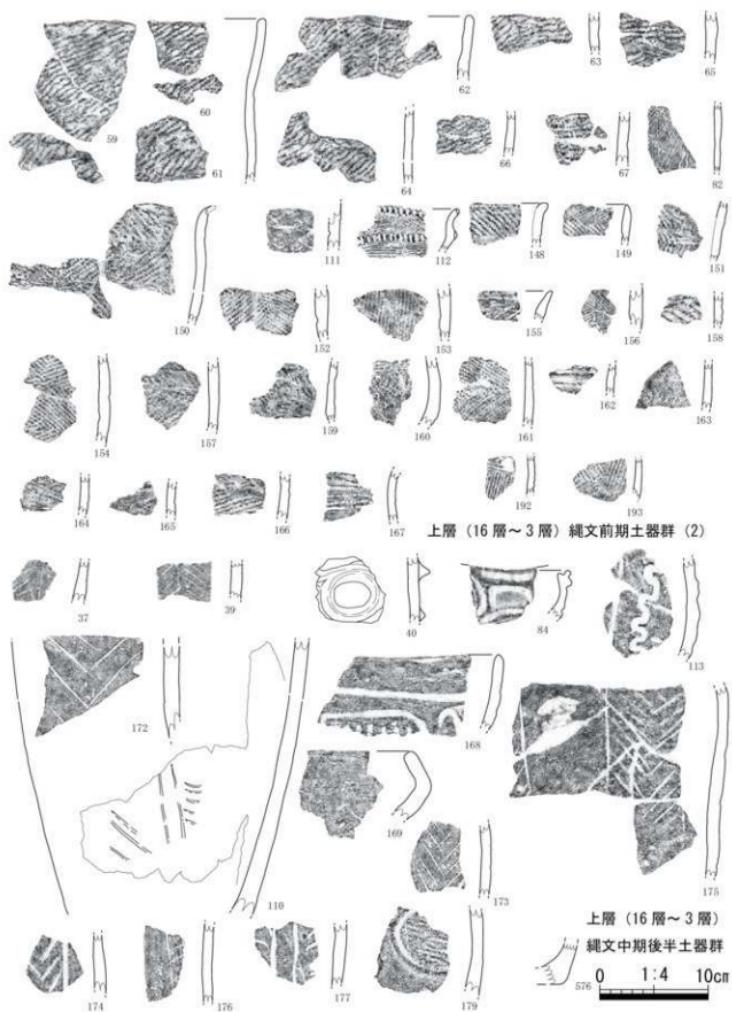
下層（19層～17層）土器群



上層（16層～3層）前期土器群（1）

0 1:4 10cm

第16図 遺物実測図5（遺構出土石器、下層・上層土器（縄文前期））



第17図 遺物実測図6 (上層土器(前期(2)・中期))



上層 (16層～3層) 繩文後期 (称名寺 その2) 土器群

第18図 遺物実測図7 (上層土器 (繩文後期))

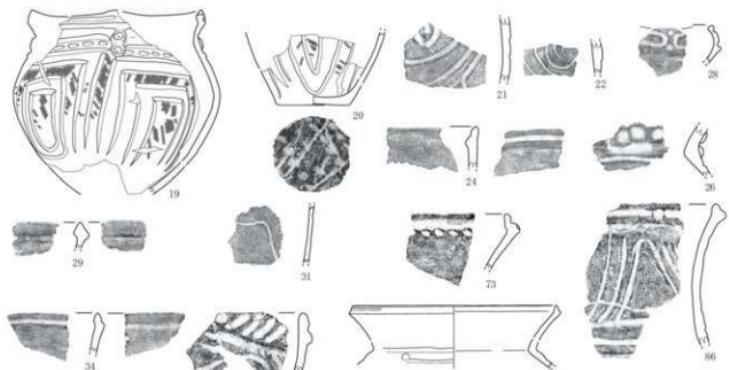


上層(16層～3層)縄文後期(称名寺 その2)土器群

第19図 遺物実測図8 (上層土器(縄文後期))



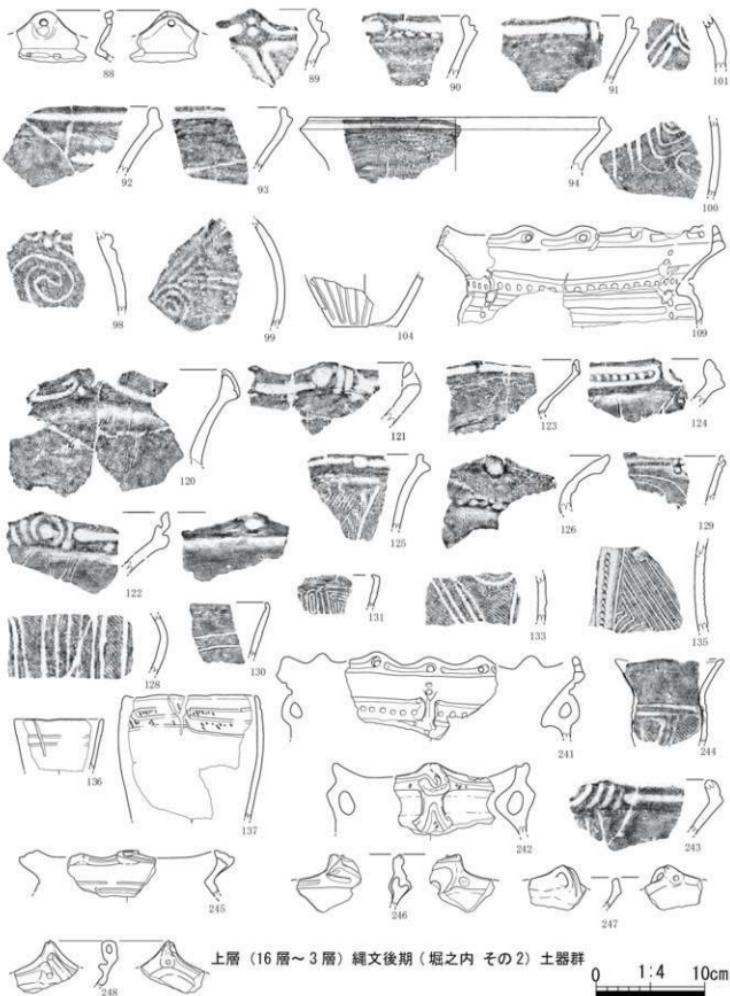
上層（16層～3層）縄文後期（称名寺 その3）土器群



上層（16層～3層）縄文後期（烟之内 その1）土器群

0 1:4 10cm

第20図 遺物実測図9（上層土器（縄文後期））



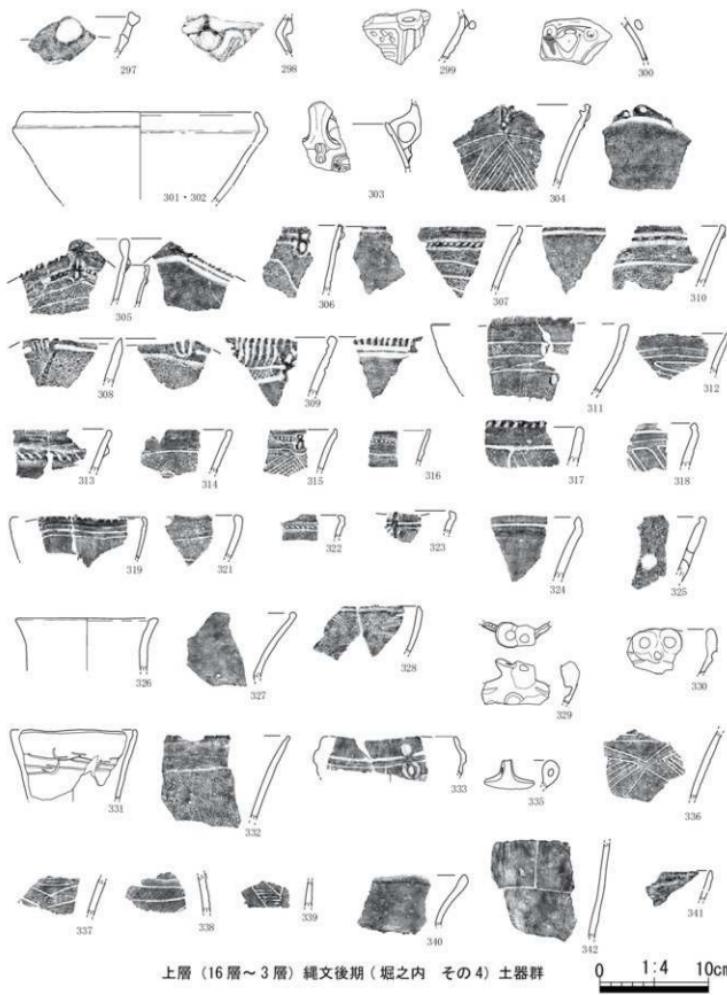
第21図 遺物実測図10 (上層土器 (縄文後期))



上層(16層～3層)縄文後期(堀之内 その3)土器群

0 1:4 10cm

第22図 遺物実測図11(上層土器(縄文後期))



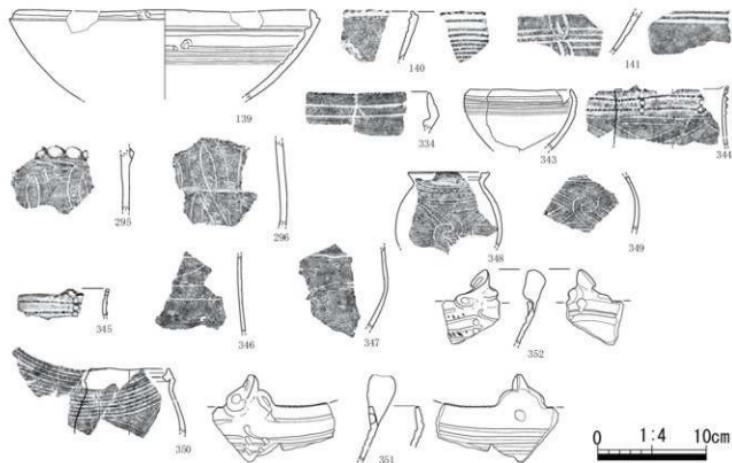
上層（16層～3層）縄文後期（堀之内 その4）土器群

0 1:4 10cm

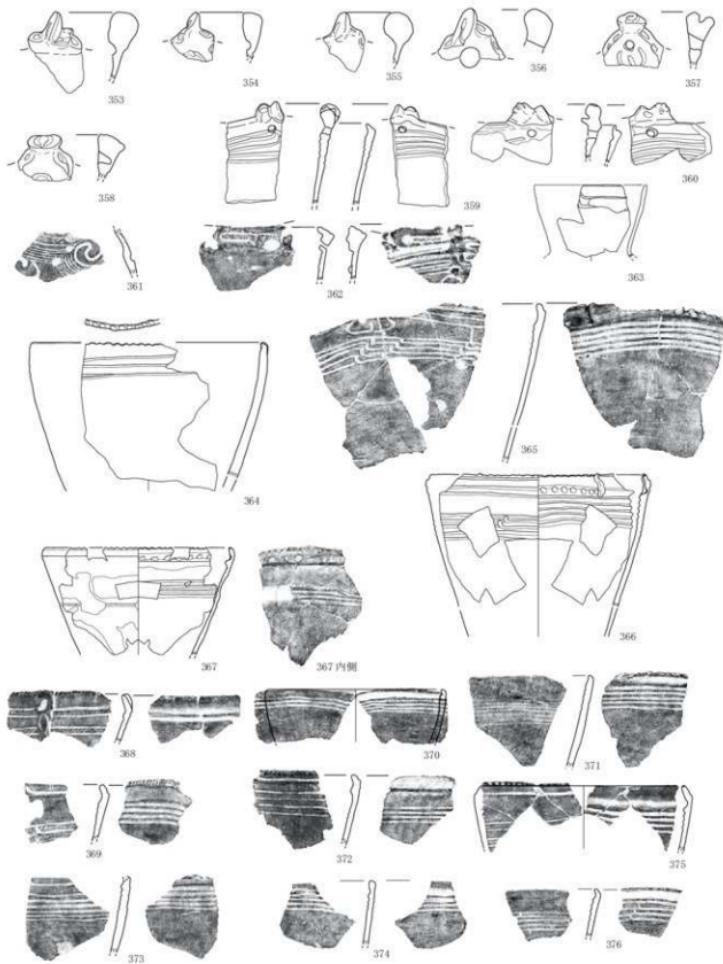
第23図 遺物実測図12（上層土器（縄文後期））



第24図 遺物実測図13 (上層土器 (縄文後期))



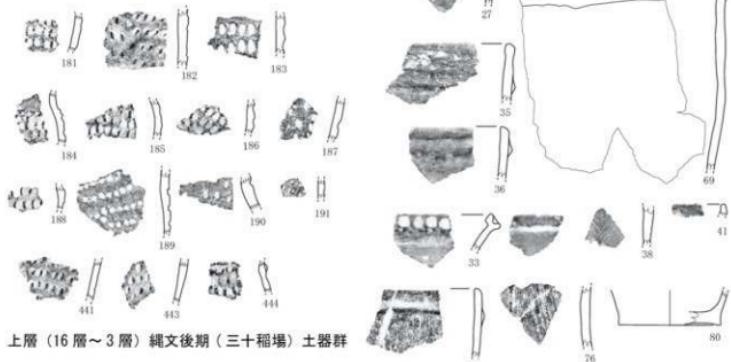
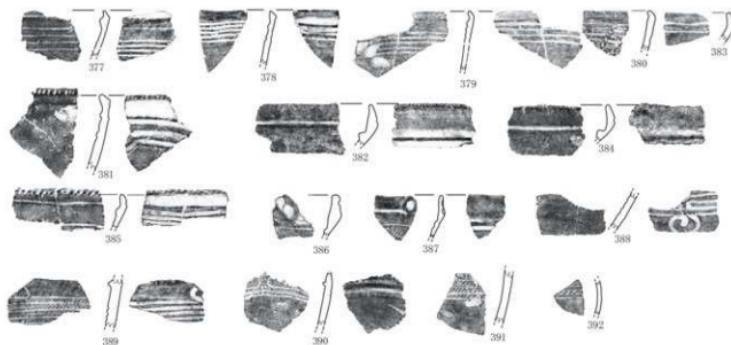
第25図 遺物実測図14（上層土器（縄文後期））



上層（16層～3層）縄文後期（加曾利B その2）土器群

0 1:4 10cm

第26図 遺物実測図15（上層土器（縄文後期））

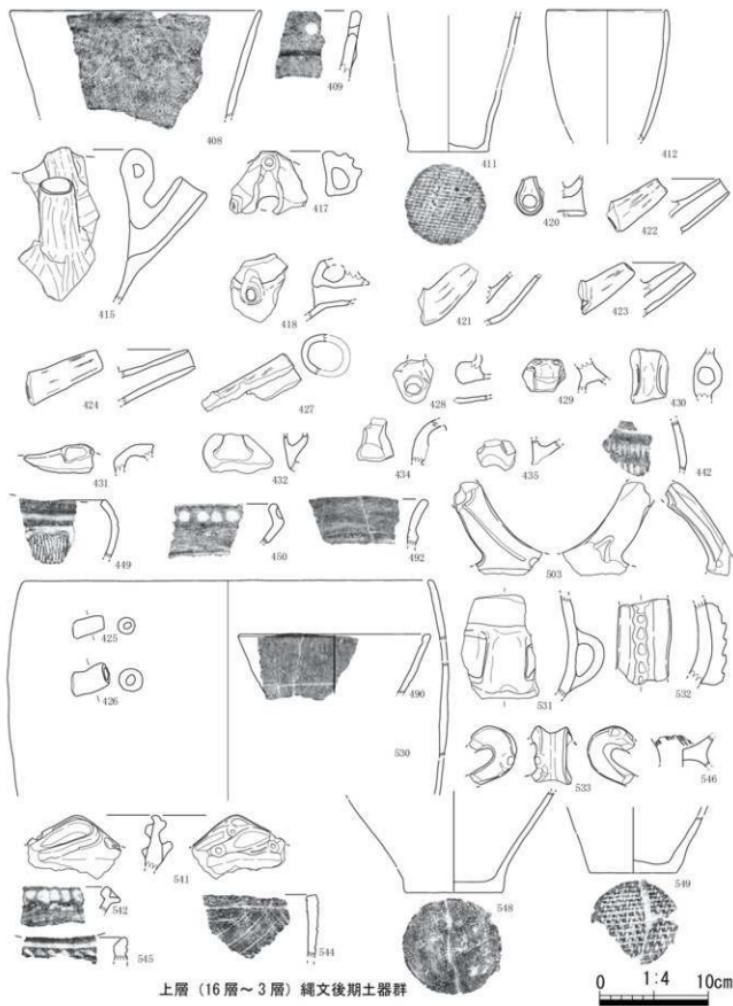


上層（16層～3層）縄文後期土器群

第27図 遺物実測図16（上層土器（縄文後期））

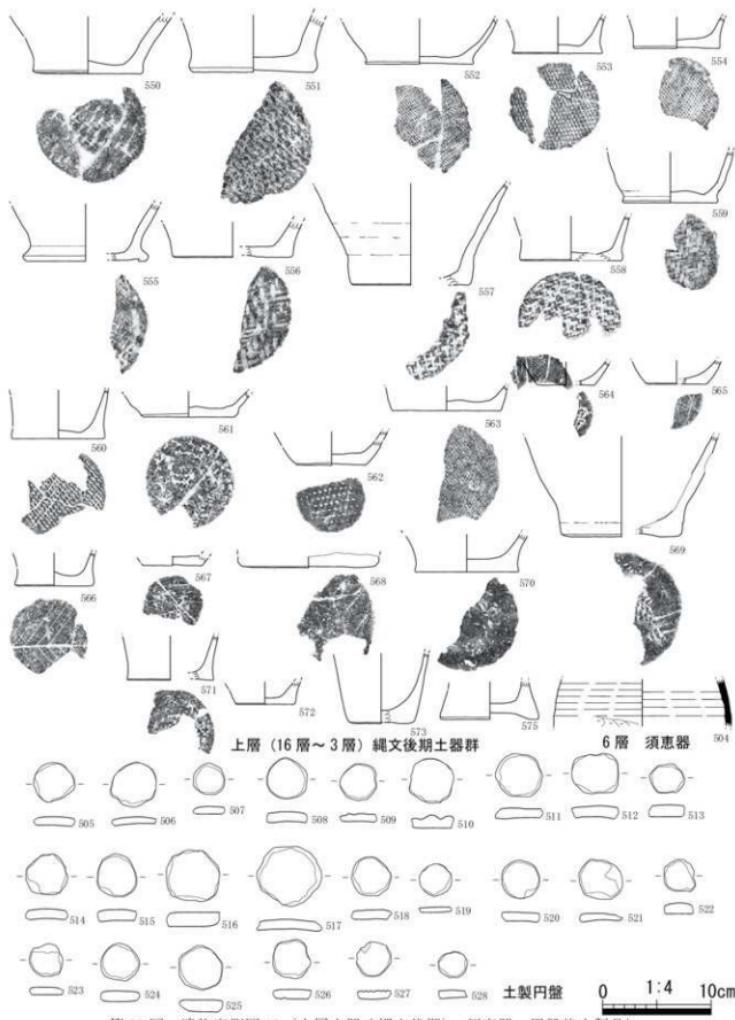
0 1:4 10cm



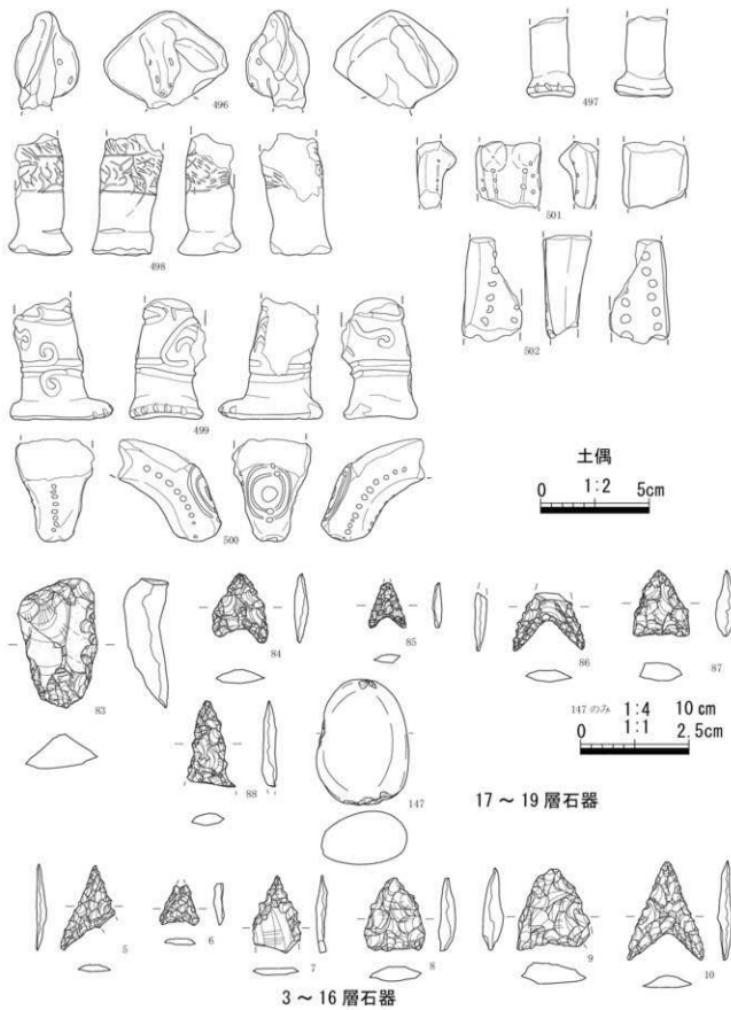


上層（16層～3層）縄文後期土器群

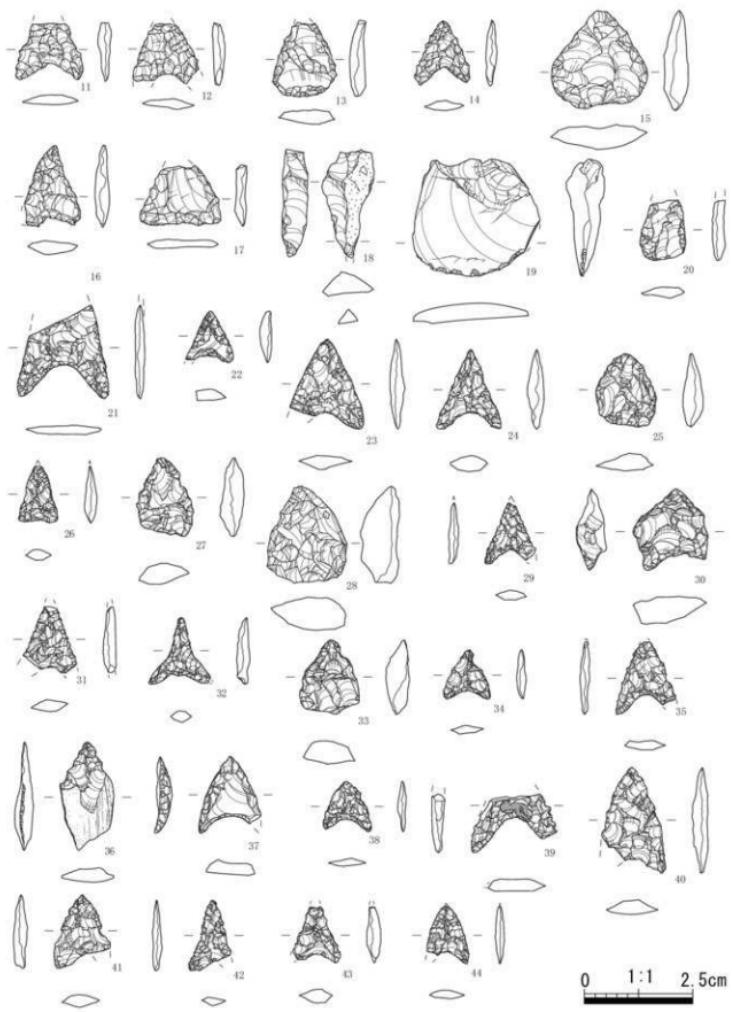
第29図 遺物実測図18（上層土器（縄文後期））



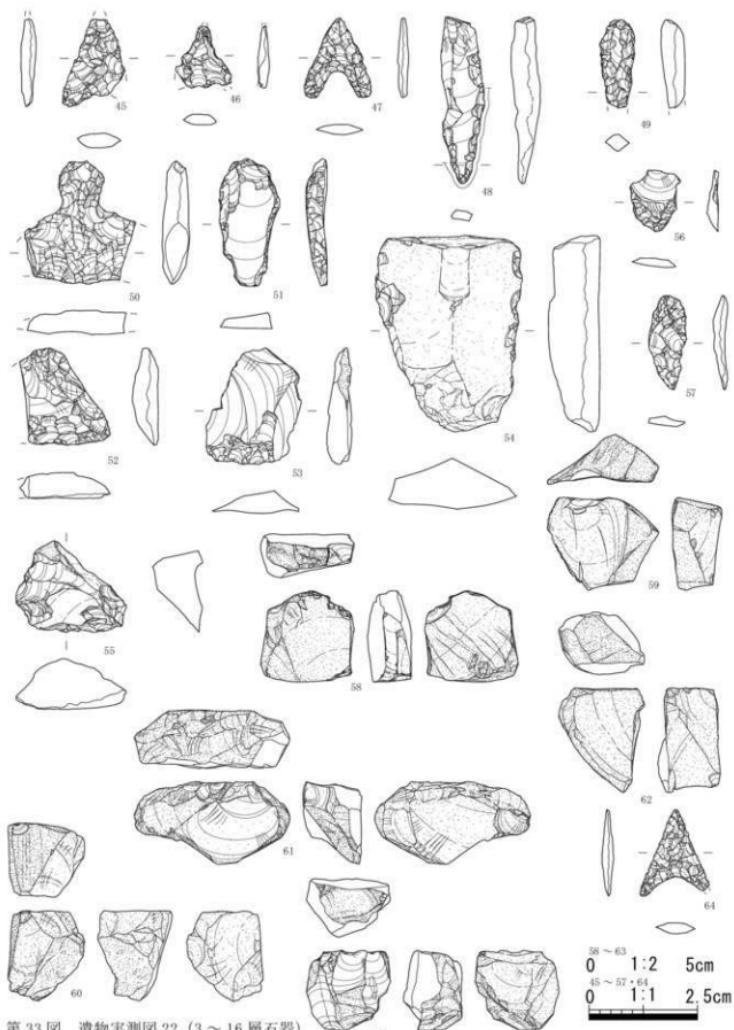
第30図 遺物実測図19（上層土器（縄文後期）・須恵器・円盤状土製品）



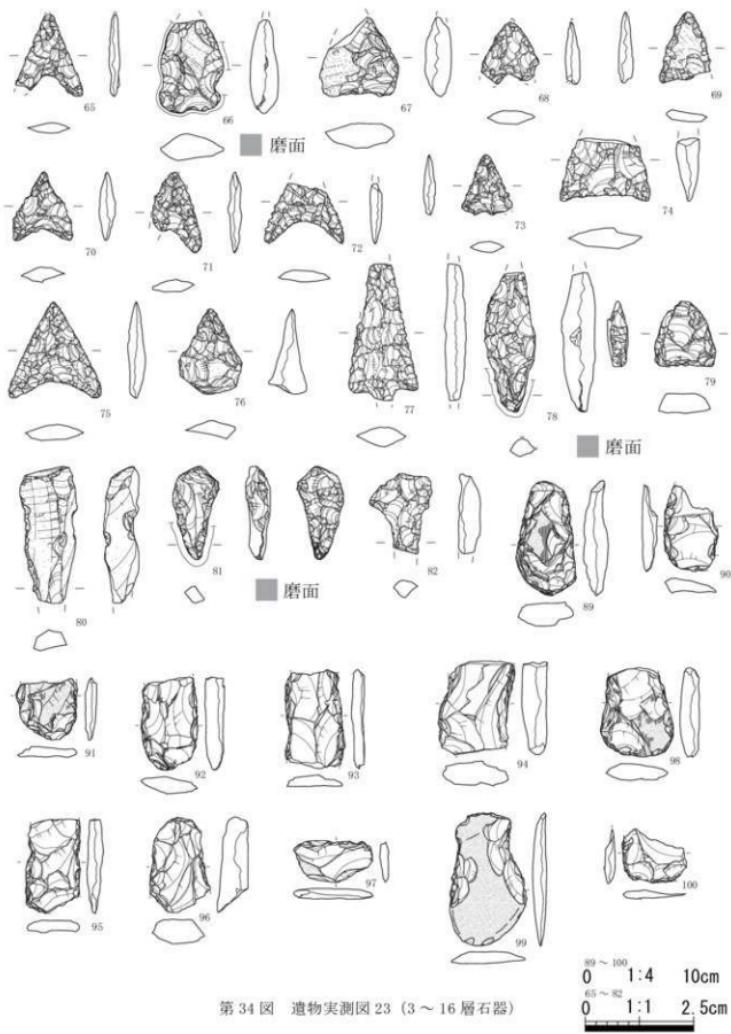
第31図 遺物実測図20（土偶、17～19層・3～16層石器）



第32図 遺物実測図 21 (3～16層石器)



第33図 遺物実測図 22 (3 ~ 16層石器)



第34図 遺物実測図23(3~16層石器)



第35図 遺物実測図 24 (3 ~ 16層石器)

0 1:4 10cm



第36図 遺物実測図 25 (3～16層石器)

遺構	番号	種別	器種	法量(cm)			文様・調整等	備考
				口径	底径	器高		
D1	1	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 3)	斎藤による差形文 並行沈継による区画内に彌文充填	前期前半
D1	2	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 5)	沈継による差形文 並行沈継による区画内に彌文充填	縦之内 2
D1	3	縄文土器	深鉢	-	-	(2, 3)	横位角付深鉢に8字状點付文	縦之内 2
D1	4	縄文土器	円盤状土製品	-	-	(3, 9)	弧状の区段内に彌文LR充填、中央に穿孔連中	縦之内 1 未製品
D1	5	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 1)	弧状の浅鉢文	縦之内 1
D1	6	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 6)	3字の斜行沈継	縦之内 1
D1	7	縄文土器	深鉢	-	-	(2, 8)	3字の沈継	縦之内 1
D1	8	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 2)	微隆起彌文	称名寺
D1	9	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 2)	横位角付深鉢、沈継文	縦之内 2
D1	10	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 4)	沈継による区画内に彌文充填	縦之内 ?
D1	11	縄文土器	深鉢	-	-	(7, 9)	沈継による区画内に彌文充填	称名寺
D1	12	縄文土器	深鉢	-	-	(5, 2)	斜位・横位2条の押圧隆帯	後期前半
D1	13	縄文土器	深鉢	(31, 3)	-	(8, 6)	後凹部に横位の圧痕隆帯	後期前半
D1	14	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 0)	横位の浅鉢と朝契文	縦之内 2
D1	15	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 4)	口脣部彫み、内面2条の並行沈継。 外面に横位の角付深鉢と沈継文	称名寺か?
D1	16	縄文土器	深鉢	-	-	(7, 1)	5字の並行沈継、彌文RIL	縦之内 2
D1	17	縄文土器	深鉢	-	-	(6, 2)	横状突起、口脣部刻み、 彌文、外面部ミガキ、外面部沈継、内面円形刻空	加曾利B
D1	18	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 7)	口脣部彫み、後凹部内面に半周竹筋の沈継	加曾利B
D1	19	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 2)	口脣部彫み、内面2条、外面部沈継、外面部ミガキ	加曾利B
D1	20	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 3)	内面部、外面部沈継、外面部ミガキ	加曾利B
D1	21	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 1)	口縁部彫刻、外面部ミガキ	縦之内 1
D1	22	縄文土器	口注口器	-	-	(4, 0)	頭部に刻文、並行沈継	後期前半
D1	23	縄文土器	深鉢	-	-	(1, 6)	円形の連続刻文	後期前半
D1	24	縄文土器	深鉢	-	(8, 5)	(4, 7) 純代瓶	後期前半	
D1	25	縄文土器	深鉢	-	(8, 8)	(6, 4) 純代瓶、外面部ミガキ	後期前半	
D1	26	縄文土器	鉢	-	7, 9	(3, 1) 純代瓶、内面部ミガキ	後期前半	
D1	27	縄文土器	深鉢	-	6, 9	(2, 0) 純代瓶	縦之内 2	
D2	1	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 2)	沈継区画内に彌文充填	縦之内 2
D2	2	縄文土器	深鉢	-	-	(7, 3)	横位の圧痕隆帯	後期前半
D2	3	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 8)	無文	後期前半
D2	4	縄文土器	深鉢	-	-	(2, 4)	斜位の並行沈継	縦之内 1
D2	5	縄文土器	深鉢	-	(9, 6)	(2, 6)		
D2	6	縄文土器	深鉢	-	(7, 0)	(2, 6)		
D2	7	縄文土器	深鉢	-	(6, 0)	(1, 5)		
D3	1	縄文土器	深鉢	-	-	(2, 8)	斎藤による差形文、半周竹筋による並行沈継	前期中葉 有尾
D3	2	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 8)	斎藤による差形文、羽状沈継 RIL	前期前半
D3	3	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 5)	斎藤による差形文、彌文LR充填	前期前半
D3	4	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 9)	柳葉状工具による縦位彫刻	後期前半
D3	5	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 5)	柳葉状工具による縦位彫刻	後期前半
D3	6	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 4)	微隆起彫刻と沈継	称名寺
D3	7	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 3)	口脣部から左方に延びる隆帯	後期前半
D3	8	縄文土器	深鉢	-	-	(6, 5)	隆帯によるC字状の突起、突起中央に刻文	後期前半
D3	9	縄文土器	口注付鉢	-	-	(6, 7)	沈継区画内に彌文、刻文	後期前半
D3	10	縄文土器	深鉢	-	-	(5, 3)	沈継文	称名寺
D3	11	縄文土器	鉢	-	-	(4, 4)	8字状突起、沈継区画内に彌文 RIL	後期前半
D3	12	縄文土器	深鉢	-	-	(7, 7)	沈継文	称名寺
D3	13	縄文土器	深鉢	-	-	(7, 7)	沈継による彌文帯、斜行沈継、彌文	縦之内 1
D3	14	縄文土器	深鉢	-	-	(8, 8)	横位圧痕隆帯	後期前半
D3	15	縄文土器	深鉢	-	-	(8, 5)	横位隆帯	後期前半
D3	16	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 1)	横位隆帯、彌文 RIL	後期前半
D3	17	縄文土器	深鉢	-	-	(5, 5)	弧状の連続刻文	三十編場
D3	18	縄文土器	深鉢	(32, 8)	-	(23, 1)	横位沈継	後期前半
D3	19	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 3)	C字状の沈継、刻文	後期前半
D3	20	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 7)	沈継及び沈継端部に刻文、彌文 RIL	称名寺
D4	1	縄文土器	深鉢	-	-	(4, 7)	横位把手に沿った連続刻文	称名寺
D4	2	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 9)	口縁部彫刻 内面及び左右から脊乳	加曾利B
D4	3	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 1)	口縁部彫刻、沈継区画内に彌文	称名寺
D4	4	縄文土器	深鉢	-	-	(3, 2)	口脣部に連続する円形刻突文	後期前半
D4	5	縄文土器	深鉢	-	-	(8, 2)	突起部に刻文、圧痕隆帯に伴う彌文	縦之内 1

遺構	番号	種別	器種	法量 (cm)			文様・調整等	備考
				口徑	底径	器高		
D4	6	調文土器	深鉢	—	—	(6.4)	内外面とも突起下の円形刺突から横位沈線	縦之内1
D4	7	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	内外面とも突起下の円形刺突から横位沈線	縦之内1
D4	8	調文土器	深鉢	—	—	(4.7)	透し孔。口唇部横位短沈線 円形刺突から横位沈線。底位圧痕跡	縦之内1
D4	9	調文土器	深鉢	—	—	(2.7)	横位沈線	縦之内1
D4	10	調文土器	深鉢	—	—	(2.6)	彌み隆筋、#字状突起、横位沈線。調文LR	縦之内2
D4	11	調文土器	深鉢	—	—	(4.6)	彌み隆筋。底縁区画内に調文充填	縦之内2
D4	12	調文土器	深鉢	—	—	(5.0)	彌み隆筋。沈縁区画内に調文充填	縦之内2
D4	13	調文土器	深鉢	—	—	(2.9)	彌み隆筋。内面横位沈線	縦之内2
D4	14	調文土器	深鉢	—	—	(1.7)	彌み隆筋	縦之内2
D4	15	調文土器	深鉢	—	—	(3.3)	沈線文	称名寺
D4	16	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	沈線文	称名寺
D4	17	調文土器	深鉢	—	—	(4.0)	沈線文	称名寺
D4	18	調文土器	深鉢	—	—	(3.6)	彌状の隆筋	称名寺?
D4	19	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	横位沈線、内外面ミガキ	縦之内1
D4	20	調文土器	深鉢	—	—	(6.0)	内面横位沈線、外外面ミガキ	縦之内2
D4	21	調文土器	深鉢	—	—	(3.7)	口縁部横位沈線、底位沈線、調文LR	縦之内1
D4	22	調文土器	深鉢	—	—	(4.1)	横位沈線	称名寺
D4	23	調文土器	深鉢	—	—	(2.8)	压痕隆筋	後期前半
D4	24	調文土器	深鉢	—	—	(3.3)	内面に横位沈線、内外面ミガキ	縦之内2
D4	25	調文土器	注口土器	—	—	(3.1)		後期前半
D4	26	調文土器	注口土器	—	—	(4.0)		後期前半
D4	27	調文土器	ミニアニア	(3.8)	2.5	4.3	横位沈縁間に三角形状の区画文	後期前半
D4	28	調文土器	深鉢	—	—	(4.7)	底位沈線、斜位短沈線	中期後半?
D4	29	調文土器	深鉢	—	—	(4.5)	多条の沈縁による幾何学文	縦之内2
D4	30	調文土器	深鉢	—	—	(6.5)	彌状の隆筋	後期前半
D4	31	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	彌位の則み隆筋、状縫文	後期前半
D4	32	調文土器	深鉢	—	—	(5.4)	彌位沈線、斜位沈線	中期後半?
D4	33	調文土器	深鉢	—	—	(3.3)	彌状の隆筋起線。調文LR	称名寺
D4	34	調文土器	深鉢	—	—	(2.5)	彌形、沈線文	縦之内1
D4	35	調文土器	深鉢	—	—	(6.2)	調文LR、彌状の沈縁文	称名寺
D4	36	調文土器	深鉢	—	—	(3.5)	平行沈縁間に調文LR充填	縦之内1
D4	37	調文土器	深鉢	—	—	(4.5)	彌状の沈縁、底位沈線、調文LR充填	縦之内1
D4	38	調文土器	深鉢	—	—	(6.7)	調文地文、横位則み隆筋に#字状突起、沈縫文	縦之内1
D4	39	調文土器	深鉢	—	—	(4.4)	彌状の沈縁と底位沈線	縦之内1
D4	40	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	底位沈縁間に調文LR充填	縦之内1
D4	41	調文土器	深鉢	—	—	(3.0)	彌状の並行沈縁。調文LR	縦之内1
D4	42	調文土器	深鉢	—	—	(3.9)	平行沈縁、調文LR	縦之内1
D4	43	調文土器	深鉢	—	—	(5.0)	横位・弧状沈縁、調文LR	縦之内1
D4	44	調文土器	深鉢	—	—	(2.5)	斜位・弧状の平行沈縁	縦之内1
D4	45	調文土器	深鉢	—	—	(5.0)	機位・弧状の平行沈縁区内に調文LR充填	称名寺
D4	46	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	J字状沈縁、調文LR	称名寺
D4	47	調文土器	深鉢	—	—	(6.0)	沈縁区画内に調文LR充填	称名寺
D4	48	調文土器	深鉢	—	—	(3.1)	沈縁による幾何学文。調文L、外面ミガキ	縦之内2
D4	49	調文土器	深鉢	—	—	(5.6)	沈縁による幾何学文	縦之内2
D4	50	調文土器	深鉢	—	—	(4.5)	沈縁による幾何学文。調文L、内外面ミガキ	縦之内2
D4	51	調文土器	深鉢	—	—	(4.0)	底位による幾何学文。調文L、内外面ミガキ	縦之内2
D4	52	調文土器	深鉢	—	—	(3.0)	沈縁による幾何学文。調文	縦之内2
D4	53	調文土器	深鉢	—	—	(5.4)	沈縁区画内に調文LR、内外面ミガキ	縦之内2
D4	54	調文土器	深鉢	—	—	(2.9)	沈縁区画内に調文LR	縦之内2
D4	55	調文土器	注口土器	—	—	(2.4)	彌衝状工具による条縫文	縦之内2か
D4	56	調文土器	深鉢	—	—	(3.2)	沈縁区画内に調文LR	称名寺
D4	57	調文土器	深鉢	—	—	(3.0)	沈線文	称名寺
D4	58	調文土器	深鉢	—	—	(2.9)	横位沈線、調文LR	加曾利B
D4	59	調文土器	深鉢	—	—	(7.1)	底位沈線、調文LR	後期前半
D4	60	調文土器	深鉢	—	—	(3.1)	底位沈線、調文LR	後期前半
D4	61	調文土器	深鉢	—	—	(4.5)	機位・弧状沈縁、調文LR	縦之内1
D4	62	調文土器	深鉢	—	—	(3.9)	底位沈線、調文LR	後期前半
D4	63	調文土器	深鉢	—	—	(3.7)	底位隆筋、調文LR	後期前半
D4	64	調文土器	深鉢	—	—	(3.8)	横位沈線、調文LR	縦之内1
D4	65	調文土器	深鉢	—	—	(7.3)	横位沈線、調文LR	縦之内1
D4	66	調文土器	深鉢	—	—	(7.0)	調文LR	後期前半
D4	67	調文土器	深鉢	—	—	(6.3)	調文LR	後期前半
D4	68	調文土器	深鉢	—	—	(10.7)	横位隆筋	後期前半

遺構	番号	種別	器種	法量(cm)		文様・調整等	備考	
				口径	底径			
D4	69	調文土器	深鉢	—	—	(9.0)	横位底帯。底部沈縫、調文	後期前半
D4	70	調文土器	深鉢	—	—	(6.8)	横位底帯	後期前半
D4	71	調文土器	深鉢	—	—	(8.2)	横位底帯	後期前半
D4	72	調文土器	深鉢	—	—	(5.9)	横位底帯	後期前半
D4	73	調文土器	深鉢	—	—	(5.0)	横位圧痕底帯	後期前半
D4	74	調文土器	深鉢	—	—	(3.1)	横位圧痕底帯	後期前半
D4	75	調文土器	深鉢	—	—	(3.4)	横位圧痕底帯	後期前半
D4	76	調文土器	鉢	—	(9.0)	(3.8)	底部削除底	後期前半
D4	77	調文土器	深鉢	—	(6.5)	(3.0)		後期前半
D4	78	調文土器	深鉢	—	(7.4)	(2.4)	底部に沈縫	後期前半
D4	79	調文土器	深鉢	—	7.6	(2.7)		後期前半
D4	80	調文土器	深鉢	—	(4.8)	(3.9)	底部削除底、内外面ミガキ	後期前半
D4	81	調文土器	深鉢	—	—	(5.9)	内外面ミガキ	堀之内2
D4	82	調文土器	深鉢	11.4	5.9	13.1	内外面ミガキ	堀之内2
D5	1	調文土器	深鉢	—	—	(2.0)	軸部に沈縫含む、調文LR	前期前半
D5	2	調文土器	深鉢	—	—	(4.6)	軸部に沈縫含む、調文LR	前期前半
D5	3	調文土器	深鉢	—	—	(4.1)	口唇部沈縫と小突起	後期前半
D5	4	調文土器	深鉢	—	—	(4.2)	横位・底位の頬み底帯、沈縫	堀之内1
D5	5	調文土器	深鉢	—	—	(6.5)	横位刻み、8字状突起	堀之内2
D5	6	調文土器	深鉢	—	—	(5.9)	並行沈縫による幾何学文	堀之内2
D5	7	調文土器	深鉢	—	—	(3.1)	沈縫区画内に調文LR、内外面ミガキ	堀之内2
D5	8	調文土器	深鉢	—	—	(5.8)	横状工具引きによる弦状圧痕帶	後期前半
D5	9	調文土器	鉢	—	—	(2.3)	内外面ミガキ	堀之内1
D6	1	調文土器	深鉢	—	—	(11.5)	口唇部沈縫と小突起	称名寺
D6	2	調文土器	注口付鉢	—	—	(3.5)	沈縫区画内に調文LR充填	称名寺～堀之内
D6	3	調文土器	注口付器	—	—	(4.2)	注口上部に環状の把手	堀之内1か
D6	4	調文土器	深鉢	—	—	(7.3)	横位沈縫に底状の刻突文	称名寺
D6	5	調文土器	深鉢	—	—	(5.2)	横位沈縫。内外面ミガキ	堀之内2
D6	6	調文土器	深鉢	—	—	(4.8)	横位沈縫内に横衝状工具による溝状刻突文	後期前半
D6	7	調文土器	深鉢	—	—	(7.2)	横衝状工具による縦縫条縫、軸孔	後期前半
D6	8	調文土器	深鉢	—	—	(7.9)	横位刻み底帯	後期前半
D6	9	調文土器	深鉢	—	—	(7.5)	沈縫区画内に調文LR充填	称名寺
D6	10	調文土器	深鉢	—	—	(5.1)	沈縫区画内に調文LR充填	称名寺
D6	11	調文土器	深鉢	—	—	(5.2)	横衝状工具による弧状の条縫文	加曾利Bか
D6	12	調文土器	深鉢	—	—	(3.6)	弧状の並行沈縫	堀之内1
D6	13	調文土器	深鉢	—	—	(3.0)	調文LR	後期前半
D6	14	調文土器	深鉢	—	(7.1)	(3.3)		後期前半
D7	1	調文土器	深鉢	—	—	(6.3)	口唇部底縫・横位沈縫、円形刻突。	称名寺
D9	1	調文土器	深鉢	—	—	(7.2)	横位底帯	後期前半
D10	1	調文土器	深鉢	—	—	(2.2)	横位の並行刻突	堀之内1
P3	1	調文土器	深鉢	—	—	(5.1)	透孔し、両端に円形刻突文を有するC字状沈縫	堀之内1
P3	2	調文土器	注口土器	—	—	(3.2)		後期前半
P14	1	調文土器	深鉢	—	—	(6.0)	横位底帯	後期前半
P14	2	調文土器	深鉢	—	—	(9.7)		後期前半
P14	3	調文土器	深鉢	—	—	(5.3)	横位刻み底帯	後期前半
P14	4	調文土器	深鉢	—	—	(4.8)	横位沈縫、横衝条工具による条縫	後期前半
P14	5	調文土器	深鉢	—	—	(4.5)	横位刻み底帯	後期前半
P14	6	調文土器	鉢	—	—	(3.7)	丸縫文	後期前半
P14	7	調文土器	深鉢	—	—	(2.7)	口縫部突起内外にC字状底縫、袖状把手か	称名寺
P14	8	調文土器	深鉢	—	—	(7.6)	袖状把手	後期前半
P37	1	調文土器	深鉢	—	—	(6.1)	並行沈縫による三角形状区画内に調文LR	堀之内1
P38	1	調文土器	深鉢	—	—	(3.7)	横位刻み底帯、沈縫、調文LR	堀之内2
P38	2	調文土器	深鉢	—	—	(4.9)		後期前半
P38	3	調文土器	深鉢	—	—	(6.0)	弧状の微隆起縫文、円形刻突文	称名寺
P38	4	調文土器	深鉢	—	—	(3.4)	並行沈縫、調文LR	堀之内1
P39	5	調文土器	深鉢	—	(11.1)	(4.5)	底部削除底	後期前半
P39	1	調文土器	深鉢	—	—	(4.6)	横位沈縫、袖状突起か	堀之内1
P39	2	調文土器	深鉢	—	—	(3.6)	口唇部沈縫	堀之内1

出土位置	番号	種別	器種	部位	法値(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
H12-19層	1	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	半截竹管による平行沈線、張付文	諸磲C
H12-19層	2	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.1)	半截竹管による平行沈線、張付文	諸磲C
H12-19層	3	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.5)	半截竹管による平行沈線	諸磲C
H13-19層	4	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.9)	半截竹管による平行沈線	諸磲C
H13-19層	5	調文土器	深鉢	口縁	(26.8)	-	(6.0)	騎士に織進含む、横位陣帶 格子状の燃糸文(調文L+R2本描え)	塙田?8±同一 S'字状压痕、調文LR
H13-19層	6	調文土器	深鉢	体部	-	-	(9.4)	半截竹管による平行沈線、ボタン状の張付文	諸磲C
H13-19層	7	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.9)	浮彫文	諸磲C
H13-19層	8	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.0)	騎士に織進含む 格子状の燃糸文(調文L+R2本描え)	塙田?5±同一 S'字状压痕、調文LR
H12-19層	9	調文土器	深鉢	体部	-	-	(6.0)	騎士に織進含む、羽状彫文	前期前半
H13-19層	10	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.5)	騎士に織進含む、調文	前期前半
H13-19層	11	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.9)	半截竹管による平行沈線	諸磲C
H13-19層	12	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	騎士に織進含む、調文LR	前期前半
H13-19層	13	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	騎士に織進含む、調文	前期前半
H13-19層	14	調文土器	深鉢	体部	-	-	(6.1)	騎士に織進含む、調文LR	前期前半
H12-19層	15	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	騎士に織進含む、調文	前期前半
H13-19層	16	調文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	騎士に織進含む、羽状彫文	前期前半
IV7-18層	17	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	横位沈線、調文	称名字
H13-17層	18	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.8)	騎士に織進含む、調文	前期前半
H11-16層	19	調文土器	深鉢	口縁～体部	(15.8)	-	(17.0)	口縁小突起下-S字状突起、横位沈線間刺突文 尤部圓内面に調文LRを埴	塙之内1
H6-16層	20	調文土器	深鉢	体部～底部	-	6.5	(6.7)	体部織位沈線、調文 底部網狀痕の上に粟粒状圧痕	塙之内1
I23-16層	21	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.8)	弧状沈線、調文	塙之内1
I23-16層	22	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.9)	弧状沈線	塙之内1
I23-16層	23	調文土器	鉢	体部	-	-	(5.0)	横位沈線、調文LR、円形刺突文	称名字
I24-16層	24	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	内面に横位沈線	塙之内1か
I23-16層	25	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	弧状の微隆起線文、調文LR	称名字
I24-16層	26	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	横位沈線、突起	塙之内1
I23-16層	27	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.1)	横位陣帶	後期前半
I24-16層	28	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.5)	沈線、円形刺突文	塙之内1
I24-16層	29	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.4)	調文	塙之内1
H6-16層	30	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	才彌、調文	称名字
I24-16層	31	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	才彌、調文LR	塙之内1
I23-16層	32	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	調文	称名字
I22-16層	33	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	口唇部に円形の凧刺突文	後期前半
I23-16層	34	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	外面部横位沈線	塙之内1
H6-16層	35	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	横位陣帶	後期前半
I23-16層	36	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.8)	横位陰帯	後期前半
I24-16層	37	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	横位沈線、斜位傾才彌	中期前半
III3-16層	38	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.5)	斜位沈線	後期前半
I24-16層	39	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	横位沈線、斜位傾才彌	中期前半
I24-16層	40	調文土器	深鉢	体部	-	-	(6.0)	円形の陣帶文	中期後半
I23-16層	41	調文土器	鉢	口縁	-	-	(1.0)	外面部目	後期前半
I7-16層	42	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	騎士に織進含む、羽状彫文	前期前半
H6-16層	43	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.9)	騎士に織進含む、羽状彫文LR	前期前半
H11-16層	44	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	騎士に織進含む、羽状彫文LR	前期前半
H7-16層	45	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.3)	騎士に織進含む、調文	前期前半
H7-16層	46	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	騎士に織進含む、調文	前期前半
I23-16層	47	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.9)	騎士に織進含む、調文	前期前半
I23-16層	48	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	騎士に織進含む、調文	前期前半
I23-16層	49	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	騎士に織進含む、調文LR	前期前半
H19-15層	50	調文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(13.3)	口縁割み、調文	前期中葉?
H19-15層	51	調文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	-	口縁割み、調文LR	50±同一個体
H19-15層	52	調文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	-	口縁割み、調文LR	50±同一個体
H19-15層	53	調文土器	深鉢	体部	-	-	-	調文LR	50±同一個体
H19-15層	54	調文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	騎士に織進含む、櫛衛状工具による列刺突文、有孔	
H24-15層	55	調文土器	深鉢	体部	-	-	(8.2)	半截竹管による集合沈線	諸磲C
H19-15層	56	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.4)	騎士に織進含む、櫛衛状工具による列刺突文、有孔	
H19-15層	57	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	騎士に織進含む、櫛衛状工具による列刺突文、有孔	
H18-15層	58	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	騎士に織進含む、羽状彫文L	前期前半

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
II-19-24-15層	59	彌文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(14.9)	船形に纏推合む、彌文L	前期前半
II-19-24-15層	60	彌文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	-	船形に纏推合む、彌文L	59と同じ個体
II-24-15層	61	彌文土器	深鉢	体部	-	-	-	船形に纏推合む、彌文L	59と同じ個体
II-24-14層	62	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.7)	船形に纏推合む、彌文LR	前期前半
II-24-14層	63	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	船形に纏推合む、彌文LR	前期前半
II-24-15層	64	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(6.4)	船形に纏推合む、彌文LR	前期前半
II-24-15層	65	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(4.3)	船形に纏推合む、彌文LR	前期前半
II-24-15層	66	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	船形に纏推合む、彌文	前期前半
II-24-15層	67	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	船形に纏推合む、彌文	前期前半
II-17-15層	68	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(8.4)	口字沈縁文に纏文充填	称名寺
II-19-15層	69	彌文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(20.9)	横位陣帶	後期前半
II-17-15層	70	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(7.4)	沈縁文に纏文LRを填	称名寺
II-17-15層	71	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.4)	口縁突起部、圧痕削痕	称名寺
II-17-15層	72	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.3)	横位陣帶、櫛歯状工具による柔撓文	後期前半
II-19-15層	73	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	口縁部横位沈縁、沈縁下に円形の連續刺突文	堀之内1
II-17-15層	74	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(8.5)	大彌文内に纏文LR充填	称名寺
II-17-15層	75	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	大彌文内に纏文LR充填	称名寺
II-17-15層	76	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(5.6)	櫛歯状工具による柔撓文	後期前半
II-17-15層	77	彌文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.4)	透し孔	称名寺
II-17-15層	78	彌文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.2)	透し孔下の円形刺突からC字状沈縁	称名寺
II-17-15層	79	彌文土器	鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	透し孔2、円形刺突3、沈縁	称名寺
II-24-15層	80	彌文土器	深鉢	底部	-	(9.4)	(3.2)		後期前半
II-24-15層	81	彌文土器	深鉢	底部	-	(12.6)	(2.6)	纏文LR	後期前半
II-13-14層	82	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(6.1)	半載竹管による集合沈縁	諸葛C
II-18-14層	83	彌文土器	口縁	-	-	-	(5.4)	口縁部突起、円形刺突文、C字状沈縁	堀之内1
II-19-14層	84	彌文土器	口縁	-	-	-	(4.5)	弧状の隆帯と聚く横位陣帶と沈縁	中期後半
II-24-14層	85	彌文土器	深鉢	口縁～体部	(18.9)	-	(5.8)	横位沈縁、円形刺突文	堀之内1
II-18-19-14層	86	彌文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(12.5)	口縁部横位沈縁、体部平行沈縁の逆三角形状区画内に纏文LR充填	堀之内1
II-19-14層	87	彌文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(9.0)	平行沈縁内に纏文充填	称名寺
II-23-14層	88	彌文土器	注口土器	口縁	-	-	(4.7)	空足部に透孔、体部円形刺突文	堀之内1
II-24-14層	89	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.3)	口縁部突起部、円形刺突文、縦位陣帶	堀之内1
II-19-14層	90	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口縁部横位沈縁と円形の連續刺突文	堀之内1
II-18-14層	91	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.0)	口縁部円形刺突文から横位沈縁、縦位沈縁	堀之内1
II-23-14層	92	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	口縁部横位沈縁	堀之内1
II-24-14層	93	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.0)	口縁部横位沈縁	堀之内1
II-24-14層	94	彌文土器	深鉢	口縁	-	(26.8)	(4.6)	口縁部横位沈縁	堀之内1
14層 No. 5	95	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.0)	口縁突起部から縦位沈縁と横位沈縁	後期前半
14層 No. 4	96	彌文土器	深鉢	口縁～体部	(18.7)	-	(16.5)	横位圧痕帶	後期前半
II-18-14層	97	彌文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(14.5)	横位圧痕帶	後期前半
II-24-14層	98	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(7.3)	8字字突起、透巻状沈縁	堀之内1
II-24-14層	99	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(10.0)	透巻状・横位・斜位平行沈縁	堀之内1
14層 No. 6	100	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	平行沈縁	堀之内1
II-23-14層	101	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	透巻状・斜位平行沈縁、纏文LR	堀之内1
II-24-14層	102	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	纏文LR	後期前半
II-12-14層	103	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	縦位条縫	後期前半
II-18-14層	104	彌文土器	深鉢	体部～底部	-	(6.0)	(4.2)	縦位沈縁	堀之内1
II-23-14層	105	彌文土器	深鉢	底部	-	(7.2)	(3.6)		後期前半
II-19-24-14層	106	彌文土器	蓋?	-	-	10.0	(2.4)	橋状把手手か	後期前半
IV-13-14層	107	彌文土器	注口土器	注口	-	-	(4.8)		後期前半
II-23-14層	108	彌文土器	注口土器	注口	-	-	(2.3)		後期前半
14層No. 3	109	彌文土器	深鉢	口縁	(24.6)	-	(9.2)	波状口縁突起部に透し孔と沈縁	堀之内1
II-18-24-14層	110	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(25.2)	縦位沈縁・斜位短沈縁	中層後半
IV-13-14層	111	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(4.1)	桔子状の熱帯文(文JL-R2本編)	前期、坂田式?
II-23-12層	112	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	口縁部刺込み、矢羽状沈縁、刺込み陣帶、横位条縫	前期、諸葛C
II-22-12層	113	彌文土器	深鉢	体部	-	-	(9.2)	縦位沈縁・波状沈縁	中層後半
II-17-23-12層	114	彌文土器	深鉢	口縁～体部	(21.0)	-	(16.9)	口縁突起部に円形刺突、体部は短沈縁・平行沈縁による梢円・半円形文	称名寺
II-17-12層	115	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.7)	水波文	称名寺
II-16-13層	116	彌文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	突起上部は陣帶を交差させ結組状意匠が成す 体部は沈縁内に纏文LR充填	称名寺
II-21-12層	117	彌文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.7)	突起上部には縦位に、外側に縦位に 回転状意匠を施す、内側朱彩部分的に残る	称名寺

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
II 21-12層	118	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.9)	棒状突起	称名寺
II 21-12層	119	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.0)	瓶位・弧状波線	称名寺
IV 7-12層	120	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(9.4)	突起部に溝し口上円形刺突文、口唇部横位沈線	壇之内1
II 17-12層	121	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.7)	双波状の突起部に溝し、それを繋ぐ丸線・S字状沈線	壇之内1
II 17-12層	122	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.6)	突起内外面に円形刺突文、周囲にC字状沈線と円形刺突文から横位沈線	壇之内1
II 21-12層	123	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.3)	小突起と口脣部横位沈線	壇之内1
II 17-12層	124	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	横位沈線内に円形の連続刺突文	壇之内1
II 18-12層	125	縄文土器	深鉢	口縁			(7.1)	口唇部横位沈線と円形刺突文、体部沈線と調文L	壇之内1
II 23-12層	126	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	R	
IV 11-12層	127	縄文土器	注口十器	注口部	-	-	(4.5)	橢柱把手欠損、横位沈線間に円形の連続刺突文	称名寺
II 17-12層	128	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	瓶位平行沈線、調文LR	壇之内1
II 16-12層	129	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	口縁突起部にS字状突起、横位刺込み帶、沈線	壇之内2
II 21-12層	130	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	带調文LR、横位沈線	壇之内2
IV 7-12層	131	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.0)	大崩土上の幾何学文	壇之内2
IV 1-12層	132	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	斜交沈線	後期前半
I 25-12層	133	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	弧状波線、斜交平行沈線、調文LR	壇之内1
II 22-12層	134	縄文土器	鉢	把手	-	-	(3.1)	口縁部横位把手	後期前半
I 25-12層	135	縄文土器	深鉢	体部			(8.5)	瓶位の圧痕隕帶と沈線、平行沈線による幾何学文	壇之内2
IV 7-12層	136	縄文土器	注口十器	口縁	(8.2)	-	(4.7)	瓶位平行沈線、瓶位沈線	壇之内2
IV 1-12層	137	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(12.4)	-	(11.5)	3条の横位平行沈線間に調文RL充填	壇之内2
II 18-12層	138	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(10.7)	横位隕帶	後期前半
IV 7-22-12層	139	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(27.0)	-	(8.3)	外唇部横位沈線、内面に3条の横位平行沈線、円形刺突文	加曾利B
IV 2-12層	140	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.5)	内面に7条以上の横位平行沈線	加曾利B
IV 7-12層	141	縄文土器	鉢	体部			(4.2)	外面 4条の横位平行沈線間に調文、弧状沈線	加曾利B
II 22-12層	142	縄文土器	シーラン鉢	鉢	-	(3.2)	(6.6)		後期前半
IV 6-13層	143	縄文土器	深鉢	底部	-	(7.2)	(3.8)	底部網代瓶	後期前半
IV 1-12層	144	縄文土器	深鉢	底部	-	(11.0)	(4.5)		後期前半
II 21-12層	145	縄文土器	深鉢	底部	-	(10.2)	(3.7)	底部網代瓶	後期前半
II 22-12層	146	縄文土器	深鉢	底部	-	(6.6)	(0.9)	底部網代瓶	後期前半
IV 7-12層	147	縄文土器	深鉢	底部	-	(7.8)	(4.8)	内面ミガキ	後期前半
III 14-8層	148	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	筋七二編連合む、調文RL	前期前半～中葉
III 20-8層	149	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	筋七二編連合む、口唇部頸筋、羽状調文LR	前期前半～中葉
I 19-8層	150	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(10.7)	筋七二編連合む、羽状調文RL	前期前半～中葉
I 20-8層	151	縄文土器	深鉢	体部			(5.4)	筋七二編連合む、羽状調文RL	前期前半～中葉
I 25-8層	152	縄文土器	深鉢	体部			(4.6)	筋七二編連合む、調文RL	前期前半～中葉
I 25-8層	153	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.7)	筋七二編連合む、調文RL	前期前半～中葉
I 25-8層	154	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.0)	筋七二編連合む、羽状調文RL	前期前半～中葉
I 25-8層	155	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.7)	筋七二編連合む、羽状調文RL	前期前半～中葉
IV 1-8層	156	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.9)	筋七二編連合む、羽状調文RL	前期前半～中葉
III 19-8層	157	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.4)	筋七二編連合む、羽状調文LR	前期前半～中葉
III 9-9層	158	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	筋七二編連合む、調文RL	前期前半～中葉
I 20-8層	159	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	筋七二編連合む	前期前半～中葉
I 25-8層	160	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.1)	筋七二編連合む、調文RL	前期前半～中葉
I 25-8層	161	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	筋七二編連合む、羽状調文RL	前期前半～中葉
I 20-8層	162	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.7)	筋七二編連合む、横(の)刺突文、内面ミガキ	前期前半～中葉
I 14-8層	163	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.3)	筋七二編連合む、調文RL、内面ミガキ	前期前半～中葉
I 20-8層	164	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	筋七二編連合む、内面ミガキ、外面部擦条文	前期前半～中葉
I 25-8層	165	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.1)	筋七二編連合む、横(の)刺突文・擦条文、内面ミガキ	前期前半～中葉
III 4-8層	166	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.1)	筋七二編連合む、熱糞条文、調文RL	前期前半～中葉
I 20-8層	167	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	筋七二編連合む、横位の連續刺突文、内面ミガキ	前期前半～中葉
IV 6-8層	168	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.9)	精円形の丸線区画内に瓶位沈線	中期後半
III 14-8層	169	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	外面部ミガキ	中期後半
III 14-8層	170	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	精円形の区画状沈線内に瓶位沈線	後期前半～中葉
III 15-8層	171	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	大崩土上の調文LR充填	称名寺
III 14-8層	172	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.4)	矢羽状の斜行沈線	中期後半
III 14-8層	173	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.6)	矢羽状の斜行沈線	中期後半
III 9-9層	174	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	瓶位沈線、斜行沈線	中期後半
III 20-8層	175	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(17.5)	瓶位沈線、矢羽状の斜行沈線	中期後半

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅲ9-8層	176	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.2)	縦位沈縫、斜行沈縫	中期後半
Ⅲ9-8層	177	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	縦位沈縫、斜行沈縫	中期後半
Ⅱ25-Ⅲ5-8層	178	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	頭部に維位平行沈縫、円形刺突文からC字状の沈縫	後期前半
Ⅲ15-8層	179	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.0)	弧状の微隆起縫と沈縫、縄文LR	中期後半
Ⅰ23-8層	180	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	無い縦位沈縫と、横位縫合	後期前半
Ⅰ19-8層	181	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	爪狀の連續刺突文	三十稻場
Ⅰ14-8層	182	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	爪狀の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ20-8層	183	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	稍圓形の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ9-8層	184	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	爪狀の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ15-8層	185	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	爪狀の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ15-8層	186	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	爪狀の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ15-8層	187	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	稍圓形の連續刺突文	三十稻場
Ⅰ14-8層	188	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.3)	爪狀の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ9-8層	189	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.0)	管狀工具による円形の連續刺突文	三十稻場?
IV1-8層	190	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	円形の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ9-8層	191	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(1.7)	円形の連續刺突文	三十稻場
Ⅲ9-9層	192	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	管狀工具による糸縫	前期?
Ⅲ15-9層	193	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	管狀工具による糸縫	前期?
Ⅲ15-8層	194	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.5)	弧狀の微隆起縫、縄文LR	称名寺
Ⅲ19-8層	195	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	縦位の微隆起縫、縄文LR	称名寺
Ⅲ9-8層	196	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.3)	縦位の微隆起縫、縄文LR	称名寺
Ⅲ14-8層	197	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.8)	弧狀の微隆起縫と沈縫、縄文、穿孔	称名寺
Ⅰ18-8層	198	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	弧狀の微隆起縫と沈縫、縄文	称名寺
Ⅰ18-8層	199	縄文土器	鉢	体部	-	-	(5.7)	弧狀の微隆起縫と沈縫	称名寺
Ⅲ15-8層	200	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	弧狀の微隆起縫と沈縫	称名寺
Ⅲ15-8層	201	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.8)	弧狀の微隆起縫と沈縫	称名寺
Ⅲ15-8層	202	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	弧狀の微隆起縫と沈縫、縄文LR	称名寺
Ⅲ5-8層	203	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.3)	弧狀の平行沈縫間に縄文LRを填	称名寺
Ⅲ5-8層	204	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.5)	弧狀の平行沈縫間に縄文LRを填	称名寺
Ⅲ14-8層	205	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	弧狀の平行沈縫間に縄文LRを填	称名寺
Ⅲ9-8層	206	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.8)	平行沈縫間に縄文LRを填、円形刺突文	称名寺
IV6-9層	207	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	平行沈縫間に縄文LRを填	称名寺
Ⅲ15-8層	208	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(11.6)	縦位の横縫合、U字状沈縫内に縄文	称名寺
Ⅲ15-8層	209	縄文土器	鉢	体部	-	-	(9.3)	横位縫合、U字状沈縫	称名寺
Ⅲ9-8層	210	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.6)	弧狀の平行沈縫間に縄文LRを填	称名寺
IV1-8層	211	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.0)	縦位沈縫突起、内面側にV字状突起が付く	称名寺
Ⅰ19-8層	212	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.1)	環状突起、側面削孔、内面側に円形刺突2	称名寺
Ⅱ25-8層	213	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.4)	側面環状突起、側面に溝し孔2	称名寺
Ⅱ20-8層	214	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.4)	側面削孔上に環状突起が付く	称名寺
III18-9層	215	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.0)	縦位環状突起、両側上下に円形刺突があり、ねじねじ繩C字状沈縫	称名寺
Ⅲ20-8層	216	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.5)	上部、側面2か所に円形刺突	称名寺
Ⅲ9-8層	217	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(11.9)	極端把手、横縫合	称名寺
Ⅲ20-8層	218	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(10.8)	外面部28字状、内面は環状の隆帯上に沈縫、突起部にU字縫合も沈縫、内面から円形の溝し孔	称名寺
Ⅲ20-8層	219	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(10.4)	外面部28字状隆帯、波状口縁に付いた2条の微隆起縫合、U字状沈縫	称名寺
Ⅲ14-8層	220	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(9.7)	縦位の横状突起、U字状沈縫突起	称名寺
Ⅲ15-8層	221	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(11.2)	縦位環状突起上に環状突起を付し、側面、上面、内面にU字状沈縫突起と沈縫を有す	称名寺
Ⅲ20-8層	222	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.6)	縦位環状突起、内面は縦位沈縫内に円形の連續刺突文、外面部沈縫	称名寺
Ⅲ9-8層	223	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.2)	縦位環状突起、片方の側面のみ円形の連續刺突文が付す、外面部沈縫	称名寺
Ⅲ5-8層	224	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.8)	外面部環状の張付文、円形刺突文、沈縫、内面側に横縫合	称名寺
Ⅱ25-8層	225	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.6)	環状突起か、突起部に環状張付文と円形刺突文	称名寺
Ⅲ9-8層	226	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	横位の横状突起上に円形の連續刺突文	称名寺
Ⅲ15-8層	227	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.4)	内面側に側面内側に折り込むC字状の突起、外面部28字状の隆帯か	称名寺
Ⅲ9-9層	228	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(7.8)	上部に円形刺突、外面部円形刺突文、沈縫文	称名寺
Ⅲ9-8層	229	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.9)	沈縫文、縄文LRか	称名寺

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
III-5-層	230	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.9)	沈線間に円形刺突文	称名寺
III-14-8層	231	調文土器	鉢	口縁	-	-	(6.3)	内面文、調文LR	称名寺
III-20-8層	232	調文土器	鉢	口縁	-	-	(4.9)	横位沈線、調文LR	称名寺
I-15-8層	233	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	横位沈線	称名寺
III-14-8層	234	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	調文LR	称名寺
IV-11-8層	235	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.6)	横位平行沈線、調文RL	称名寺
III-15-8層	236	調文土器	鉢	口縁	-	-	(4.1)	横位沈線、調文LR	称名寺
III-14-8層	237	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	沈線文、調文LR	称名寺
I-14-8層	238	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	無文	後期前半
III-15-8層	239	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.4)	無文	称名寺
III-15-8層	240	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.8)	円形の漸連刺突文	称名寺?
III-20-8層	241	調文土器	深鉢	口縁	(27.2)	-	(7.5)	波状口縁の突起部に透し孔 頭部横状把手、円形の漸連刺突文	塙之内1
I-19-8層	242	調文土器	深鉢	口縁	(18.0)	-	(6.6)	突起部に「口字状圧痕帯」、頭部に横状把手 内面に溝文、調文LR	塙之内1
IV-11-8層	243	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	突起部に「口字状沈線」、突起下に縦位沈線	塙之内1
III-5-8層	244	調文土器	深鉢	口縁～全体	(10.0)	-	(7.7)	内面に溝文、調文LR	塙之内1
III-20-8層	245	調文土器	深鉢	口縁	(17.2)	-	(4.3)	突起上端に溝文、口唇部は沈線と円形刺突文	塙之内1
IV-11-8層	246	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.7)	突起外側には沈線、内面は環状か	塙之内1
III-15-8層	247	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.1)	斜行する横状把手、内面に円形刺突	塙之内1?
I-14-8層	248	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.2)	小突起側面に透し孔、内面に円形刺突	塙之内1?
III-15-8層	249	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.0)	8字状突起	称名寺?
IV-11-8層	250	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.0)	縦位沈線、内面に円形刺突、透し孔	塙之内1
III-14-8層	251	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.8)	縦状突起内面に沈線と円形透し	塙之内1
IV-11-8層	252	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.6)	突起外側に円形刺突文、縦位圧痕帯	塙之内1
III-9-8層	253	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.5)	外面は8字状突起、C字状突起	塙之内1
I-25-8層	254	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(3.8)	突起部に「縦位沈線」、横位沈線	塙之内1
III-14-8層	255	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	環状突起、外面は横位沈線間に円形の 漸連刺突文、内面口唇部弧状沈線	塙之内1
III-10-9層	256	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.3)	外面に「C字状沈線」、外面上に円形刺突文	塙之内1
III-15-8層	257	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.6)	突起頂部の外面上に縦位に8字状突起	塙之内1
III-20-8層	258	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.7)	内面に円形刺突文	後期前半
III-15-8層	259	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.9)	突起部に「口字状沈線」	塙之内1
III-10-9層	260	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.4)	突起部の環状筋	塙之内1か
IV-11-8層	261	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.1)	外面に「C字状沈線」、縦位沈線	塙之内1
III-15-8層	262	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(2.6)	内外面円形刺突文、横位沈線	塙之内1
IV-11-8層	263	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(3.3)	透し孔裏面に円形刺突文、横位沈線、内面横位沈線	塙之内1
III-9-8層	264	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.5)	外面円形刺突文から縦位沈線	塙之内1
III-15-9層	265	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	縦位平行沈線、口唇部横位沈線	塙之内1
III-4-9層	266	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.6)	縦位、斜位平行沈線、口唇部横位沈線	塙之内1
III-4-8層	267	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	斜位平行沈線、口唇部横位沈線	塙之内1
III-20-8層	268	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.5)	縦位平行沈線施文にナデ、口唇部横位沈線	塙之内1
III-14-8層	269	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	縦位平行沈線、口唇部横位沈線	塙之内1
III-15-8層	270	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	突起部に「円形刺突文」	塙之内1
III-20-8層	271	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	口唇部横位沈線	塙之内1
III-5-8層	272	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.9)	口唇部横位沈線	塙之内1
III-15-8層	273	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	口唇部横位沈線	塙之内1
III-20-8層	274	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	口唇部横位沈線	塙之内1
I-25-6層	275	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.4)	口唇部横位沈線	塙之内1
III-15-8層	276	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	口唇部横位沈線	塙之内1
I-25-8層	277	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	口唇部に縦位 sond	後期前半
III-15-8層	278	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	口唇部横位沈線	後期前半
III-15-8層	279	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	口唇部横位沈線	塙之内1
III-15-8層	280	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	口唇部円形刺突文から横位沈線	塙之内1
I-25-8層	281	調文土器	鉢	口縁	-	-	(4.9)	円形刺突文、横位、弧状沈線、調文LR	塙之内1
III-20-8層	282	調文土器	深鉢	体部	-	-	(8.6)	4条の縦位平行沈線間に網文RL	塙之内1
III-15-8層	283	調文土器	深鉢	体部	-	-	(12.1)	8字状突起下に6条の平行沈線による半円形文 と、 4条の縦位平行沈線	塙之内1
III-15-8層	284	調文土器	深鉢	体部	-	-	(7.4)	弧状の平行沈線	塙之内1
IV-6-8層	285	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.1)	8字状突起下に満巣状沈線、弧状沈線、調文LR	塙之内1

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
III10-9層	286	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	腹部に円形刺突文と横位沈線	堀之内1
III14-9層	287	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	横位・弧状の平行沈線、調文LR	堀之内1
III15-8層	288	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.2)	8字状突起、横位・弧状沈線、調文LR	堀之内1
III15-9層	289	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	管状工具による爪状の圧痕隆帯、横位・弧状沈線	堀之内1
I 25-6層	290	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.6)	円形の圧痕隆帯、弧状の平行沈線、調文LR	堀之内1
IV1-8層	291	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	横位圧痕隆帯状の8字状突起、調文状沈線	堀之内1
III5-5層	292	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.1)	横位圧痕隆帯状の8字状突起から斜位の隆帯	堀之内1
IV11-8層	293	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	2段の横位圧痕隆帯、円形刺突文、弧状沈線	堀之内1
IV11-8層	294	調文土器	鉢	体部	-	-	(5.6)	横位沈線間に調文LR	堀之内1
III5-8層	295	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	圧痕隆帯、対称状の平行沈線	加曾利B
III5-8層	296	調文土器	深鉢	体部	-	-	(7.9)	対称状の平行沈線	加曾利B
III5-8層	297	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	安息に溝	堀之内1
III4-8層	298	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	8字状突起、弧状沈線、調文LR	堀之内1
III4-8層	299	調文土器	鉢	体部	-	-	(4.3)	隆筋を繋ぐV字の構状把手、把手下に縱横位隆帯、横位沈線、円形の漸縮刺突文	堀之内1
I 19-8層	300	調文土器	鉢	体部	-	-	(3.7)	横状把手の筋に円形刺突文、外面朱彩	堀之内1
III5-8層	301	調文土器	深鉢	口縁	(21.7)	-	(8.4)	301+302側面側	堀之内2か
III5-8層	302	調文土器	深鉢	体部	-	-	(8.4)	301+302側面側	堀之内2か
III4-9層	303	調文土器	圧口土器	把手	-	-	(5.9)	横状把手下に8字状突起、弧状沈線、調文	堀之内2
III15-8層	304	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.8)	8字状突起、調文LR、平行沈線による幾何学文、内面は2面に円形刺突	堀之内2
III4-8層	305	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	口唇部刻み、波状頂上端に円形刺突文、外面に横位刻み隆帯と8字状突起、沈線、調文LR	堀之内2
III15-8層	306	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	横位刻み隆帯と8字状突起、沈線、調文	堀之内2
III4-8層	307	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.1)	横位刻み隆帯、横位沈線間に調文LR	堀之内2
III10-9層	308	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	小突起部に横位沈線、内外面2か所ずつ円形刺突文、外面部の圧痕隆帯	堀之内2
III5-8層	309	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口唇部刻み、寺人禮と円形刺突文、8字状隆帯、2条の横位沈線間に調文LR	堀之内2
III5-8層	310	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.6)	横位圧痕隆帯、横位沈線、調文	堀之内2
III5-8層	311	調文土器	深鉢	口縁	(18.2)	-	(6.3)	3条の横位沈線、上段に調文LR	堀之内2
IV11-8層	312	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	沈線間に調文LR充填	堀之内2
III5-8層	313	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	横位刻み隆帯	堀之内2
III14-8層	314	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	調文LR、横位沈線	堀之内2
III19-8層	315	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	横位圧痕隆帯、8字状突起、調文LR、沈線による幾何学文	堀之内2
III15-8層	316	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.1)	2段の横位圧痕隆帯	堀之内2
IV11-8層	317	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	口唇部刻み、横位・弧状沈線	堀之内2
III15-8層	318	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	横位平行沈線、横位・斜位沈線による幾何学文	堀之内2
III15-8層	319	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	外面部ミガキと口唇部刻み、横位沈線、波状口縁	堀之内2
III13-8層	320	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	横位平行沈線間に横位軸状工具による縦位条縫を左寄せ	後期?
III15-8層	321	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	横位沈線間に調文	堀之内2
III15-8層	323	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.2)	横位刻み隆帯	堀之内2
III10-9層	323	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.1)	横位隆帯による小突起、両端に円形刺突、横位沈線	堀之内2
III15-8層	325	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	横位沈線	堀之内2
III15-8層	325	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	内面に横位沈線、穿孔	堀之内2
III15-8層	326	調文土器	深鉢	口縁	(13.2)	-	(4.9)	内外面ミガキ	堀之内2
III15-8層	327	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.0)	内外面ミガキ	堀之内2
III15-8層	328	調文土器	鉢	口縁	-	-	(4.4)	内外面ミガキ	堀之内2
III15-8層	329	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.2)	S字状突起、内面に円形刺突	堀之内2
III15-8層	330	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.4)	3/4円の円形刺突	堀之内2
IV11-8層	331	調文土器	深鉢	口縁+体部	(11.0)	-	(6.3)	3条の横位沈線	堀之内2
III9-8層	332	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.1)	内面に横位沈線	堀之内2
III15-8層	333	調文土器	鉢	口縁	(13.0)	-	(3.7)	横位沈線間に調文LR、円形刺突、弧状沈線	堀之内2
IV1-12層	334	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	横位沈線間に調文LR、口唇部刻み目	加曾利B
III15-8層	335	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(2.7)	横位環状突起	堀之内2
III15-8層	336	調文土器	深鉢	体部	-	-	(6.7)	調文LR、沈線による幾何学文	堀之内2
III9-8層	337	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.5)	調文LR、沈線	堀之内2
III14-8層	338	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	調文LR、沈線	堀之内2
III9-8層	339	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.4)	調文LR、沈線	堀之内2
III15-8層	340	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	調文LR、沈線	堀之内2?

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
III 15-8層	341	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.8)	横位沈線	振之内2.9
III 15-8層	342	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.9)	内外面ミガキ	振之内2
III 5-8層	343	縄文土器	鉢	口縁～体部	9.6	-	(5.6)	5条の横位平行沈線、内外面ミガキ	加曾利B
III 15-8層	344	縄文土器	深鉢	口縁	(10.4)	-	(5.2)	口縁部の窪状突起、2段の圧痕隆帯を繋ぐ連結した8字状張付文、縄文LR、沈線文	加曾利B
III 15-8層	345	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.3)	口縁部の窪状突起、2段の圧痕隆帯を繋ぐ連結した8字状張付文	加曾利B
III 15-8層	346	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.1)	縄文LR、鉢形・横位沈線	加曾利B
III 15-8層	347	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.7)	縄文LR、横位沈線	加曾利B
III 14-8層	348	縄文土器	注口土器	口縁～体部	(7.6)	-	(6.9)	体上部は横位平行沈線で、交互に刻みが施される。中央は細密条線による結び状意匠が描かれる。	加曾利B
III 14-8層	349	縄文土器	注口土器	体部	-	-	(5.1)	細密条線による結び状意匠	加曾利B
IV 11-8層	350	縄文土器	注口土器	口縁～体部	(7.2)	-	(6.0)	口縁から体部上半は横位平行沈線で、交互に刻みが施される。体部中央は条縞による逆三角形意匠。	加曾利B
III 14-8層	351	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.0)	口唇部刻み、内面4条以上の横位平行沈線、突起は外側に3(?)所内側に1所の円形刺突、口縁部横位沈線が突起左側の円形刺突に繋がる。突起下に2段の沈線	加曾利B
III 10-9層	352	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.9)	内面2条の横位平行沈線、突起は外側に3か所内側に2か所の円形刺突、外側沈線と縄文	加曾利B
II 14-8層	353	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.2)	外側2か所内側1か所の円形刺突	加曾利B
III 15-8層	354	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.2)	外側3か所内側1か所の円形刺突	加曾利B
IV 11-8層	355	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.9)	外側3か所の円形刺突、内面細い沈線	加曾利B
III 5-8層	356	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.4)	突起中央に溝られ、上部に2か所の円形刺突	加曾利B
III 5-8層	357	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.9)	突起中央に溝られ、上部に5(?)所の円形刺突	加曾利B
III 5-8層	358	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.1)	外側2か所内側1か所の円形刺突、上端は弧状沈線	加曾利B
III 15-9層	359	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(9.2)	突起右側に円形刺突、中央透し孔、内面5条、外側5条の横位平行沈線	加曾利B
III 15-8層	360	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	突起右側と内面に円形刺突、中央透し孔、内面4条以上との横位平行沈線	加曾利B
IV 6-8層	361	縄文土器	注口土器	体部	-	-	(4.4)	透水性充満の周囲を開けた条縞、円形刺突文	加曾利B
III 4-8層	362	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	2か所の透孔。内面に横(?)・弧状沈線、横位沈線帶に刻みを施す。外面白唇部透水性充満間に縄文	加曾利B
III 15-8層	363	縄文土器	注口土器	口縁	(10.4)	-	(6.7)	2条の横位平行沈線	加曾利B?
III 15-8層	364	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(21.6)	-	(13.6)	口唇部円形刺突文、3条の平行沈線	加曾利B
III 15-8層	365	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(15.0)	外側12条の横位平行沈線、鉗手状の横位沈線による5条の平行沈線、内面は口縁部に短い喉位沈線帶と円形の連續刺突文、5条の横位平行沈線	加曾利B
III 15-8層	366	縄文土器	深鉢	口縁～体部	20.2	-	(12.2)	5(?)条同側	加曾利B
IV 11-8層	367	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(17.6)	-	(9.9)	口唇部刻み、耳状小穴突起、外面白の横位平行沈線帶に縄文LR光沢、弧状沈線を縦位に配置	加曾利B
III 5-8層	368	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(4.3)	口唇部刻み、内面は口縫下に円形の連續刺突文と横位4条、4条の平行沈線、外面白の横位平行沈線	加曾利B
III 20-8層	369	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	口唇部刻み、外面白の横位平行沈線 内面4条の横位平行沈線	加曾利B
III 15-9層	370	縄文土器	深鉢	口縁	(16.6)	-	(4.9)	外側3条、内面4条の横位平行沈線、口唇部横位沈線	加曾利B
III 15-8層	371	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.4)	口唇部刻み、外面白3条、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
III 19-8層	372	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	外面白3条、内面4条の横位平行沈線、口唇部刻み	加曾利B
III 15-8層	373	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.1)	外面白3条、内面5条の横位平行沈線	加曾利B
III 19-8層	374	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.9)	外面白3条、内面3条の横位平行沈線	加曾利B
IV 11-8層	375	縄文土器	深鉢	口縁	(19.0)	-	(5.7)	口唇部刻み、外面白4条以上、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
III 15-8層	376	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	外面白5条、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
III 15-8層	377	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	外面白5条の横位平行沈線間に縄文、内面4条以上の横位平行沈線	加曾利B
III 15-8層	378	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	外面白5条、内面3条の横位平行沈線	加曾利B
III 15-8層	379	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	外面白5条、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
IV 11-8層	380	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	横位平行沈線間に縄文LR充填、縦長の刺突を斜めに施す	加曾利B

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
III-15-8層	381	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.0)	口唇部刻み、内面3条の横位平行沈線	加曾利B
III-15-8層	382	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(3.8)	口唇部刻み、外面3条の横位沈線	加曾利B
III-10-9層	383	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(2.8)	外面部横位平行沈線間に縄文RL充填	加曾利B
IVI-11-8層	384	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	口唇部刻み、外面部3条の横位沈線、内面横位隆筋	加曾利B
III-10-8層	385	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.1)	口唇部刻み、外面部横位平行沈線	加曾利B
III-14-8層	386	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(3.7)	外面部2か所に内面2か所の圓形刺突	加曾利B
III-14-8層	387	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	外面部圓形刺突、横位沈線、縄文LR、内面横位沈線	加曾利B
III-15-8層	388	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	内面の満巻状沈線、多条の横位沈線間に縄文LR充填	加曾利B
IVI-11-8層	389	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	外面部5条以上の横位平行沈線間に縄文RL充填 内面5条以上の横位沈線、4条以上の横位平行沈線	加曾利B
III-15-8層	390	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	外面部横位平行沈線、弧状沈線間に刺突文 内面横位沈線上部に連続刺突文	加曾利B? ^{ME}
IVI-11-8層	391	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	外面部横位平行沈線間に縄文LR充填、継長の刺突文に施す	加曾利B
III-14-8層	392	縄文土器	注口土器	体部	-	-	(3.1)	外面部横位平行沈線間に斜位の細沈線	加曾利B
III-15-8層	393	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(11.8)	横位除帶、縄文LR	後期前半
III-15-8層	394	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.8)	縄文LR	後期前半
III-14-8層	395	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(10.3)	横位刻み隆筋	後期前半
III-14-8層	396	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	横位刻み隆筋	後期前半
III-9-8層	397	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.6)	口縁から弧状に伸びる圧痕隆筋	後期前半
III-9-8層	398	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.7)	横位刻み隆筋	後期前半
III-14-8層	399	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	口縁から弧状に伸びる圧痕隆筋	後期前半
III-8層	400	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	2段の横位圧痕隆筋	後期前半
III-5-8層	401	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	2段の横位圧痕隆筋	後期前半
IVI-8層	402	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	横位刻み隆筋	後期前半
III-15-8層	403	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	横位刻み隆筋	後期前半
IVI-6-8層	404	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.7)	横位刻み隆筋	後期前半
I-18-8層	405	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	横位刻み隆筋	後期前半
I-19-8層	406	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	横々・弧状の沈線	後期前半
III-14-8層	407	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.4)	横位除帶	後期前半
III-14-8層	408	縄文土器	深鉢	口縫~体部	(23.2)	-	(10.0)	無文	後期前半
III-9-8層	409	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	横位除帶、穿孔	後期前半
III-20-9層	410	縄文土器	深鉢	口縁~体部	(40.2)	-	(30.1)	口縁起突部に圓形刺突文3、頸部4条の平行沈線 円形刺突文、5条の平行沈線による満巻き文、 縄文LR	幅之内1
IVI-11-8層	411	縄文土器	深鉢	体部~底部	-	7.3	(12.6)	底部網代底	後期前半
III-15-8層	412	縄文土器	深鉢	口縁~体部	11.2	-	(12.1)	無文	後期前半
III-15-8層	413	縄文土器	注口土器	口縁~体部	(18.6)	-	(19.7)	8条の横位沈線、注口上部に弧状沈線による意匠	加曾利B?
III-14-8層	414	縄文土器	注口土器	口縁~底部	(7.8)	(5.4)	(11.6)	注口上部に横状把手、底部網代底	幅之内2か所
III-15-8層	415	縄文土器	注口土器	注口部	-	8.0	-	注口上部に横状把手、側面ヘラ状工具によるナード	後期前半
III-20-8層	416	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(7.4)	注口上部に横状把手、内面圓形刺突文、外面沈線文	名寺
III-4-8層	417	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.8)	注口上部の横状把手に圓形刺突文、外面部沈線文	後期前半
IVI-11-8層	418	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.3)	注口上部に横状把手	後期前半
III-9-8層	419	縄文土器	深鉢?	口縁	-	-	(3.9)	受口部を有する、外面部沈線と圓形刺突文	幅之内1か所
III-10-9層	420	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(3.6)	注口上部に横状把手、側面に沈線文	後期前半
III-14-8層	421	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.6)	外面部ガ年	後期前半
III-14-8層	422	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.9)	外面部ガ年	後期前半
III-15-8層	423	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.7)	外面部ガ年	後期前半
III-20-8層	424	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.1)	外面部ガ年	後期前半
III-15-8層	425	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(2.4)	無文	後期前半
IVI-11-8層	426	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(3.1)	無文	後期前半
III-14-8層	427	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.3)	外面部ガ年	後期前半
I-25-6層	428	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.1)	注口上部に横状把手	後期前半
III-15-8層	429	縄文土器	注口土器	山根部把手	-	-	(3.1)	横状把手、沈線文	後期前半
IVI-11-8層	430	縄文土器	鉢	山根部把手	-	-	(5.1)	横状把手	後期前半
I-23-8層	431	縄文土器	鉢	山根部把手	-	-	(2.7)	横状把手	後期前半
III-15-8層	432	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(3.7)	注口上部に横状把手	後期前半
I-19-8層	433	縄文土器	鉢	山根部把手	-	-	(7.2)	横状把手	名寺

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
III-5-8層	434	調文土器	注口土器	把手	-	-	(4.0)	捲狀把手	後期前半
III-5-8層	435	調文土器	注口土器	把手	-	-	(2.9)	捲狀把手	後期前半
III-2-3層	436	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	船上に幾何合む、調文	前期中半~中葉
II-2-3層	437	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	船上に幾何合む、羽状調文	前期中半~中葉
II-1-3層	438	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	船上に幾何合む、横位隆帯、羽状調文LR	前期 稲田式か
II-1-3層	439	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.5)	船上に幾何合む、調文	前期中半~中葉
II-2-3層	440	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	船上に幾何合む	前期中半~中葉
I-2-3層	441	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	爪状の連続刺突文	三十船場
II-6-3層	442	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.7)	横位才沈線、椎状の連続刺突文	後期前半
II-15-3層	443	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.8)	爪状の連続刺突文	二十船場
I-19-3層	444	調文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	横位上円形隆帯、爪状の連続刺突文	三十船場
I-20-3層	445	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.5)	外面隆帯、内面凸形刺突文	称名寺
II-6-3層	446	調文土器	深鉢	口縁	(10.8)	-	(8.0)	沈線文	称名寺
I-14-3層	447	調文土器	鉢	口縁	-	-	(5.6)	捲狀把手、内面透し孔	称名寺
II-6-3層	448	調文土器	鉢	口縫部把手	-	-	(5.2)	捲狀把手、内面凸形刺突	称名寺
I-22-3層	449	調文土器	鉢	口縁	-	-	(5.4)	横位才沈線、横位才沈線による区画内に捲文R	後期前半
I-22-3層	450	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	円形の連続刺突文	後期前半
I-20-3層	451	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	口唇部に円形刺突文と沈線	称名寺
I-19-3層	452	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.3)	爪状の微細な透孔と才沈線	称名寺
I-19-3層	453	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(3.3)	捲転状の突起、透し孔1、上部3・外側1の円形刺突文	称名寺
I-24-3層	454	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(4.7)	突起部は3条の横位沈線、口縁に沿う円形の連続刺突文	称名寺
I-19-3層	455	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(5.7)	8字状隆帯上に沈線、口縁に沿う円形の連続刺突文	称名寺
I-19-3層	456	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(5.8)	9字状隆帯上に円形刺突文と沈線、口縁に沿う円形の連続刺突文、内面円形刺突	称名寺
I-23-3層	457	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(2.6)	環状突起、突起外面に沈線	称名寺
II-6-3層	458	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(4.3)	横位突起	称名寺
III-2-3層	459	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	条文、沈線文	称名寺
I-14-3層	460	調文土器	深鉢	口縫～体部	(28.6)	-	(11.9)	突起部内外に円形刺突文、外面にC字状沈線 頸部に5字状突起、3~4条の平行沈線文	壠之内1
I-22-3層	461	調文土器	深鉢	体部～底部	-	(9.4)	(11.4)	平行才沈線による弧状の沈線文	壠之内2?
I-22-3層	462	調文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	平行才沈線による弧状の沈線文	壠之内2?
I-24-3層	463	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(7.6)	外面は稍大形と小形円形の環状突起が連結 内面には稍大形と小形円形の環状突起を付し、それぞれに円形刺突 沈線が施される	称名寺が壠之内
I-24-3層	464	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(3.9)	透し孔1、円形刺突文外側2、内面1	壠之内1
I-14-3層	465	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(4.2)	突起部内外に円形刺突文、外面にはC字状沈線、 横位沈線、横位沈線	壠之内1
I-23-3層	466	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(4.3)	の字状隆帯、口唇部に2条の横位平行沈線	壠之内1
I-22-3層	467	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	口唇部に横位沈線	壠之内1
I-23-3層	468	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.5)	突起部に透し孔、円形刺突文3、口唇部に横位沈 線	壠之内1
I-22-3層	469	調文土器	鉢	口縁	-	-	(3.0)	円形の連続刺突文	壠之内1
I-15-3層	470	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.8)	口唇部に横位沈線	壠之内1
II-6-3層	471	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.3)	口唇部に横位沈線	壠之内1
I-23-3層	472	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口唇部に横位沈線と円形刺突	壠之内1
I-19-3層	473	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.4)	円形刺突、横位、縦位沈線、縦位才沈線、縦位上円形隆 帯	壠之内1
I-18-3層	474	調文土器	深鉢	口縫部突起	-	-	(4.9)	内面は円形刺突、沈線 外面は円形刺突、C字状沈線、横位平行沈線間に に捲文	壠之内1
I-23-3層	475	調文土器	深鉢	体部	-	-	(7.3)	C字の横状把手、把手脇に円形刺突文、頸部に 横位隆帯	壠之内1
I-23-3層	476	調文土器	鉢	体部	-	-	(6.1)	頸部に横位平行沈線と円形刺突文、体部は横位 平行沈線の上に3条の弧状・斜行平行沈線による 意匠	壠之内1
I-23-3層	477	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	外面上に炭化物付着	
I-18-3層	478	調文土器	深鉢	体部	-	-	(6.4)	頸部に円形の連続刺突文、体部に弧状沈線、縦 沈線LR	壠之内1
I-23-3層	479	調文土器	深鉢	体部	-	-	(4.7)	横位・縦位の平行沈線、調文LR	壠之内1

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
I 14-3層	480	調文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	縦位・斜位の平行沈線	壇之内1
I 22-3層	481	調文土器	深鉢	体部	-	-	(6.6)	集合沈線による幾何学文、円形刺突文	壇之内2
I 15-3層	482	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.7)	口唇部横位沈線、縦位刻み縫帶上に、縱横の8字状起部記付、波状の縦位沈線、調文LR	壇之内2
I 14-15-3層	483	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.8)	内面に円形刺突文、C字状沈線、横位沈線 外面頸部に横位沈線と字状突起	壇之内2
I 22-3層	484	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.0)	横位刻み縫帶上に8字状突起	壇之内2
I 14-3層	485	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	口縁内面に縦位沈線	壇之内2
I 22-3層	486	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	3条の縦位刻み縫帶	壇之内2
I 24-3層	487	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.4)	横位沈線	壇之内2
I 18-3層	488	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	小突起部内外面に円形刺突と横位沈線、外面上にC字状沈線	壇之内2
I 19-3層	489	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	口縁部内面横位沈線、外面沈線区画内に調文LR	壇之内2
II 6-3層	490	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	沈文	後期前半
I 23-3層	491	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.5)	沈文、調文、調文LRか	称名寺
I 19-3層	492	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	横位降帯	後期前半
I 19-3層	493	調文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(5.2)	透し孔、上面に円形刺突文	加曾利B
III 2-3層	494	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	内面に5条以上の縦位沈線	加曾利B
I 22-3層	495	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(1.8)	口唇部刻み、内面に横位沈線	加曾利B
III 15-8層	503	調文土器	約手器	把手	-	-	(8.6)	透し孔、沈文	後期
III 25-6層	504	須恵器	壺	体部	-	-	(4.4)	内面ロクナデ、外面クロナデ、ヘラケズリ	奈良・平安
IV 11-8層	509	調文土器	深鉢	体部～底部	-	(7.2)	(16.6)	底部側面直角	壇之内2か
III 15-8層	530	調文土器	深鉢	口縁～体部	(28.2)	-	(19.8)	無文	後期前半
III 14-8層	531	調文土器	深鉢	把手	-	-	(9.5)	横位降帯を驚ぐ様状把手	後期前半
III 9-8層	532	調文土器	深鉢	把手	-	-	(7.9)	横状把手中央に縦位の圧痕降帯	後期前半
III 20-8層	533	調文土器	深鉢	把手	-	-	(5.1)	横状把手の側面に円形刺突	後期前半
IV 6-8層	534	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.7)	内面溝巻き文、C字状沈線と円形刺突 外面部は幅広の口縁内に沈線を施す	壇之内1か
III 14-8層	535	調文土器	鉢	口縁突起	-	-	(6.3)	内面に溝巻き沈線による溝巻文、周間に沈線	壇之内1か
III 20-8層	536	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.0)	C字状を呈し、上面及び内面に沈線を施す	称名寺か
III 20-8層	537	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.5)	8字形の横状突起	称名寺か
III 20-8層	538	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	縦状突起、内外面に透し孔	称名寺か
III 19-8層	539	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	8字形の横状突起、C字状沈線と円形刺突 外面部は幅広の口縁内に沈線を施す	壇之内1か
III 5-9層	540	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.0)	縦位沈線と円形刺突	壇之内1か
III 15-8層	541	調文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	外面部横位筋帯、沈線、円形刺突文	後期前半
III 5-8層	542	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.4)	口唇部に円形の溝巻刺突文	後期前半
III 15-8層	543	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.7)	2条の縦位刻み縫帶	壇之内2か
III 5-8層	544	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	沈文	後期前半
III 12-8層	545	調文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.1)	横位沈線、縦位に連続する棒状の圧痕	後期前半
III 15-9層	546	調文土器	台形の跡?	体部	-	-	(2.9)	調文LR	後期前半
II 6-3層	547	調文土器	深鉢	体部～底部	-	6.4	(13.3)	縦位沈線、調文LR	壇之内1
IV 11-8層	548	調文土器	深鉢	底部	-	8.8	(9.3)	底部側面直角	後期前半
III 9-8層	549	調文土器	深鉢	底部	-	7.9	(6.1)	底部側面直角	後期前半
III 11-8層	550	調文土器	深鉢	底部	-	9.8	(5.3)	底部側面直角	後期前半
III 11-8層	551	調文土器	深鉢	底部	-	(11.0)	(5.3)	底部側面直角	後期前半
III 10-9層	552	調文土器	深鉢	底部	-	(9.8)	(4.2)	底部側面直角	後期前半
III 14-15-8層	553	調文土器	深鉢	底部	-	8.1	(3.4)	底部側面直角	後期前半
III 15-8層	554	調文土器	深鉢	底部	-	(7.8)	(2.9)	底部側面直角	後期前半
III 14-8層	555	調文土器	深鉢	底部	-	(10.8)	(5.3)	底部側面直角	後期前半
IV 6-8層	556	調文土器	深鉢	底部	-	(11.0)	(3.3)	底部側面直角	後期前半
III 15-8層	557	調文土器	深鉢	底部	-	(11.0)	(9.4)	底部側面直角	後期前半
III 14-8層	558	調文土器	深鉢	底部	-	9.2	(4.1)	底部側面直角	後期前半
IV 1-8層	559	調文土器	深鉢	底部	-	(8.6)	(4.7)	底部側面直角	後期前半
III 15-8層	560	調文土器	深鉢	底部	-	(8.6)	(4.5)	底部側面直角	後期前半
III 15-8層	561	調文土器	深鉢	底部	-	8.2	(2.4)	底部側面直角	後期前半
III 15-8層	562	調文土器	深鉢	底部	-	6.2	(3.1)	底部側面直角	後期前半
III 10-9層	563	調文土器	深鉢	底部	-	(10.0)	(2.3)	底部側面直角	後期前半
III 15-8層	564	調文土器	深鉢	底部	-	(5.2)	(2.2)	底部側面直角、縦位沈線、調文	後期前半
III 10-9層	565	調文土器	深鉢	底部	-	(5.2)	(2.2)	底部沈線、葉脈痕	後期前半
III 15-8層	566	調文土器	深鉢	底部	-	(7.2)	(3.1)	底部葉脈痕	後期前半
III 4-8層	567	調文土器	深鉢	底部	-	5.4	(0.9)	底部葉脈痕	後期前半

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口縁	底縁	器高		
III4-8層	568	繩文土器	深鉢	底部	-	(12.2)	(1.0)	底部葉脈痕	後期前半
III4-8層	569	繩文土器	深鉢	底部	-	(11.0)	(9.3)	底部圧痕	後期前半
III5-8層	570	繩文土器	深鉢	底部	-	(9.4)	(3.5)		後期前半
III5-8層	571	繩文土器	深鉢	底部	-	(7.8)	(4.1)	底部網状痕か	後期前半
III5-8層	572	繩文土器	深鉢	底部	-	5.2	(2.1)		後期前半
III5-9層	573	繩文土器	深鉢	底部	-	(5.8)	(6.5)		後期前半
III9-8層	574	繩文土器	深鉢	底部	-	(7.2)	(3.4)	沈線文、繩文	層之内1
III9-8層	575	繩文土器	深鉢	底部	-	8.8	(3.5)		後期前半
II18-14層	576	繩文土器	深鉢	底部	-	-	(3.8)		中期後半
III14-8層	577	繩文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	Y字状の刻み縦槽中央に円形の刻付文、沈線文 内に短沈線を施す、内面炭化物付着	第三ノア化学分析資料

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
III15-8層	496	土製品	土偶	(4.5)	5.7	2.9	-	菱形の頸部中央に円形刺突による顔面表現
III15-8層	497	土製品	土偶	(3.7)	2.3	2.7	-	足、3本の刻みにより指の表現
I25-9層	498	土製品	土偶	(5.6)	3.3	2.9	-	足、横位沈線間に無数の爪形状文様
III15-9層	499	土製品	土偶	(5.6)	3.5	4.8	-	足、中央に三角形状、側面に唐草状の意匠、5本の刻みによる指表現
III10-9層	500	土製品	土偶	(4.7)	(4.8)	3.6	-	腕、各面に円形の連続刺突文、円弧状文
I19-3層	501	土製品	土偶	(3.1)	3.0	1.8	-	腕部、乳房表現と円形刺突文
III15-8層	502	土製品	土偶?	(5.0)	2.8	2.2	-	胸部か、表裏面に円形刺突文
III18-15層	505	土製品	円盤状土製品	3.7	3.8	0.8	-	繩文土器全体部片
III19-14層	506	土製品	円盤状土製品	4.2	4.2	0.6	-	繩文土器全体部片
III18-14層	507	土製品	円盤状土製品	2.9	2.9	0.7	-	繩文土器全体部片
III17-12層	508	土製品	円盤状土製品	3.8	3.7	0.9	-	繩文土器全体部片
III17-12層	509	土製品	円盤状土製品	3.4	3.4	0.7	-	繩文土器全体部片、沈線文
II21-12層	510	土製品	円盤状土製品	4.1	3.9	1.2	-	繩文土器全体部片、压痕隕帶
III4-8層	511	土製品	円盤状土製品	3.9	4.0	1.0	-	繩文土器全体部片
III4-8層	512	土製品	円盤状土製品	3.8	4.3	1.0	-	繩文土器全体部片
III9-9層	513	土製品	円盤状土製品	2.7	3.3	1.1	-	繩文土器全体部片
III15-9層	514	土製品	円盤状土製品	3.8	3.9	0.9	-	繩文土器全体部片
III15-8層	515	土製品	円盤状土製品	4.0	3.6	1.0	-	繩文土器全体部片
III15-8層	516	土製品	円盤状土製品	4.8	4.9	1.3	-	繩文土器全体部片
III15-8層	517	土製品	円盤状土製品	5.5	6.0	0.9	-	繩文土器全体部片
III20-8層	518	土製品	円盤状土製品	3.6	3.7	0.9	-	繩文土器全体部片、条線文
IV11-8層	519	土製品	円盤状土製品	3.0	3.0	0.5	-	繩文土器全体部片
IV11-8層	520	土製品	円盤状土製品	3.5	3.5	0.8	-	繩文土器全体部片
IV11-8層	521	土製品	円盤状土製品	3.7	4.0	0.7	-	繩文土器全体部片
IV11-8層	522	土製品	円盤状土製品	2.9	2.7	1.0	-	繩文土器全体部片
IV11-8層	523	土製品	円盤状土製品	3.0	3.1	0.7	-	繩文土器全体部片
IV11-8層	524	土製品	円盤状土製品	3.5	3.6	1.0	-	繩文土器全体部片
I25-6層	525	土製品	円盤状土製品	4.1	4.0	1.1	-	繩文土器全体部片
H6-3層	526	土製品	円盤状土製品	3.6	3.5	0.9	-	繩文土器全体部片
I22-3層	527	土製品	円盤状土製品	3.2	3.2	0.8	-	繩文土器全体部片、沈線渦巻文
H6-3層	528	土製品	円盤状土製品	2.5	2.7	0.7	-	繩文土器全体部片

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
DI	1	石器	石鏃	1.50	0.85	0.25	0.32	黒曜石、尖形
D4	2	石器	石鏃	2.10	1.60	0.45	1.19	黒曜石、尖形
P38	3	石器	石鏃	1.80	1.35	0.60	1.46	黒曜石、尖形、未成品か
D3	4	石器	石鏃	(18.80)	(12.60)	(5.20)	(1033.00)	安山岩、1/3残存
I18-3層	5	石器	石鏃	(1.95)	(1.25)	(0.15)	(0.28)	黒曜石、片脚部欠損
I18-3層	6	石器	石鏃	(0.95)	0.90	0.15	(0.14)	黒曜石、先端欠損
I19-3層	7	石器	石鏃	(1.80)	(1.10)	(0.20)	(0.42)	黒曜石、基部欠損
I20-3層	8	石器	石鏃	1.70	1.40	0.35	0.76	黒曜石、尖形
I20-3層	9	石器	石鏃	(1.90)	(1.65)	(0.50)	(1.23)	黒曜石、片脚欠損
I20-3層	10	石器	石鏃	2.30	1.75	0.35	0.67	黒曜石、尖形

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
I 23・3層	11	石器	石鍬	(1.30)	1.60	(0.25)	(0.48)	黒曜石、先端欠損
II 1・3層	12	石器	石鍬	(1.40)	(1.50)	(0.25)	(0.45)	黒曜石、先端・脚部欠損
II 1・3層	13	石器	石鍬	(1.75)	1.45	0.35	(1.03)	黒曜石、先端欠損
III 2・3層	14	石器	石鍬	1.50	1.25	0.25	0.26	黒曜石、完形
III 2・3層	15	石器	石鍬	2.30	2.20	0.55	2.35	黒曜石、完形
III 2・3層	16	石器	石鍬	(1.90)	(1.30)	0.35	(0.64)	黒曜石、脚部欠損
I 24・3層	17	石器	石鍬	(1.40)	1.95	0.25	(0.92)	チャート、先端欠損
I 15・3層	18	石器	石鍬	(2.50)	1.20	0.50	(1.24)	チャート、先端欠損か
I 19・3層	19	石器	二次加工剥片	2.71	2.94	0.89	6.20	チャート
I 16・3層	20	石器	二次加工剥片	(1.39)	1.07	0.30	(0.50)	チャート、石器未成品か
I 14・8層	21	石器	石鍬	(2.16)	2.10	0.23	(0.70)	黒曜石、先端欠損
I 18・8層	22	石器	石鍬	(1.19)	(1.10)	0.28	(0.30)	黒曜石、片脚欠損
I 19・8層	23	石器	石鍬	(2.08)	(1.71)	0.36	(0.80)	黒曜石、片脚欠損
I 23・8層	24	石器	石鍬	1.83	1.49	0.39	0.60	黒曜石、完形
III 4・8層	25	石器	石鍬	1.70	1.41	0.47	1.00	黒曜石、完形
III 5・8層	26	石器	石鍬	(1.32)	0.91	0.30	(0.30)	黒曜石、先端欠損
III 5・8層	27	石器	石鍬	1.82	1.32	0.57	1.10	黒曜石、完形
III 6・7層	28	石器	石鍬	2.25	1.85	0.75	3.17	黒曜石、完形
III 10・8層	29	石器	石鍬	(1.41)	(1.18)	0.23	(0.20)	黒曜石、先端・片脚欠損
III 10・8層	30	石器	石鍬	1.87	1.73	0.70	1.60	黒曜石、未成品か
III 10・8層	31	石器	石鍬	(1.53)	(1.24)	0.30	(0.40)	黒曜石、先端・脚部欠損
III 10・8層	32	石器	石鍬	(1.54)	(1.43)	0.30	(0.30)	黒曜石、完形
III 10・8層	33	石器	石鍬	1.71	1.38	0.55	1.10	黒曜石、未成品か
III 13・8層	34	石器	石鍬	1.14	1.09	0.22	0.20	黒曜石、側刃一部欠損
III 14・8層	35	石器	石鍬	(1.68)	(1.39)	0.22	(0.30)	黒曜石、先端・片脚欠損
III 15・8層	36	石器	石鍬	2.50	1.26	0.44	0.90	黒曜石、左側に微細剝離あり 裏面に必要剥離面を残し縁込み加工 未成品なし石鍬の可能性あり
III 15・8層	37	石器	石鍬	(1.77)	(1.44)	0.41	(0.60)	黒曜石、全体に黒化、脚部欠損
III 20・8層	38	石器	石鍬	1.17	1.11	0.20	0.20	黒曜石、完形
III 20・8層	39	石器	石鍬	(1.35)	(1.98)	0.30	(0.50)	黒曜石、欠損後に加工
III 20・8層	40	石器	石鍬	(2.44)	(1.48)	0.38	(1.00)	黒曜石、片脚欠損
IV 1・8層	41	石器	石鍬	(1.76)	(1.31)	0.33	(0.56)	黒曜石、片脚欠損
IV 6・8層	42	石器	石鍬	(1.63)	(0.99)	0.22	(0.20)	黒曜石、片脚欠損
IV 11・8層	43	石器	石鍬	(1.30)	(1.10)	0.33	(0.30)	黒曜石、先端・片脚欠損
IV 11・8層	44	石器	石鍬	(1.34)	(0.97)	0.22	(0.20)	黒曜石、片脚欠損
IV 11・8層	45	石器	石鍬	(2.02)	(1.44)	0.36	(0.80)	黒曜石、先端・片脚欠損
IV 18・8層	46	石器	石鍬	(1.43)	(1.29)	0.27	(0.40)	チャート、先端・脚部欠損
IV 10・8層	47	石器	石鍬	1.84	1.55	0.25	0.50	チャート、完形
IV 19・8層	48	石器	石鍬	3.85	1.02	0.67	2.10	黒曜石、完形 縁辺に潰れ状の磨面あり
I 23・8層	49	石器	石鍬	(2.04)	0.81	0.56	(1.00)	チャート、先端欠損
I 19・8層	50	石器	石鍬	(2.84)	(2.57)	0.64	(4.30)	チャート、両側辺欠損
III 9・8層	51	石器	削器	2.94	1.40	0.49	1.80	黒曜石、完形
III 10・8層	52	石器	削器	2.24	(2.09)	0.60	(2.40)	黒曜石、片脚欠損
III 15・8層	53	石器	削器	2.69	2.21	0.58	2.60	黒曜石、完形
III 19・8層	54	石器	二次加工剥片	4.53	3.39	1.20	17.70	黒曜石、半分欠損、全体に黒化?
IV 11・8層	55	石器	削器	2.11	2.55	1.17	4.10	黒曜石、完形
IV 11・8層	56	石器	二次加工剥片	1.42	1.18	0.28	6.30	黒曜石、完形
III 15・8層	57	石器	二次加工剥片	2.18	0.88	0.34	0.50	黒曜石、完形
III 9・8層	58	原石	原石	4.21	4.33	2.02	45.80	黒曜石
III 9・8層	59	原石	原石	4.27	5.14	2.31	36.70	黒曜石
III 9・8層	60	原石	原石	4.17	3.53	3.43	44.80	黒曜石
III 9・8層	61	原石	原石	3.80	7.18	2.71	74.20	黒曜石
III 4・9層	62	原石	原石	4.83	3.96	2.88	49.80	黒曜石
III 5・9層	63	石核	石核	3.72	3.88	2.70	36.50	黒曜石
III 10・9層	64	石器	石鍬	2.00	1.60	0.27	0.40	黒曜石、片脚欠損
III 15・9層	65	石器	石鍬	(1.89)	(1.55)	0.25	(0.50)	黒曜石、片脚欠損
III 15・9層	66	石器	石鍬	(2.16)	(1.49)	0.65	(2.20)	黒曜石、先端欠損 縁辺に潰れ状の磨面あり
II 22・12層	67	石器	石鍬	(1.84)	1.83	0.61	(1.90)	黒曜石、先端欠損
II 24・12層	68	石器	石鍬	(1.44)	1.34	0.34	(0.50)	黒曜石、脚部欠損
VI 1・12層	69	石器	石鍬	(1.64)	(1.18)	0.34	(0.50)	黒曜石、脚部欠損

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
IV1-12層	70	石器	石鏹	1.59	1.38	0.38	0.50	黒曜石, 完形
IV3-12層	71	石器	石鏹	(1.87)	(1.12)	0.33	(0.40)	黒曜石, 腳部欠損
IV7-12層	72	石器	石鏹	(1.39)	1.83	0.28	(0.50)	黒曜石, 先端欠損
IV7-12層	73	石器	石鏹	(1.39)	(1.17)	0.28	(0.30)	黒曜石, 腳部欠損
IV1-12層	74	石器	石鏹	(1.46)	2.08	0.53	(1.60)	チャート、先端欠損
II18-14層	75	石器	石鏹	2.21	2.13	0.41	1.30	チャート, 完形
II24-14層	76	石器	石鏹	1.97	1.47	0.88	1.40	黒曜石, 未成品か 裏面に主要な磨面を残し縫合のみ加工
II18-14層	77	石器	石鏹	(3.16)	1.60	0.51	(2.20)	チャート、先端・基部欠損
II24-14層	78	石器	石鏹	(3.21)	1.18	0.78	(3.10)	チャート、腹部に顯著な磨面と横方向の擦痕あり
II7-15層	79	石器	石鏹	1.52	1.42	0.49	1.00	黒曜石, 先端欠損
II7-15層	80	石器	石鏹	(3.16)	1.34	0.82	(3.10)	黒曜石, 先端欠損
II23-15層	81	石器	石鏹	2.16	1.09	0.57	1.30	黒曜石, 離部に顯著な磨面と横方向の擦痕あり
II11-16層	82	石器	石鏹	(1.85)	1.44	0.51	(1.20)	チャート、先端欠損
II13-17層	83	石器	削器	2.98	1.84	1.03	4.09	黒曜石, 完形
IV7-18層	84	石器	石鏹	1.61	1.28	0.32	0.50	黒曜石, 完形
IV7-18層	85	石器	石鏹	(1.05)	0.86	0.22	(0.10)	黒曜石, 先端欠損
IV7-18層	86	石器	石鏹	(1.35)	1.64	0.29	(0.40)	黒曜石, 先端欠損
IV7-18層	87	石器	石鏹	1.52	1.29	0.45	0.60	鰐灰岩, 完形
II13-19層	88	石器	石鏹	(1.99)	1.12	0.35	(0.50)	黒曜石, 基部欠損
表様	89	石器	打製石斧	10.60	5.60	2.20	131.78	鰐石安山岩, 完形, 自然面残る, 摩耗あり
I20-3層	90	石器	打製石斧	(8.00)	(5.00)	(1.30)	(49.30)	流紋岩, 基部欠損, 裏面に自然面
I23-3層	91	石器	打製石斧	(5.20)	(5.70)	(0.90)	(36.77)	鰐石安山岩, 基部側面欠損, 摩耗あり
I23-3層	92	石器	打製石斧	(8.60)	(5.30)	(1.50)	(95.55)	練質砂岩, 基部欠損, 摩耗あり
I24-3層	93	石器	打製石斧	(9.10)	(5.60)	(1.00)	(65.48)	練質砂岩, 基部・刃部欠損
II6-3層	94	石器	打製石斧	(8.60)	(7.10)	(2.20)	(174.47)	鰐石安山岩, 基部・刃部欠損, 自然面あり
II6-3層	95	石器	打製石斧	(8.70)	(5.00)	(1.20)	(74.09)	溶結凝灰岩, 基部・刃部欠損
II6-3層	96	石器	打製石斧	(8.80)	(5.60)	(2.40)	(123.13)	練質砂岩, 刃部欠損
II6-3層	97	石器	刃器?	7.30	3.80	0.90	26.74	鰐石安山岩, 鰐灰岩, 完形
II11-3層	98	石器	打製石斧	(8.20)	(6.80)	(1.60)	(10.44)	練質砂岩, 基部欠損, 摩耗あり
II14-8層	99	石器	打製石斧	12.39	7.10	1.10	116.53	練質砂岩, 完形, 自然面あり
II19-8層	100	石器	打製石斧	(5.00)	(6.00)	(0.90)	(23.80)	練質砂岩, 刃部破片, 摩耗あり
II19-8層	101	石器	打製石斧	19.50	9.50	2.30	464.47	鰐石安山岩, 完形, 自然面あり
II19-8層	102	石器	打製石斧	17.70	10.50	2.90	459.52	鰐石安山岩, 完形, 自然面あり
I23-8層	103	石器	打製石斧	(13.90)	9.00	2.80	(378.16)	鰐石安山岩, 刃部欠損, 自然面あり
I23-8層	104	石器	打製石斧	(10.10)	4.70	1.00	(61.30)	練質砂岩, 基部欠損, 摩耗あり
I24-8層	105	石器	打製石斧	(7.30)	(6.50)	(1.20)	(64.66)	溶結凝灰岩, 基部欠損, 摩耗あり
I24-8層	106	石器	打製石斧	(10.30)	(6.30)	(2.30)	(189.24)	練質砂岩, 基部欠損
III4-8層	107	石器	打製石斧	(8.00)	(5.20)	(1.50)	(72.40)	練質砂岩, 刃部側面欠損
III4-8層	108	石器	打製石斧	7.90	5.10	1.50	74.32	練質砂岩, 完形
III15-8層	109	石器	打製石斧	(10.00)	6.30	(1.40)	(116.25)	鰐石安山岩, 基部欠損か
III15-8層	110	石器	打製石斧	(5.80)	(4.20)	(0.90)	(28.52)	練質砂岩, 刃部・基部欠損, 摩耗あり
III10-9層	111	石器	打製石斧	(7.80)	4.10	(1.10)	(47.36)	練質砂岩, 基部欠損, 摩耗あり
II16-12層	112	石器	打製石斧	(15.30)	7.90	2.90	(417.70)	練質砂岩, 基部欠損
II16-12層	113	石器	打製石斧	(8.00)	5.20	(1.90)	(93.68)	溶結凝灰岩, 基部欠損
II16-12層	114	石器	打製石斧	(10.80)	(5.80)	2.20	(139.84)	練質砂岩, 刃部欠損
II22-12層	115	石器	打製石斧	14.80	6.30	2.00	214.49	鰐石安山岩, 完形, 自然面あり
IV1-12層	116	石器	打製石斧	(10.40)	(4.60)	(1.4)	(82.38)	練質砂岩, 刃部欠損
IV1-12層	117	石器	打製石斧	(7.10)	(5.10)	(1.7)	(67.20)	安山岩, 基部欠損, 摩耗あり
IV1-12層	118	石器	打製石斧	(8.00)	(5.60)	(0.7)	(34.03)	溶結凝灰岩, 刃部・基部欠損, 摩耗あり
II24-13層	119	石器	打製石斧	(7.30)	(5.10)	(1.0)	(59.47)	溶結凝灰岩, 基部欠損, 摩耗あり
II17-13層	120	石器	打製石斧	(10.30)	(5.50)	(1.9)	(142.47)	練質砂岩, 基部欠損
II24-14層	121	石器	打製石斧	10.70	5.50	1.40	72.17	石英安山岩, 完形, 摩耗あり
II24-14層	122	石器	打製石斧	(6.20)	(5.80)	(1.10)	(45.88)	練質砂岩, 基部破片
II24-14層	123	石器	打製石斧	(5.30)	(4.80)	(1.30)	(37.73)	練質砂岩, 基部欠損
II17-15層	124	石器	打製石斧	22.80	9.50	2.80	638.68	鰐石安山岩, 完形, 自然面あり, 摩耗あり
II17-15層	125	石器	打製石斧	26.40	12.50	2.40	877.39	鰐石安山岩, 完形
II17-15層	126	石器	打製石斧	23.10	10.80	2.70	674.72	溶結凝灰岩, 完形
II17-15層	127	石器	打製石斧	14.80	8.00	2.20	354.37	練質砂岩, 完形, 自然面あり
I10-3層	128	石器	刃器?	(3.60)	(2.90)	(0.8)	(9.90)	練質砂岩, 基部欠損
I23-3層	129	石器	打製石斧	7.00	8.90	1.70	120.31	練質砂岩, 完形
I18-3層	130	石器	打製石斧	4.40	5.70	0.90	25.11	練質砂岩, 完形

出土位置	実測番号	種別	種類	法縫(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
I 19-8層	131	石器	刃器	9.20	4.40	1.00	47.87	硬質砂岩、尖形
III 6-9層	132	石器	刃器	5.30	6.90	1.30	42.41	灰色チートル、尖形、自然面あり
II 23-14層	133	石器	刃器	6.60	7.60	2.10	78.80	硬質砂岩、尖形
II 18-14層	134	石器	刃器	4.10	7.70	0.90	29.30	硬質砂岩、尖形、自然面あり
II 11-16層	135	石器	刃器	7.50	11.30	2.00	158.96	硬質砂岩、尖形、自然面あり
表様	136	石器	磨製石斧	(12.40)	6.30	(2.90)	(347.37)	蛇紋岩、刃部・基部欠損
I 24-3層	137	石器	磨製石斧	(11.50)	(5.10)	2.70	(269.76)	緑色凝灰岩、刃部欠損
I 19-3層	138	石器	磨製石斧	(8.00)	(6.90)	(4.10)	(370.85)	緑色凝灰岩、刃部欠損
I 20-8層	139	石器	磨製石斧	(4.60)	(1.70)	(0.70)	(5.71)	石材不明、石斧の体部破片か
IV 6-8層	140	石器	磨製石斧	(9.60)	(5.70)	(2.60)	(193.25)	蛇紋岩、刃部・基部欠損
II 18-14層	141	石器	磨製石斧	(4.50)	(5.20)	(2.00)	(68.25)	緑色凝灰岩、基部欠損、表面剥落
I 19-3層	142	石製品	石棒	(12.40)	(3.50)	(2.00)	(122.72)	ホルンフェルス、基部欠損
III 15-8層	143	石製品	石棒	(6.70)	(2.80)	(1.90)	(55.63)	緑泥片岩、先端・基部欠損
III 5-8層	144	石製品	石棒	(7.80)	(2.80)	(2.30)	(78.53)	緑泥片岩、先端・基部欠損
III 10-9層	145	石製品	石棒	(5.70)	(4.50)	(3.00)	(125.05)	赤鉄片岩、先端部破片
II 11-3層	146	石器	敲石	(6.50)	(5.50)	(3.70)	(169.52)	鷹石安山岩、片側欠損
II 13-17層	147	石器	敲石	(11.60)	5.60	5.00	620.43	鷹石安山岩、欠損
III 9-8層	148	石器	石皿	(17.00)	(21.40)	(9.60)	(3360.00)	鷹石安山岩、片側欠損
II 11-3層	149	石器	石盤	4.30	1.75	0.52	2.6	珪質頁岩

第V章 自然科学分析

はじめに

柳坂遺跡（長野県佐久市布施柳坂に所在）では、縄文時代中期後半から後期を中心とした遺構や遺物が検出されており、この中に炭化物や焼土を伴う屋外炉、炭化物や骨片を含む土層も確認されている。今回の自然科学分析では、遺構の年代観を得るために放射性炭素年代測定を、また内容物などの確認に微細分析と植物珪酸体分析を実施する。

I. 年代観について

1. 試料

放射性炭素年代測定を実施する試料は、D4、D9、D10、19 層から出土した炭化材 4 点（試料番号 1～4）、III 14 グリッド 8 層出土土器付着炭化物の 1 点（試料番号 5）、合計 5 点である。なお、試料番号 1～4 は、採取された土壤試料より炭化材および炭化物を分離、抽出して測定試料とした。試料番号 5 は、出土した土器に付着する炭化物を分離した炭化物粒子を測定試料とした。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

2. 分析方法

分離した炭化材については、表面に付着した不純物を削り落とす。測定試料とした炭化材および炭化物粒子は、塩酸 (HCl) により炭酸塩など酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸などアルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩など酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。試料が脆弱でアルカリ濃度を薄くした試料は HaA と記す。試料を燃焼して二酸化炭素を発生させ、二酸化炭素を精製する。二酸化炭素は、鉄を触媒とし水素で還元する還元してグラファイトにする。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をカソードに詰めて測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定する。AMS 測定時に、バックグラウンド試料や標準試料 (HOX-II、IAEA-C6 など) の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma:68.2%) に相当する年代である。

測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach 1977)。また、曆年較正用に一桁目まで表した値も記す。曆年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal 4.3 (Bronk, 2009)、較正曲線は Intcal13 (Reimer et al., 2013) である。ただし、試料番号 1 は測定値が 1950 年以降となつたため、較正曲線として北半球中緯度地域の 1950 年以降の ^{14}C 濃度を示すデーターセット NHZ2 (Huia et al., 2013) を用いる。

3. 結果

放射性炭素年代測定と得られた曆年較正の結果を表 1 に示す。同位体補正を行った年代値は、試料番号 1(D4) が Modern ($^{14}\text{C}:1.4051 \pm 0.00$)、試料番号 2(D9) が $3400 \pm 20\text{BP}$ 、試料番号 3(D10) が $940 \pm 20\text{BP}$ 、試料番号 4(19 層) が $5970 \pm 25\text{BP}$ 、試料番号 5(8 層) が $3700 \pm 20\text{BP}$ である。

曆年較正是、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、後に訂正された半減期 (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、曆年代に近づける手法である。較正用データーセットは、Intcal13 (Reimer et al., 2013) を用いる。

誤差 σ の値をみると、試料番号1(D4)がcalAD1962～1975、試料番号2(D9)がcalBP3696～3586、試料番号3(D10)がcalBP920～795、calBP6883～6738、試料番号5(8層)がcalBP4144～3978である。今回の結果については、調査対象とした構造や遺物の層位や検出状況などの発掘調査所見を含めて検討する必要がある。

II. 遺構・包含層の内容物

1. 試料

分析試料は、D1 から採取された試料番号 1、III 15 グリッド 9 層から採取された試料番号 2、II 13 グリッド 19 層から採取された試料番号 3 の合計 3 点である。分析時の観察では、試料番号 1、2 では、何らかの動物遺存体である骨片の含有が目立ち、炭化物も認められた。試料番号 3 は試料番号 1、2 と異なり、骨片が認められず、壤土と炭化物が混入する。

2. 分析方法

(1) 微細物分析

各試料について、次のような手順で分析を進める。

まず、試料の重量を測定した後、肉眼観察して骨片を確認して拾い上げる。抽出した骨片は形態的特徴から種類や部位を同定し、併せて重量を測定する。

次に、骨片を回収した残試料について重量を測定した後、肉眼で確認できる炭化物を分離する。統いて、この残渣を常温で乾燥させ、水を満たした容器内に投入する。容器を傾けて、炭化物混じりの水を目開き 0.5mm の筋に通して、炭化物を回収する。残土に注水して軽く攪拌した後に筋を通す行程を、炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(約 20 回)。さらに残土を同径の筋に通して、水洗する。水洗後に水に浮いた試料(炭化物主体)と水に沈んだ試料(岩片主体)を、それぞれ目開き 4mm、2mm、1mm、0.5mm の筋に通して、粒径別に常温で乾燥させる。

炭化物主体と岩片主体を、大きな粒径から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、種々遺体や炭化材（主に4mm以上）を分離する。次に分離した炭化物とともに双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本や石川（1994）、谷城（2007）、山中ほか（2010）、鈴木ほか（2018）などを参考に同定を実施する。

結果は、部位・状態別の個数と重量の一覧表で示し、各分類群の写真を添付する。また一部の炭化種実の大きさをデジタルノギスで計測する。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。また岩片主体について含まれる砂粒大の岩片、テフラの本質物質であるスコリアや軽石、また土器片の有無を実体顕微鏡下で確認する。これらが認められれば、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。分離した骨片や種実遺体、岩片については種類や重量、相対的な量比を一覧表に示す。

(2) 植物珪酸体分析

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壤中に取り込まれた後は、ほとんどが土壤化や搅乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、植物遺体や植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い（例えば、パリノ・サーサイエ株式会社, 1993）。そのため、珪化組織片の産状により当時の構築材や燃料材などに利用された種類が明らかになると考えられる。

各試料を肉眼観察したところ、明瞭な植物遺体や灰は認められなかった。そのため、以下の方法で植物遺体や灰に由来する珪化組織片や植物珪酸体の濃集・分離を試みる。各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ボリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーバラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）や葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）およびこれらを含む珪化組織片を、近藤（2010）の分類を参考に同定する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残流量を正確に計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め（100単位にする）、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

3. 結果

(1) 微細物分析

3試料を通じて、哺乳綱、炭化種実（オニグルミ、ブナ科（クリ？）、トチノキ）、炭化材、非炭化種実（イヌノハナヒゲ類、マツカサススキ類、スペリヒュ、イヌコウジュ属）、非炭化植物片、黒曜石、スコリア、土器片？が検出される（表2）。検出された炭化種実の保存状態は、全体的に不良である。以下に試料別の検出状況を記す。

・試料番号1(D1)

重量174.8gより、骨片（14個）1.8g、炭化種実（29個）0.02g、炭化材主体0.06g（最大4.37mm）、非炭化植物片0.01g、非炭化種実（1個）0.01g未満が検出される。

骨片は、長辺4～12mm程度で、表面と内部が共に白色や黒色を呈し、表面に細かなひび割れを伴う変性が見られることから焼骨と判断される。緻密質が厚いことから哺乳綱の骨と判定できるものの、特徴的な形質が残らないため種類・部位ともに不明である。なお、4-2mm画分に骨片も少量が認められる。炭化種実（29個）は、落葉広葉樹のオニグルミ核（11個）0.02g、オニグルミ？核？（11個）0.01g未満、ブナ科果実（クリ？1個）0.01g未満、トチノキ種子（5個）0.01g未満、堅果類（1個）0.01g未満に同定される。非炭化種実（1個）は、草本で湿生植物のイヌノハナヒゲ類果実に同定される。その他では、4mmには岩片からなる礫および土器の可能性を持つ赤色を呈する破片が認められる。この破片は円磨を受けており、文様などは認められない。4-2mmには岩片主体の砂礫が多量に含まれる。その他に、黒曜石やスコリアが極めて微量に伴う。スコリアは黒色で発泡やや不良である。4-2mmの礫には緑色片岩の礫が少量、チャートの礫が微量混じる。2-1mmおよび1-0.5mmは、岩片主体の砂分が多量に含まれる。

表2. 微細物分析結果

分類群	部位・状態・粒径	単位	試料番号			備考	
			1 DI	2 III 15	3 II 13		
			(個)	(g)	(個)	(g)	
動物遺存体							
哺乳綱	不明(被熱)		14	1.8	23	11.1	-
炭化種実							いずれも種類不明
オニグルミ	核	破片	11	0.02	1	0.01	-
オニグルミ?	核?	破片	11	<0.01	-	-	-
ブナ科(クリ?)	果実	破片	1	<0.01	-	-	-
トネノキ	種子	破片	5	<0.01	-	-	-
堅果類		破片	1	<0.01	-	-	-
炭化材			+	0.06	* 0.01	* 5.26	最大径: 試料番号1:6.53mm/9層:3.61mm 試料番号3:14.37mm, 試料番号2:2.04mm,
炭化材主体(乾重g)	>4mm		-	-	-	*	2.99
4-2mm			-	-	-	*	2.28
2-1mm			+	0.03	-	-	* 2.04
1-0.5mm			+	0.03	* 0.01	*	0.56
非炭化植物片(乾重g)			+*	0.01	-	-	* <0.01 後代の混入の可能性
非炭化種実(個)							
イヌノハナヒゲ種	果実	完形	1	<0.01	-	-	-
マツカサススキ種	果実	完形	-	-	-	1	<0.01 花被片残存
スベリヒュ	種子	完形	-	-	1	<0.01	-
イペコウジュ種	果実	完形	-	-	-	1	<0.01 長さ1.27mm
岩片							
黒曜石		*	-	-	-	*	-
スコリア		*	-	-	-	-	黒色、発泡やや不良。
土器片?		*	10.49	-	-	-	赤色を呈する图形物、全体に円滑、文様などは認められない。
岩片主体(乾重g)	4mm	*	14.17	*	3.07	*	3.46 岩片の裸は試料番号1と多量、試料番号2で中量。 砂礫は火山岩類・火成岩碎屑岩に由来。
4-2mm		*	4.89	*	0.37	*	2.26 各試料の砂礫は火山岩類・火成岩碎屑岩に由来。 各試料で岩片主体の砂礫が多い。
2-1mm		*	3.84	*	0.60	*	3.58 試料番号1でチャートの裸が微量、緑色岩片の裸が少量混じる。 試料番号2では石英片が混じる。
1-0.5mm		*	5.16	*	0.84	*	6.45 各試料で岩片主体の砂が多量。 試料番号1で骨粉含む。 試料番号2で骨粉含む。
分析量(乾重g)	-	174.8	-	34.1	-	360.0	

-:未検出, +:少數, *:微量 (5%)

土器片?: 土器片の可能性あり

・試料番号2(III 15 グリッド9層)

重量 34.1g より、骨片(23個)11.1g、炭化種実(1個)0.01g、炭化材主体0.01g(最大2.04mm)、非炭化種実(1個)0.01g未満が検出される。

骨片は、長辺10~25mm程度で試料番号1と同様な色調や変性が見られ、焼骨と判断される。緻密質が厚いことから哺乳綱の骨と判定できるが、特徴的な部位が認められないことから種類の特定には至らない。4mmや1-0.5mmの画分にも骨片が見られるが種類の特定には至らない。

炭化種実はオニグルミ核、非炭化種実は草本で中生植物のスベリヒュ種子に、それぞれ同定される。その他では、4mmに岩片から成る裸が中量、4-2mmには岩片主体の砂礫、2-1mmには岩片主体の砂分が多量に含まれる。1-0.5mmは岩片主体の砂分が多量に含まれる。

・試料番号3(II 13 グリッド19層)

重量360.0gより、炭化材5.26g(最大14.11mm)、炭化材主体2.59g、非炭化植物片0.01g未満、非炭化種実(2個)0.01g未満が検出される。非炭化種実は、草本で湿生植物のマツカサススキ類(果実)、中生植物のイヌコウジュ属(果実)に同定される。

その他では、4mmに岩片から成る礫が多量に含まれる。4-2mmには岩片主体の砂礫が多量に含まれ、黒曜石も極めて微量に伴う。2-1mmおよび1-0.5mmには、岩片主体の砂分が多量含まれる。

以下、炭化種実の形態的特徴などを記す。なお、学名は佐竹ほか編(1989a,b)に依拠する。

- ・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科クルミ属

検出された核は破片で、最大6.53mmを測る(試料番号1)。完形核は径2.5~4cmの広卵体で頂部が尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い縦紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな室みと隔壁がある。なお、オニグルミと考えられる微細片11個は明瞭な部位が認められず、他と区分するために疑問符を付している。

・ブナ科(Fagaceae)

検出された果実は破片で、残存長1.96mmを測る。果皮は少なくとも2層が確認される。外果皮表面は、やや平滑で薄く、微細な繊維があり、断面は柵状。内果皮内面は粗面。クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)と考えられるが、クヌギ(*Quercus acutissima* Carruthers)との明瞭な区別が困難な微細片のためブナ科に止めている。

・トチノキ(*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

検出された種子は破片で、最大3.29mmを測る。完形種子は径2.5~4cmの偏球体。種皮表面は、ほぼ赤道面を蛇行して一周する曲線を境に、不規則な流理状模様がある光沢の強い上部と、粗面で光沢の無い下部の着点に分かれる。種皮は薄く硬く、不規則に割れる。

なお、オニグルミ核とトチノキ種子下部との区別が困難な径2.20mmの微細片を堅果類としている。

(2) 植物珪酸体分析

結果を表3と図1に示す。

珪化組織片は試料番号1(D1)でのみ認められ、栽培植物であるイネ属の稻(穎)に形成される穎珪酸体や葉部の短細胞列、栽培種を含む分類群であるコムギ連の穎珪酸体が検出される。ただし、その産出は僅かである。

単体の植物珪酸体は各試料から検出されるものの、産状には違いが見られる。

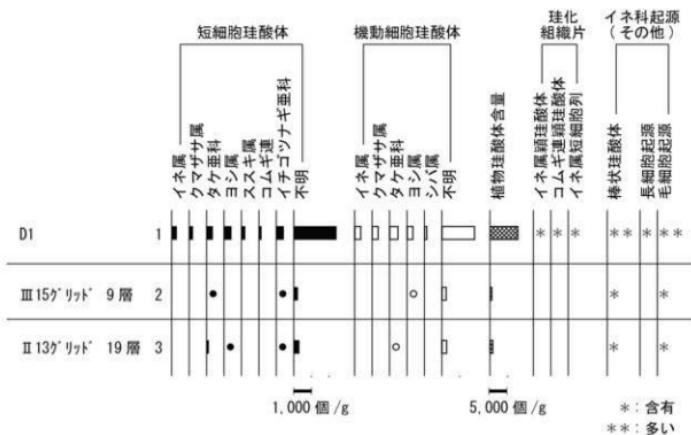
表3. 植物珪酸体含量

分類群	(個/g)		
	D1 1	III 15 9層	II 13 19層
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	300	-	-
クマザサ属	200	-	-
タケ亜科	300	<100	100
ヨシ属	400	-	<100
ススキ属	200	-	-
コムギ連	100	-	-
イチゴンナギ亜科	400	<100	<100
不明	2,400	200	300
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	300	-	-
クマザサ属	300	-	-
タケ亜科	500	-	<100
ヨシ属	300	<100	-
シバ属	100	-	-
不明	1,900	300	300
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	4,500	300	600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	3,600	300	300
植物珪酸体含量	8,100	600	900
珪化組織片			
イネ属珪酸体	*	-	-
コムギ連珪酸体	*	-	-
イネ属短細胞列	*	-	-
イネ科起源(その他)			
棒状珪酸体	**	**	*
長細胞起源	*	-	-
毛細胞起源	**	**	*

注1)含量は、100位で丸めている(100単位にする)

注2)合計は各分類群の丸めない数字を合計した後で丸めている

<100:100個/g未満、-:未検出、*:含有、**:多い



乾土 1gあたりの個数で示す。●○は100個未満を定性的に示す。

図1. 植物珪酸体含量と珪化組織片の産状

試料番号1(D1)では、植物珪酸体含量が他の試料よりも多く、8,100個/gである。検出される分類群は、珪化組織片でも見られたイネ属やコムギ連、その他にクマザサ属やメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亞科、シバ属などである。

試料番号2(III 15グリッド9層)や3(II 13グリッド19層)の植物珪酸体含量は600個/g程度あるいは900個/g程度である。タケ亜科やヨシ属などが僅かに認められるに過ぎない。なお、各試料からイネ科起源(棒状珪酸体、長細胞起源、毛細胞起源)も検出されるものの、由来となつた分類群を特定することは困難である。

4. 考察

D1とIII 15グリッド9層から抽出した骨片は、哺乳綱の骨と判断できるが、種類や部位について詳細な検討を行うことができない。色調や変性の様子から被熱の影響がうかがえ、焼骨であると判断できる。狩猟や調理のために生じる傷および解体痕が見られなかったが、周辺で動物質の食糧資源などとして狩猟された後で破棄されたと考えられる。

また、種実、炭化材の検出状況をみると、D1、III 15グリッド9層では、炭化した種実が検出される。しかし、II 13グリッド19層では、炭化物、炭化材、非炭化種実が確認される程度である。炭化種実では、落葉広葉樹で高木になる河畔林要素のオニグルミやトチノキ、山地へ丘陵に生育するブナ科(クリ?)が確認され、堅果類から成る組成を示した。これらは、当時の遺跡周辺に存在した落葉広葉樹林に生育していたと考えられる。それぞれの種類をみると、オニグルミは果実(核)内部の子葉が食用可能、ブナ科がクリである場合には同様に子葉が食用可能、トチノキはあく抜きを施すことでの子葉が食用可能となる。これらの堅果類は古くから利用され、遺跡出土例も多い(渡辺、1975など)。

今回の堅果類も、遺跡周辺の落葉樹林から持ち込まれ、利用された植物質食料と示唆される。また、食用にならない非可食部の破片のみであることから、可食部の子葉を取り出した後に廃棄された食料残滓と考えられる。また炭化していることから火を受けたとみなされ、可食部を取り出した後で燃料材として利用された可能性もある。なお、非炭化植物片と非炭化種実は、保存状態が極めて良好であることから、後代の混入と判断されるため、考察より除外している。

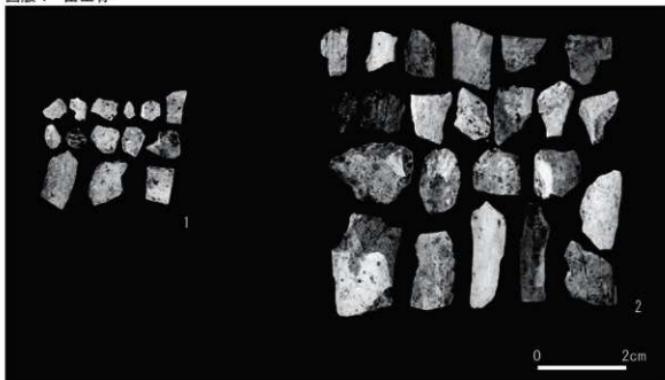
その他、草本質の植物質食料としては、D1で珪化組織片や植物珪酸体の産出したイネ属が挙げられる。穀の頸珪酸体や葉部の短細胞列が認められたことから、周辺で稲作が行われ、コメを収穫した後に得られる穀殻や稻藁が調査区内に持ち込まれていた可能性が考えられる。また検出されたコムギ連の頸珪酸体が栽培種に由来するものであれば、周辺での栽培も想定される。なお、他に検出された植物珪酸体の分類群から、クマザサ属やメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などのイネ科草本類が生育していたと考えられる。なお、III 15 グリッド 9 層や II 13 グリッド 19 層では植物珪酸体含量が僅かであり、栽培植物やイネ科草本類について検討することが難しい。

今回の分析結果をみると、D1は包含層と大きく異なる傾向となり、可食植物や焼骨片などが確認されることから、人為的に食料残滓が破棄した廃棄坑のような役割を持っていた可能性がある。ただし、栽培しない栽培の可能性がある植物が検出される点を考慮すると、後代の搅乱の影響、あるいは上位からの落ち込みなどの可能性もあり、その時代性に関しては検討を要する。また、包含層でみると III 15 グリッド 9 層と II 13 グリッド 19 層で検出状況が異なる。このような違いは、当時の利用状況の違いなどを反映している可能性がある。

引用文献

- Bronk R C ,2009,. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.
- Hua Q, Barbetti M, Rakowski Z A,2013, Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950–2010, Radiocarbon, 55, 2059-2072.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 近藤鍊三,2010, プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2010, 日本植物種子図鑑(2010年改訂版).東北大学出版会,678p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1993, 自然科学分析からみた人々の生活(1),慶應義塾藤沢校地理藏文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論」,慶應義塾,347-370.
- Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Haflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J, 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon ,55, 1869-1887.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫編,1989a,日本の野生植物 木本I . 平凡社 ,321p.
- 佐竹義輔・原 寛・亘野俊次・富成忠夫編,1989b,日本の野生植物 木本II , 平凡社 ,305p.
- Stuiver M & Polach A H ,1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ¹⁴C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2018, 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる 734 種 増補改訂一. ネイチャーウォッチングガイドブック , 誠文堂新光社 ,303p.
- 谷城勝弘,2007, カヤツリグサ科入門図鑑.全国農村教育協会,247p.
- 渡辺 誠,1975, 繩文時代の植物食. 雄山閣出版,187p.

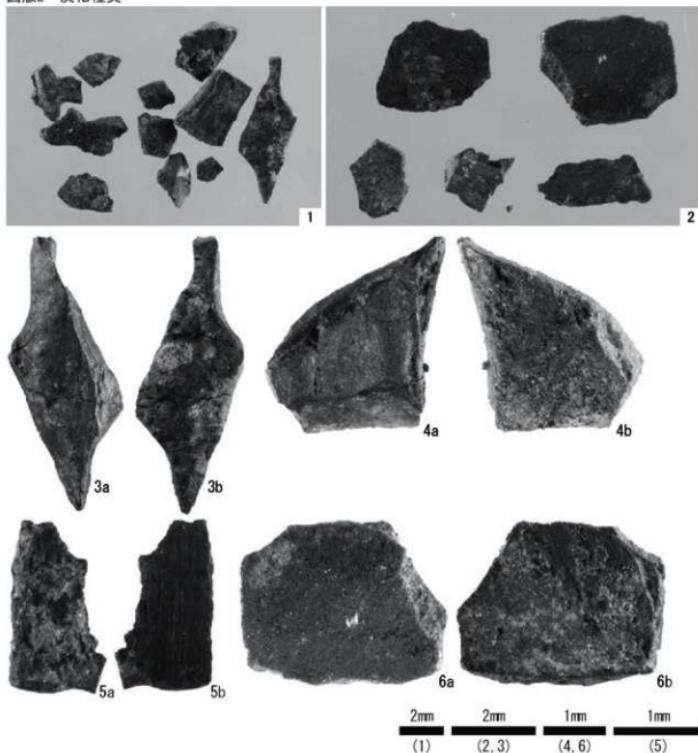
図版1 出土骨



1. 哺乳綱 烧骨片 (D1:1)

2. 哺乳綱 烧骨片 (III 15グリッド9層:2)

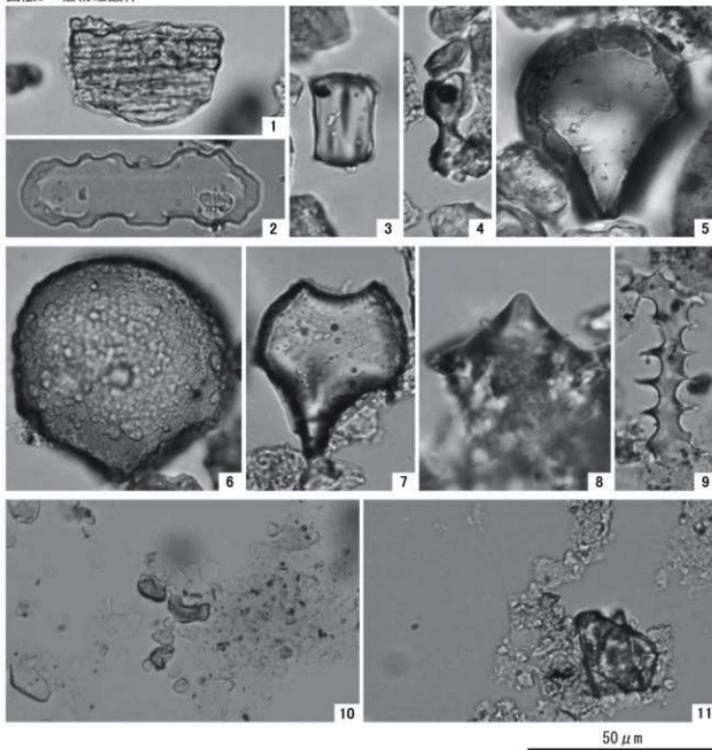
図版2 炭化種実



1. オニグルミ 核 (D1:1)
3. オニグルミ 核 (D1:1)
5. ブナ科(クリ?) 果実 (D1:1)

2. トチノキ 種子 (D1:1)
4. オニグルミ 核 (III 15グリッド9層:2)
6. トチノキ 種子 (D1:1)

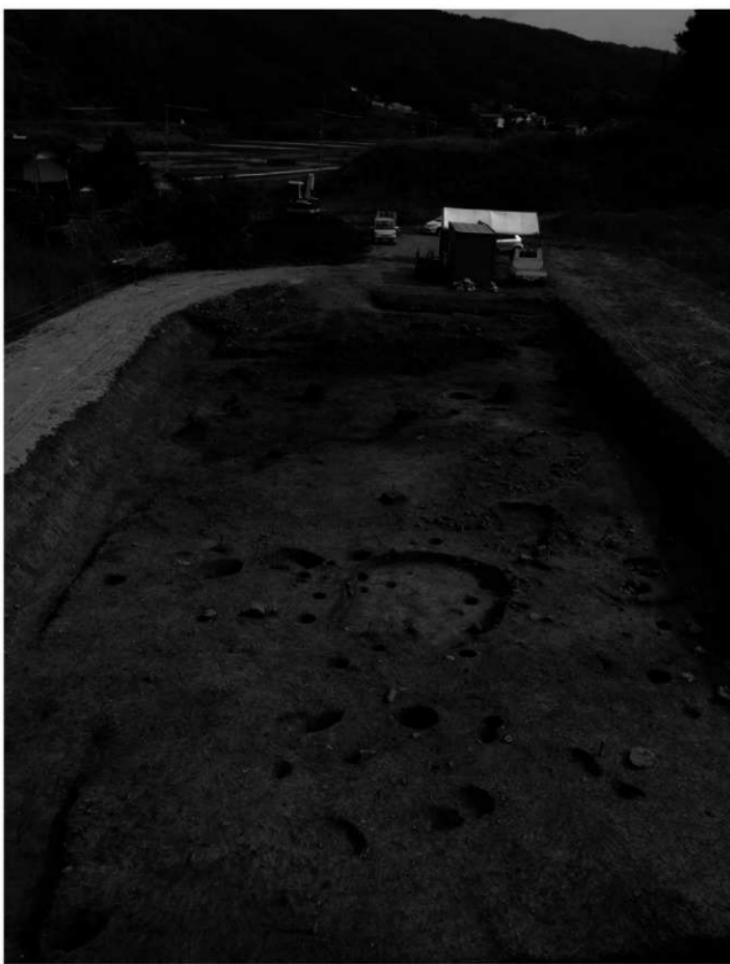
図版3 植物珪酸体



1. イネ属短細胞列 (D1:1)
2. コムギ連短細胞珪酸体 (D1:1)
3. クマザサ属短細胞珪酸体 (D1:1)
4. ススキ属短細胞珪酸体 (D1:1)
5. イネ属機動細胞珪酸体 (D1:1)
6. ヨシ属機動細胞珪酸体 (D1:1)
7. シバ属機動細胞珪酸体 (D1:1)
8. イネ属頸珪酸体 (D1:1)
9. コムギ連頸珪酸体 (D1:1)
10. 状況(鉱物粒子が散在) (Ⅲ15グリッド9層:2)
11. 状況(鉱物粒子が散在) (Ⅲ13グリッド19層:3)



調査区北側完掘状況（西から）



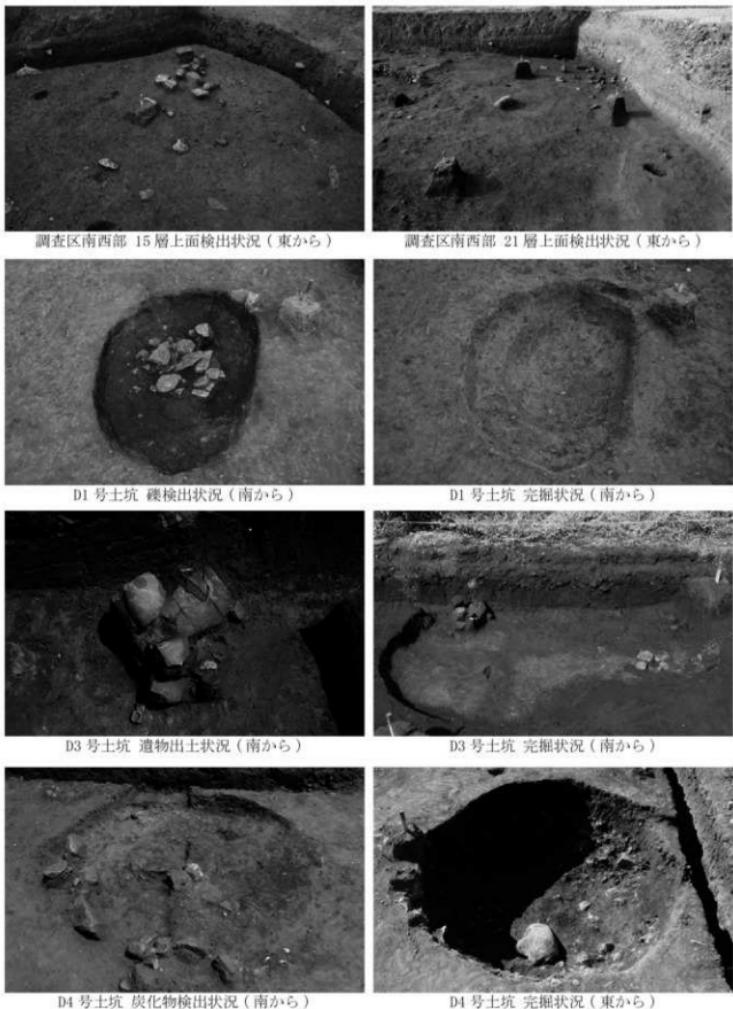
調査区南側完掘状況（西から）

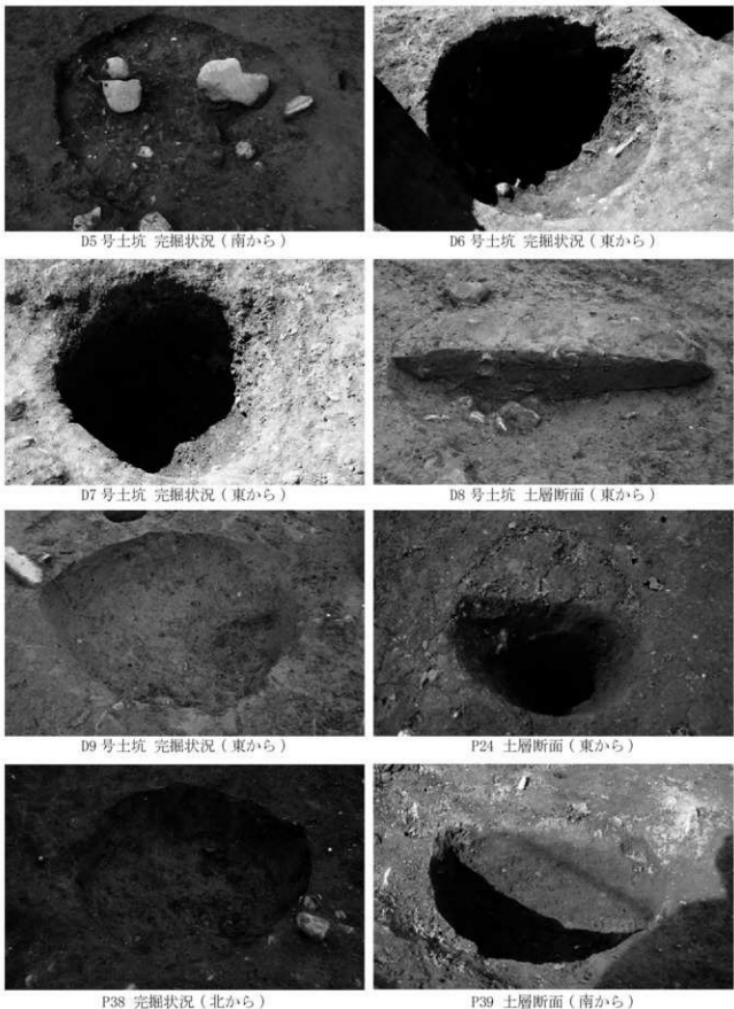


調査区北側完掘状況（東から）



調査区南側 河川跡完掘状況（北から）



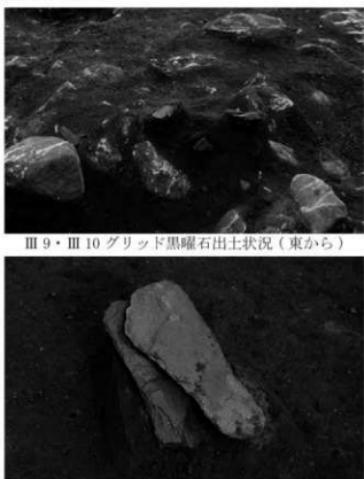




D10号土坑 完掘状況（西から）



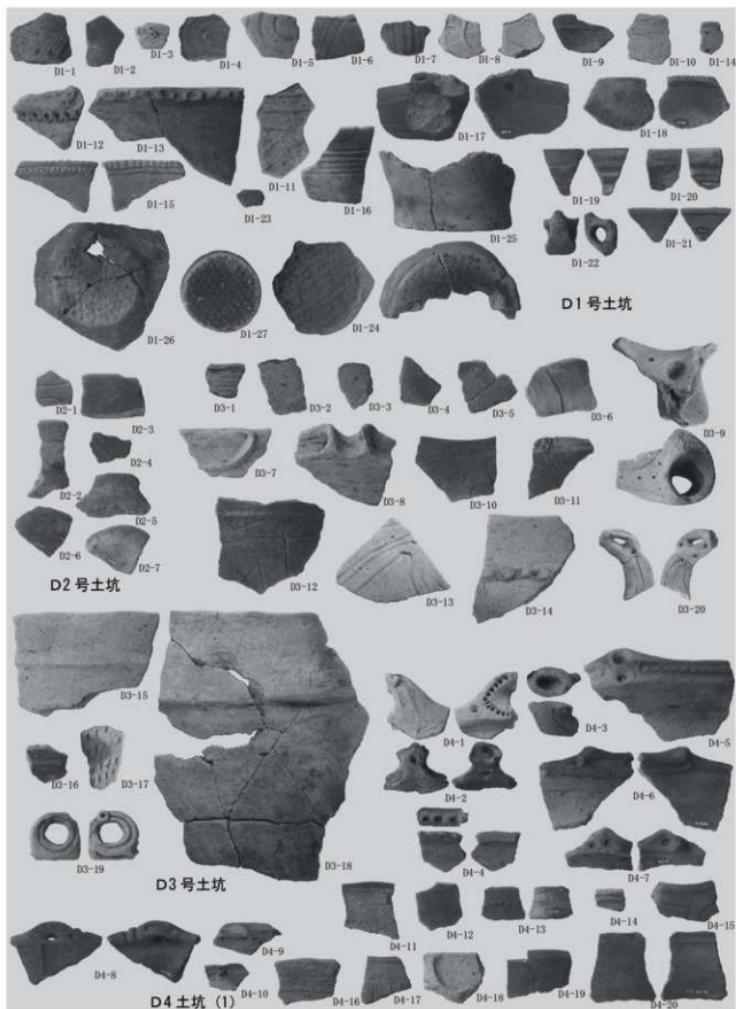
III 20 グリッド土器出土状況（北から）



III 9・III 10 グリッド黒曜石出土状況（東から）

图版 7

D
1
{
D
4
—
1

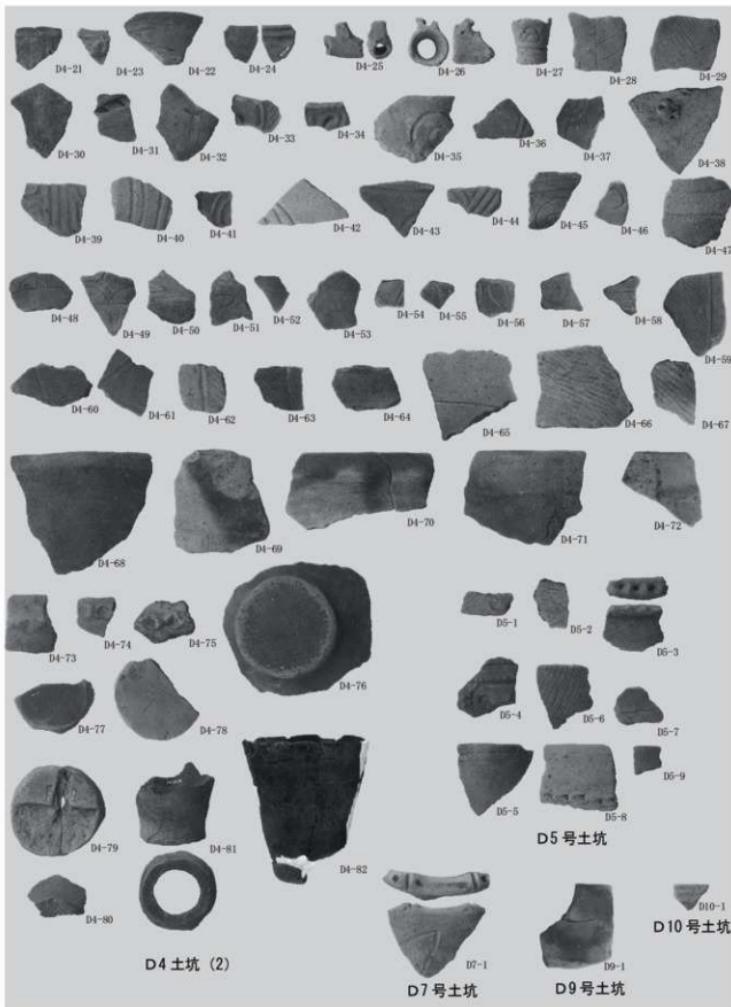


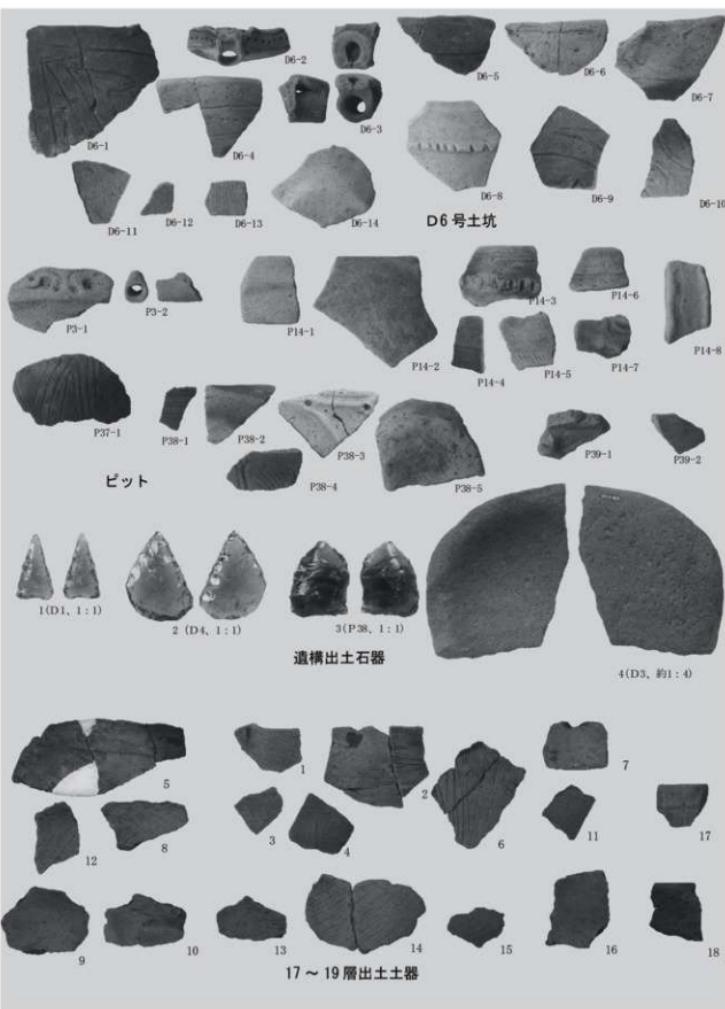
D1号土坑

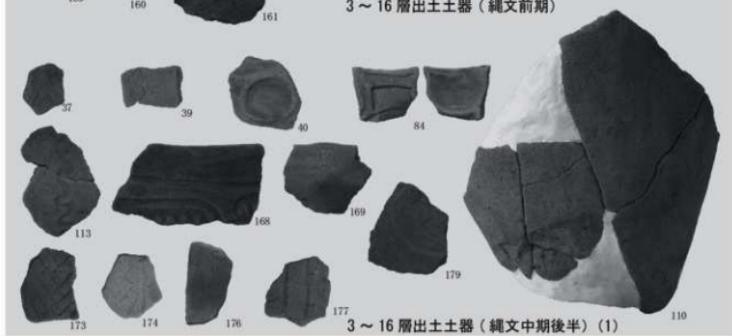
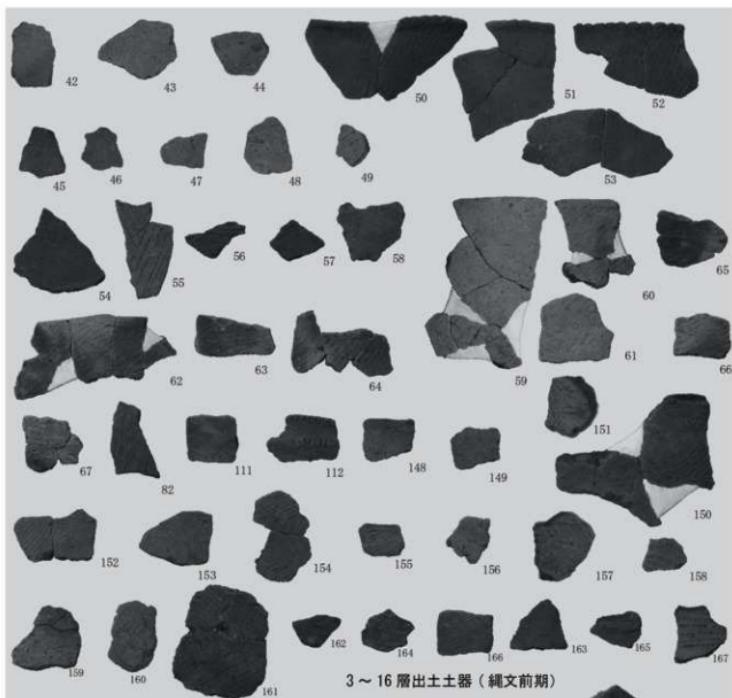
D2号土坑

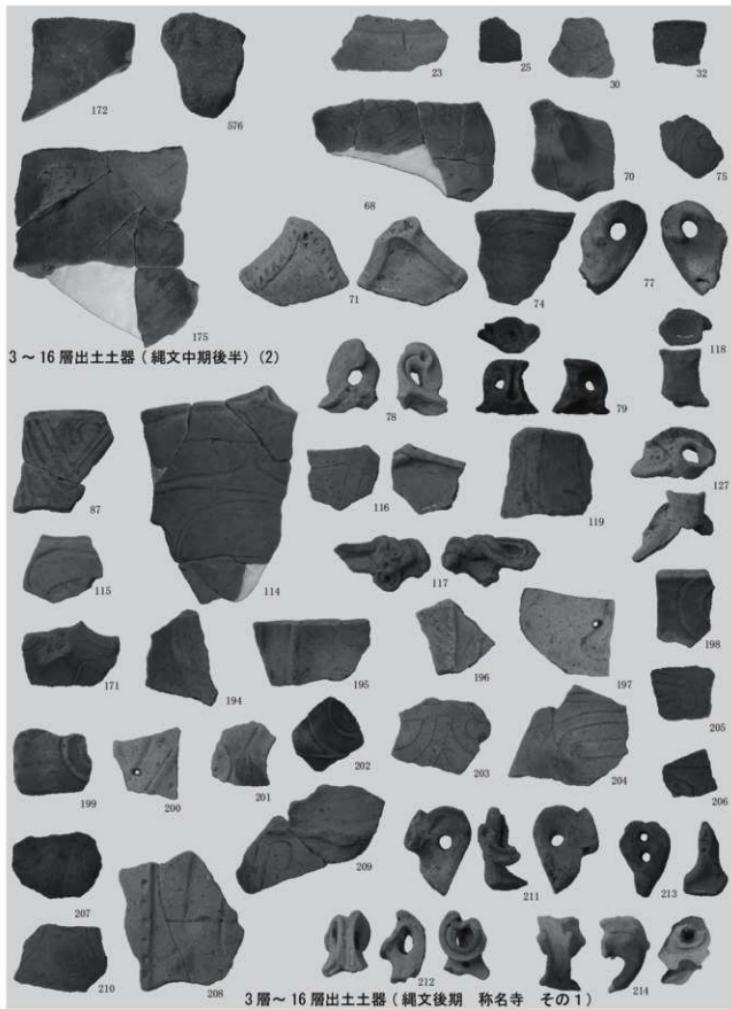
D3号土坑

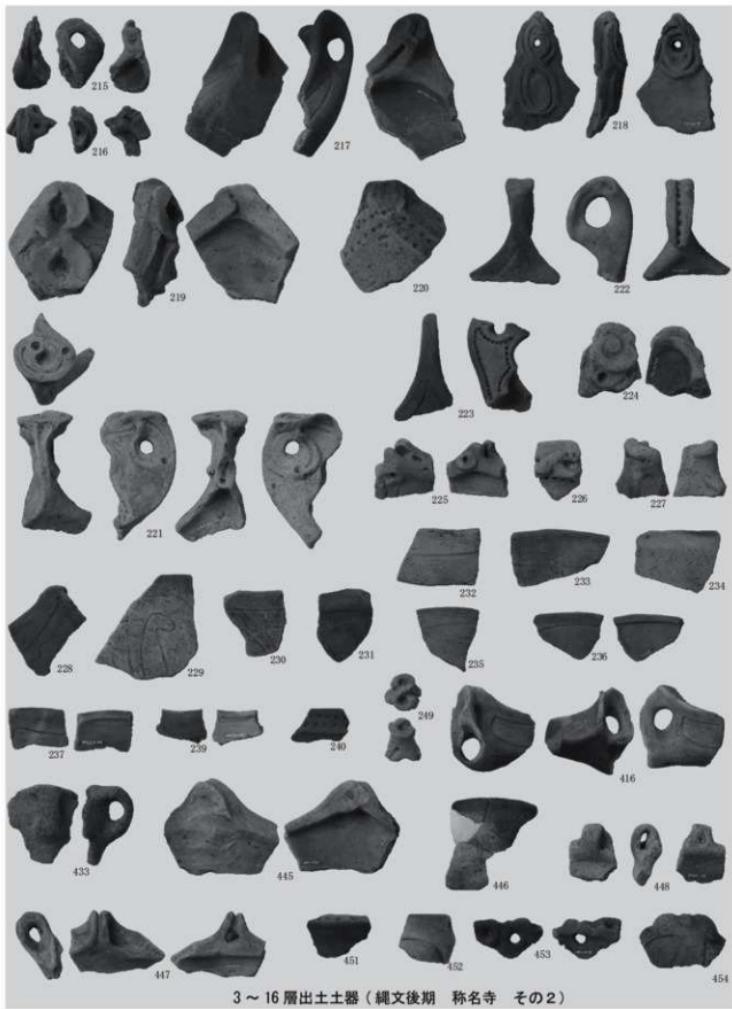
D4土坑 (1)





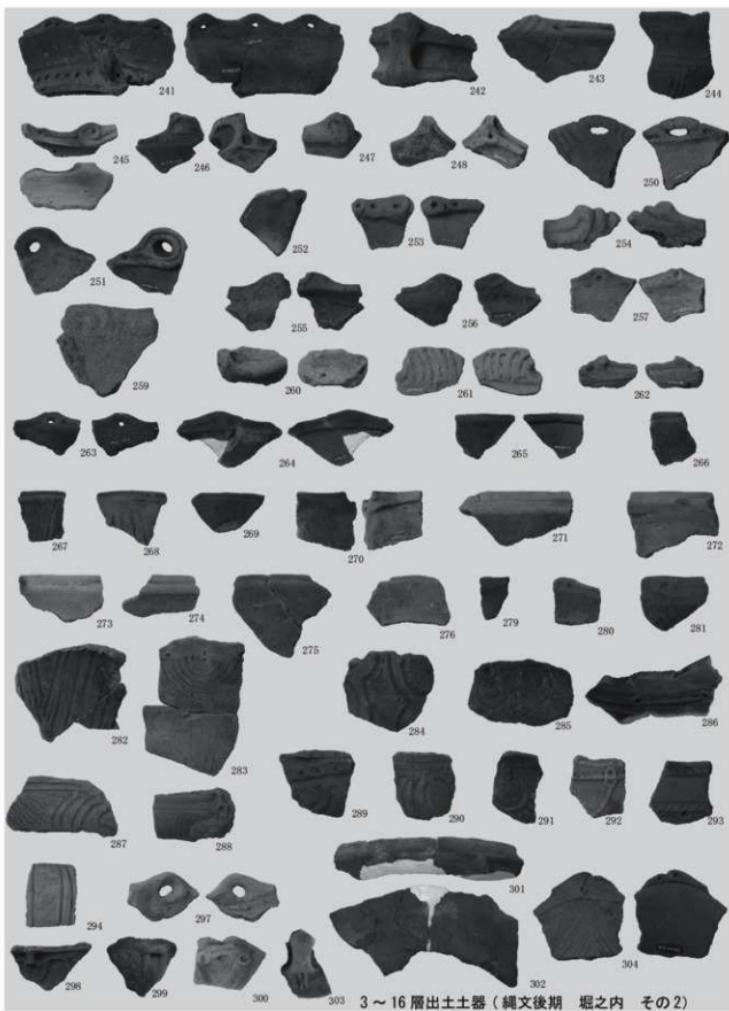






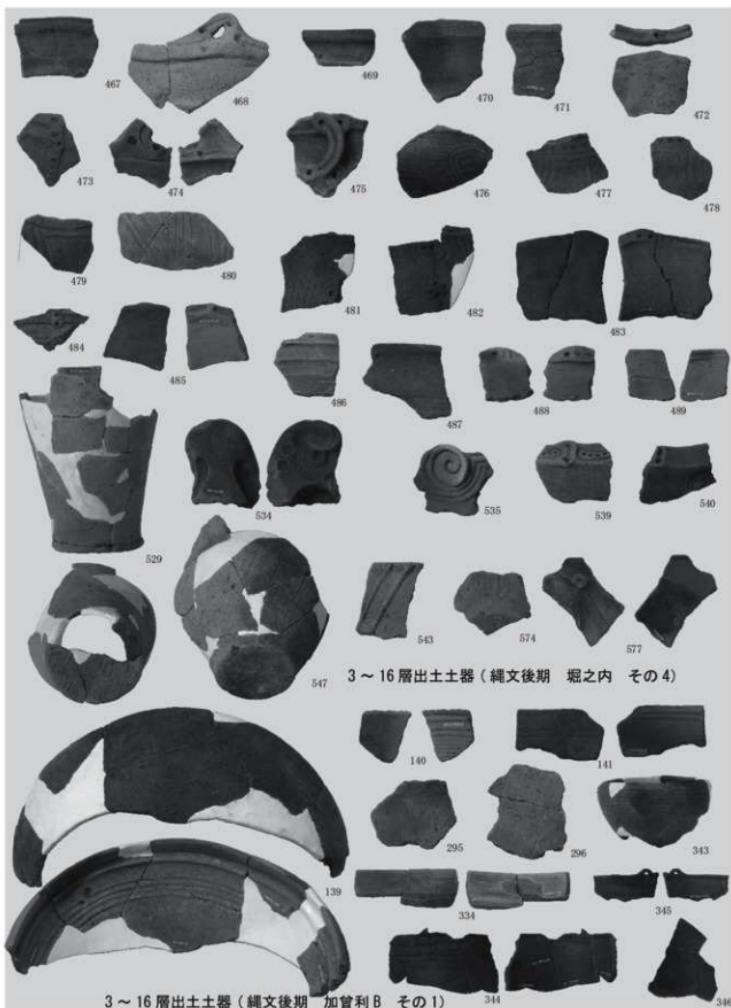
3～16層出土土器（縄文後期 称名寺 その2）

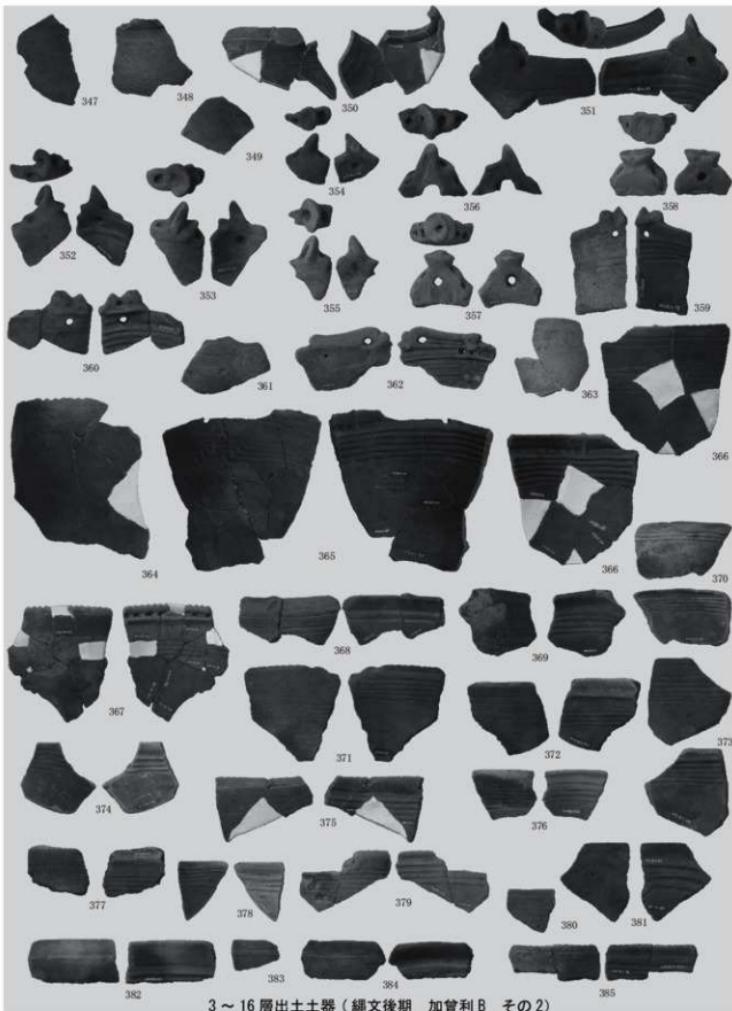




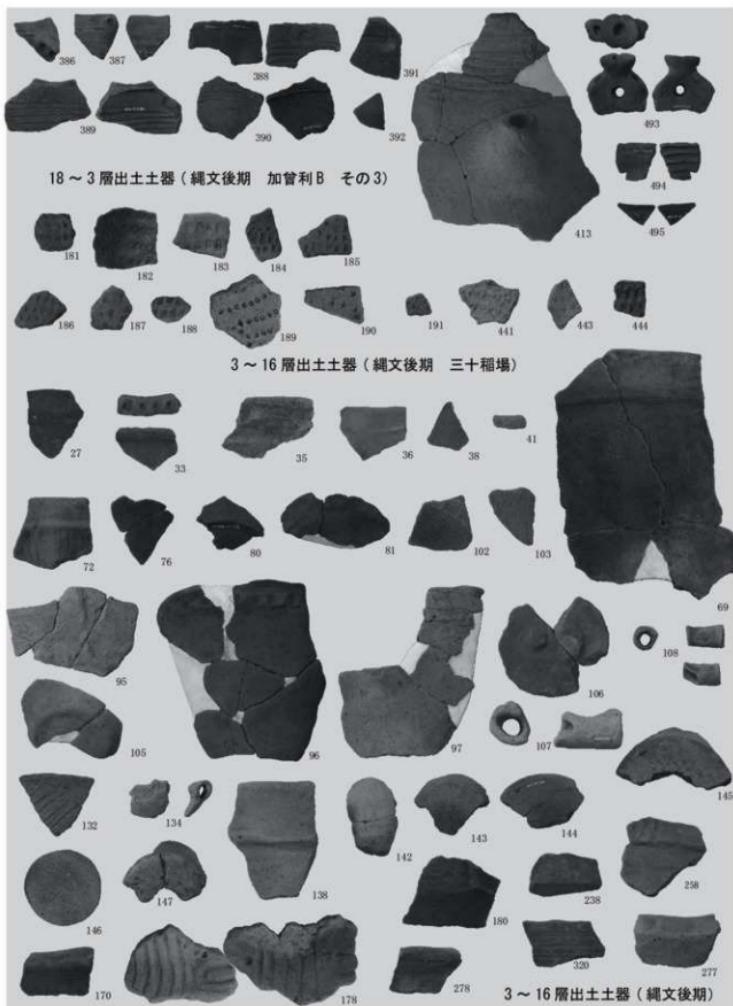


3～16層出土土器（縄文後期 堀之内 その3）





3～16層出土土器（縄文後期 加曾利B その2）

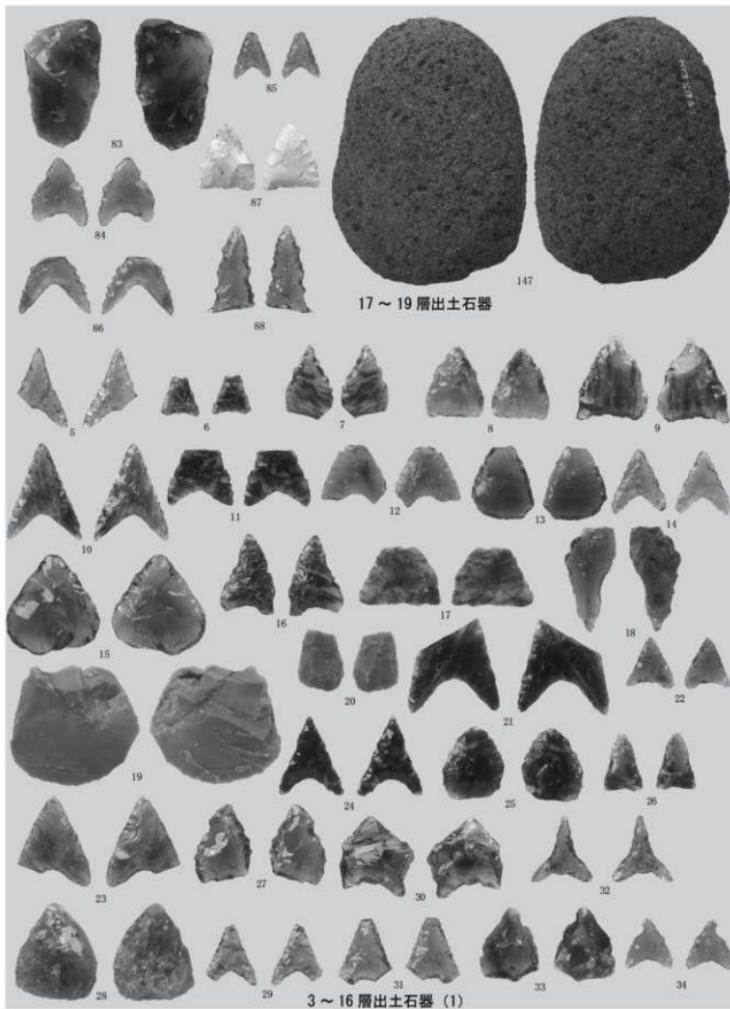


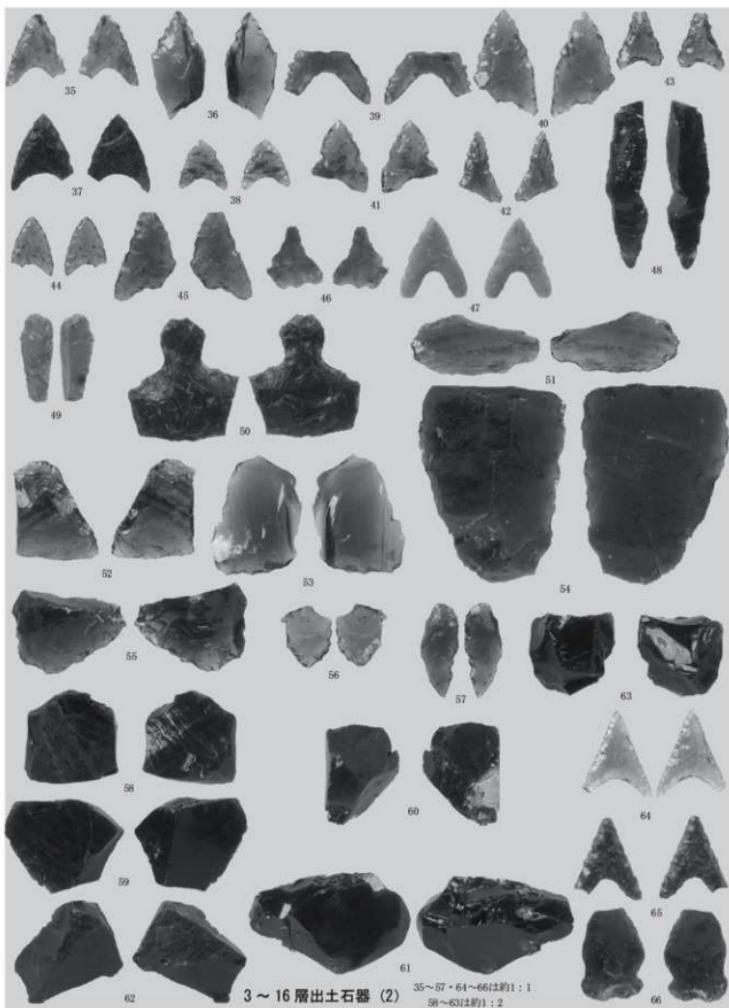


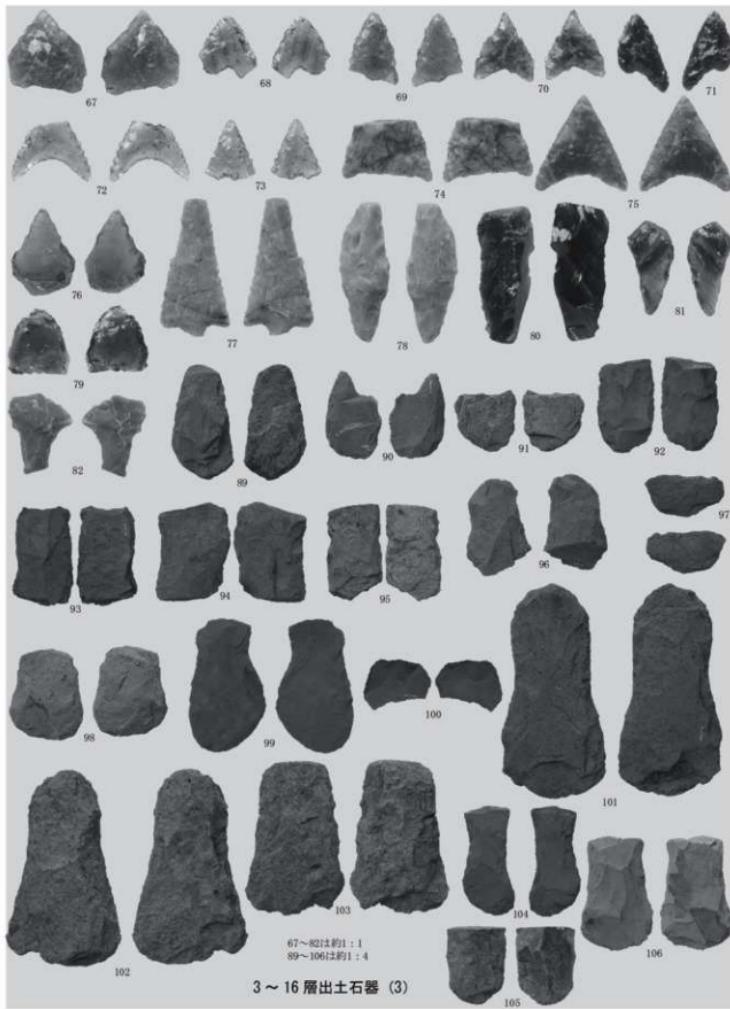
3 ~ 16 層出土土器 (縄文後期)



3 ~ 16 層出土土器（縄文後期土器群・土偶・円盤状土製品）



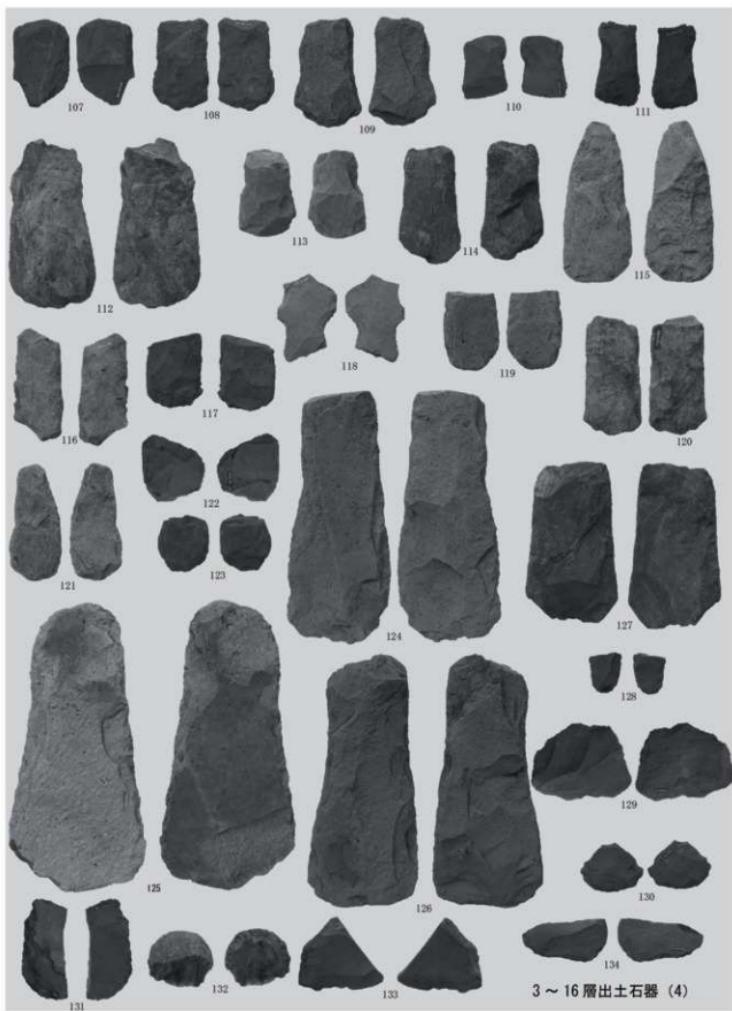




67~82(1:1)
89~106(1:4)

3 ~ 16層出土石器 (3)

105





参考文献

- 長野県埋蔵文化財センター 2001 『県单農道整備事業(ふるさと)大野田地区埋蔵文化財発掘調査報告書
一浅科村内・駒込遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書55
- 浅科村史編纂委員会 2005 『浅科村史』浅科村史刊行会
- 望月町誌編纂委員会 1994 『望月町誌 第三巻 歴史編一 原始・古代 中世編』 望月町誌刊行会
- 浅科村教育委員会 2001 『原遺跡』浅科村文化財調査報告第13集
- 浅科村教育委員会 2002 『海戸田A遺跡・保健センター建設事業にかかる発掘調査』浅科村文化財調査報告第14集
- 浅科村教育委員会 2003 『兜山古墳試掘調査報告書』浅科村文化財調査報告第15集
- 望月町教育委員会 1983 『後沖遺跡・蓼科山北麓における礪中期初頭・4世紀玉つくり工房址の調査』
『望月町文化財調査報告書第11集』
- 望月町教育委員会 1984 『竹之城原遺跡・淨永坊遺跡・浦谷B遺跡・緊急発掘調査報告書』望月町文化財調査報告書第13集
- 望月町教育委員会 1984 『胡桃沢・瓜生坂A・宮久保A・布施山寺A・岩井遺跡・緊急発掘調査報告書』
『望月町文化財調査報告書第14集』
- 望月町教育委員会 1986 『岩清水遺跡・緊急発掘調査報告書』望月町文化財調査報告書第16集
- 望月町教育委員会 1989 『平石遺跡・緊急発掘調査報告書』望月町文化財調査報告書第17集
- 望月町教育委員会 1991 『平石遺跡・第2次緊急発掘調査報告書』望月町文化財調査報告書第19集
- 望月町教育委員会 2005 『平石遺跡・第3次緊急発掘調査報告書』望月町文化財調査報告書第25集
- 佐久市教育委員会 1981 『舞台場』
- 佐久市教育委員会 1983 『中村』
- 佐久市教育委員会 1991 『立科F遺跡・ナイフ形石器文化成立期の集落研究』佐久市埋蔵文化財調査報告書第5集
- 佐久市教育委員会 1994 『筒村遺跡B・山法師遺跡B』佐久市埋蔵文化財調査報告書第29集
- 佐久市教育委員会 2001 『榛名平・坪の内遺跡群・榛名平遺跡』第1分冊 旧石器・繩文編佐久市埋蔵文化財調査報告書第84集
- 佐久市教育委員会 2016 『葉師平遺跡I』佐久市埋蔵文化財調査報告書第236集
- 佐久市教育委員会 2013 『猫田遺跡群・井戸尻遺跡・熊の堂遺跡』佐久市埋蔵文化財調査報告書第203集

報告書抄録

ふりがな 書名	やなぎさかいせきいち 柳坂遺跡 I							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 272 集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課 文化財事務所							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	令和 2 年 (2020 年) 3 月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド	北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積 (m ²)	調 原	査 因
やなぎさかいせき 柳坂遺跡 I	さくしふせ 佐久市布施 3692 外	市町村 20217	1091	36° 18' 39"	138° 23' 22"	20180711 ~ 20181107	730	道路 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
柳坂遺跡 I	散布地	縄文時代 奈良・平安時代	土 坑 10 基 ビット 36 基	縄文土器、須恵器、 円盤状土製品、土偶、 石鏃、石磬、石錐、削器、刃器、 打製石斧、磨製石斧、 鐵石、石皿、石棒				
要 約	佐久市西部の蓼科山麓、標高 760m 内外に展開する縄文時代後期を主体とする遺跡である。土坑やビットの遺構及び遺物包含層から、縄文時代前期から後期の土器・石器が出土した。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 272 集

柳坂遺跡 I

令和 2 年 (2020) 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込 2913

Tel:0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限会社